

## 2. 宇都宮市建設工事施工管理基準及び規格値

○土木工事施工管理基準	2 - 2
・出来形管理基準及び規格値	2 - 33
・品質管理基準及び規格値	2 -334
○建築・設備工事施工管理	2 -449
・工種別施工管理報告書	2 -449
・建築工事出来形基準	2 -455

# 土木工事施工管理基準及び規格値

## 目 次

### 土木工事施工管理基準

1. 目的	2-5
2. 適用	2-5
3. 構成	2-5
4. 管理の実施	2-5
5. 管理項目及び方法	2-5
6. 規格値	2-6
7. その他	2-7

### □出来型管理

#### 出来形管理基準及び規格値

#### 第1編 共通編

土 工	2-34
無筋, 鉄筋コンクリート	2-52

#### 第3編 土木工事共通編

一般施工	2-54
------	------

#### 第4編 公園編

植栽	2-276
----	-------

#### 第6編 河川編

築堤・護岸	2-278
樋門・樋管	2-280
水門	2-282
堰	2-282
排水機場	2-286
床止め・床固め	2-288

#### 第7編 道路編

道路改良	2-290
舗 装	2-294
橋梁下部	2-300
鋼橋上部	2-310

コンクリート橋上部	2-316
トンネル(NATM)	2-316
共同溝	2-324
電線共同溝	2-326
道路維持	2-330
道路修繕	2-332

## □品質管理

土木工事の施工にあたっては、設計図書や特記仕様書並びに土木工事共通仕様書、また各種指針・要項に明示されている材料の形状寸法、品質、規格等を十分満足し、かつ経済的に作り出すための管理を行う必要がある。

本基準は、それらの目的に合致した品質管理のための基本事項を示したものである。

## 品質管理基準及び規格値

1. セメント・コンクリート（転圧コンクリート・ 覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	2-335
2. プレキャストコンクリート製品（JIS I類）	2-343
3. プレキャストコンクリート製品（JIS II類）	2-343
4. プレキャストコンクリート製品（その他）	2-343
5. ガス圧接	2-349
6. 既製杭工	2-351
7. 下層路盤	2-353
8. 上層路盤工	2-357
9. アスファルト安定処理路盤	2-363
10. セメント安定処理路盤	2-365
11. アスファルト舗装	2-367
12. 転圧コンクリート	2-375
13. ゲースアスファルト舗装	2-381
14. 路床安定処理工	2-385
15. 表層安定処理工（表層混合処理）	2-387
16. 固結工	2-389
17. アンカー工	2-391
18. 補強土壁工	2-391
19. 吹付工	2-395
20. 現場吹付法砕工	2-401
21. 河川土工	2-407
22. 道路土工	2-409
23. 捨石工	2-413

24.	覆工コンクリート(NATM)	2-415
25.	吹付けコンクリート(NATM)	2-421
26.	ロックボルト(NATM)	2-425
27.	路上再生路盤工	2-427
28.	路上表層再生工	2-429
29.	排水性舗装工・透水性舗装工	2-433
30.	プラント再生舗装工	2-437
31.	工場製作工(鋼橋用鋼材)	2-441
32.	ガス切断工	2-441
33.	溶接工	2-443

注) なお、各表の右欄の「試験成績表等による確認」に「○」がついているものは、試験成績書やミルシート等によって品質を確保できる項目であるが、必要に応じて現場検収を実施する。空欄の項目については、必ず現場検収を実施する。

## 土木工事施工管理基準

この土木工事施工管理基準（以下、「管理基準」とする。）は、建設工事共通仕様書、第1編1-1-1-23「施工管理」に規定する土木工事の施工管理及び規格値の基準を定めたものである。

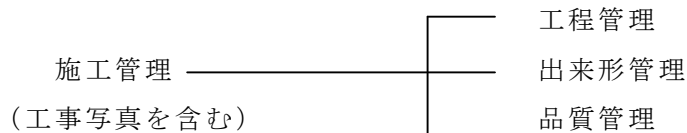
### 1. 目的

この管理基準は、土木工事の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

### 2. 適用

この管理基準は、宇都宮市が発注する土木工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準によりがたい場合、または、基準、規格値が定められていない工種については、監督職員と協議の上、施工管理を行うものとする。

### 3. 構成



### 4. 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行わなければならない。
- (3) 受注者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 受注者は、測定（試験）等の結果をその都度管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

### 5. 管理項目及び方法

#### (1) 工程管理

受注者は、工事内容に応じて適切な工程管理（ネットワーク、バーチャート方式など）を行うものとする。ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

## (2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表を作成し管理するものとする。

なお、測定基準において測定箇所数「〇〇につき1ヶ所」となっている項目については、小数点以下を切り上げた箇所数測定するものとする。

## (3) 品質管理

1) 受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

この品質管理基準の適用は、下記に挙げる工種(イ)、(ロ)の条件に該当する工事を除き、試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

また、試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定するものを実施するものとする。

### (イ) 路盤

維持工事等の小規模なもの(施工面積が1,000㎡以下のもの)

### (ロ) アスファルト舗装

維持工事等の小規模なもの(同一配合の合材が100t未満のもの)

2) なお、セメントコンクリートの適用に当たり、無筋コンクリート構造物のうち重力式橋台、橋脚及び重力式擁壁(高さ2.5mを超えるもの)については、鉄筋コンクリートに準ずるものとする。

3) レディーミクストコンクリートの品質を確かめるための検査(JISA5308)は、受注者が自らもしくは公的機関で行うものとする。現場付近に公的機関等の試験場が無い場合又は公的機関等で試験を行う日が休日となる場合等、やむを得ず生産者等に検査のための試験を代行させる場合は、監督職員の承諾を得るものとする。

4) 品質管理基準における舗装(路盤、アスファルト等)に関する摘要欄の舗装施工面積は投影面積とする。

5) 公的機関は下記のとおりである。

・コンクリートの強度試験及び鉄筋のガス圧接部の引張り試験等は下記の機関による。

(1) 公益財団法人とちぎ建設技術センター

(2) 株式会社中研コンサルタント 栃木技術センター

(3) 芳賀生コンクリート協同組合技術センター

## 6. 規 格 値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測(試験・検査・計測)値は、すべて規格値を満足しなければならない。

## 7. その他

### (1) 工事写真

受注者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を写真管理基準（案）により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督職員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

### (2) 3次元データによる出来形管理

土工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）」、「無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）」、「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（土工編）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）」の規定によるものとする。

また、舗装工において、3次元データを用いた出来形管理を行う場合は、管理基準のほか、「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（舗装工事編）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）」の規定によるものとする。

なお、ここでいう3次元データとは、工事目的物あるいは現地地形の形状を3次元空間上に再現するために必要なデータである。

【第1編 共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
<b>第2章 土工</b>						
第3節 河川土工	1-2-3-2	1	掘削工			2-34
	1-2-3-2	2	掘削工（面管理の場合）			2-36
	1-2-3-3	1	盛土工			2-38
	1-2-3-3	2	盛土工（面管理の場合）			2-40
	1-2-3-4		盛土補強工	補強土（テールメ）壁工法		2-42
				多数アンカー式補強土工法		〃
				ジオテキスタイルを用いた補強土工法		〃
	1-2-3-5		法面整形工	盛土部		〃
1-2-3-6		堤防天端工			〃	
第4節 道路土工	1-2-4-2	1	掘削工			2-44
	1-2-4-2	2	掘削工（面管理の場合）			2-46
	1-2-4-3	1	路体盛土工			2-48
	1-2-4-3	2	路体盛土工（面管理の場合）			2-50
	1-2-4-4	1	路床盛土工			2-48
	1-2-4-4	2	路床盛土工（面管理の場合）			2-50
	1-2-4-5		法面整形工	盛土部		2-52
<b>第3章 無筋、鉄筋コンクリート</b>						
第7節 鉄筋工	1-3-7-4		組立て			2-52



【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
<b>第2章 一般施工</b>						
<b>第3節 共通の工種</b>	3-2-3-4		矢板工(指定仮設・任意仮設は除く)	鋼矢板		2-54
				軽量鋼矢板		〃
				コンクリート矢板		〃
				広幅鋼矢板		〃
				可とう鋼矢板		〃
	3-2-3-5		縁石工	縁石・アスカープ		〃
	3-2-3-6		小型標識工			〃
	3-2-3-7		防止柵工	立入防止柵		2-56
				転落(横断)防止柵		〃
				車止めポスト		〃
	3-2-3-8	1	路側防護柵工	ガードレール		〃
		2	路側防護柵工	ガードケーブル		〃
	3-2-3-9		区画線工			2-58
	3-2-3-10		道路付属物工	視線誘導標		〃
				距離標		〃
	3-2-3-11		コンクリート面塗装工			〃
	3-2-3-12	1	プレテンション桁製作工(購入工)	けた橋		2-60
		2	プレテンション桁製作工(購入工)	スラブ桁		〃
	3-2-3-13	1	ポストテンション桁製作工			2-62
		2	プレキャストセグメント製作工	(購入工)		〃
	3-2-3-14		プレキャストセグメント主桁組立工			〃
	3-2-3-15		PCホロースラブ製作工			2-64
	3-2-3-16	1	PC箱桁製作工			〃
		2	PC押出し箱桁製作工			2-66
	3-2-3-17		根固めブロック工			〃
	3-2-3-18		沈床工			2-68
	3-2-3-19		捨石工			〃
	3-2-3-22		階段工			〃
	3-2-3-24	1	伸縮装置工	ゴムジョイント		〃
				鋼製フィンガージョイント		2-70
				埋設型ジョイント		〃
	3-2-3-26	1	多自然型護岸工	巨石張り、巨石積み		〃
		2	多自然型護岸工	かごマット		〃
	3-2-3-27	1	羽口工	じゃかご		2-72
2		羽口工	ふとんかご、かご枠		〃	
3-2-3-28		プレキャストカルバート工	プレキャストボックス工		〃	
			プレキャストパイプ工		〃	
3-2-3-29	1	側溝工	プレキャストU型側溝		2-74	
			L型側溝		〃	
			自由勾配側溝		〃	
			管渠		〃	
			場所打水路工		〃	
2	側溝工				〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第3節 共通の工種	3-2-3-29	3	側溝工	暗渠工		2-74
	3-2-3-30		集水枿工			2-76
	3-2-3-31		現場塗装工			〃
第4節 基礎工	3-2-4-1		一般事項	切込砂利		2-78
				砕石基礎工		〃
				割ぐり石基礎工		〃
				均しコンクリート		〃
	3-2-4-3	1	基礎工（護岸）	現場打		〃
				プレキャスト		〃
	3-2-4-4	1	既製杭工	既製コンクリート杭		2-80
				鋼管杭		〃
				H鋼杭		〃
		2	既製杭工	鋼管ソイルセメント杭		〃
	3-2-4-5		場所打杭工			〃
	3-2-4-6		深礎工			2-82
3-2-4-7		オープンケーソン基礎工			〃	
3-2-4-8		ニューマチックーツ基礎工			〃	
3-2-4-9		鋼管矢板基礎工			2-84	
第5節 石・ブロック積（張）工	3-2-5-3	1	コンクリートブロック工	コンクリートブロック積		〃
				コンクリートブロック張り		〃
				連節ブロック張り		〃
		2	コンクリートブロック工	天端保護ブロック		2-86
		3	コンクリートブロック工			〃
3-2-5-4		緑化ブロック工			〃	
3-2-5-5		石積（張）工			〃	
第6節 一般舗装工	3-2-6-7	1	アスファルト舗装工	下層路盤工		2-88
		2	アスファルト舗装工	下層路盤工（面管理の場合）		2-90
		3	アスファルト舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）		2-92
		4	アスファルト舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）（面管理の場合）		2-94
		5	アスファルト舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）		2-96
		6	アスファルト舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）（面管理の場合）		2-98
		7	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-100
		8	アスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工（面管理の場合）		2-102
		9	アスファルト舗装工	基層工		2-104
		10	アスファルト舗装工	基層工（面管理の場合）		2-106
		11	アスファルト舗装工	表層工		2-108
		12	アスファルト舗装工	表層工（面管理の場合）		2-110

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第6節 一般舗装工	3-2-6-8	1	半たわみ性舗装工	下層路盤工		2-112
		2	半たわみ性舗装工	下層路盤工（面管理の場合）		2-114
		3	半たわみ性舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）		2-116
		4	半たわみ性舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）（面管理の場合）		2-118
		5	半たわみ性舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）		2-120
		6	半たわみ性舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）（面管理の場合）		2-122
		7	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-124
		8	半たわみ性舗装工	加熱アスファルト安定処理工（面管理の場合）		2-126
		9	半たわみ性舗装工	基層工		2-128
		10	半たわみ性舗装工	基層工（面管理の場合）		2-130
		11	半たわみ性舗装工	表層工		2-132
		12	半たわみ性舗装工	表層工（面管理の場合）		2-134
	3-2-6-9	1	排水性舗装工	下層路盤工		2-136
		2	排水性舗装工	下層路盤工（面管理の場合）		2-138
		3	排水性舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）		2-140
		4	排水性舗装工	上層路盤工（粒度調整路盤工）（面管理の場合）		2-142
		5	排水性舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）		2-144
		6	排水性舗装工	上層路盤工（セメント（石灰）安定処理工）（面管理の場合）		2-146
		7	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-148
		8	排水性舗装工	加熱アスファルト安定処理工（面管理の場合）		2-150
		9	排水性舗装工	基層工		2-152
		10	排水性舗装工	基層工（面管理の場合）		2-154
		11	排水性舗装工	表層工		2-156
		12	排水性舗装工	表層工（面管理の場合）		2-158
	3-2-6-10	1	透水性舗装工	路盤工		2-160
		2	透水性舗装工	路盤工（面管理の場合）		2-162
		3	透水性舗装工	表層工		2-164
		4	透水性舗装工	表層工（面管理の場合）		2-166

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第6節 一般舗装工	3-2-6-11	1	グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工		2-168	
		2	グースアスファルト舗装工	加熱アスファルト安定処理工 (面管理の場合)		2-170	
		3	グースアスファルト舗装工	基層工		2-172	
		4	グースアスファルト舗装工	基層工 (面管理の場合)		2-174	
		5	グースアスファルト舗装工	表層工		2-176	
		6	グースアスファルト舗装工	表層工 (面管理の場合)		2-178	
	3-2-6-12	1	コンクリート舗装工	下層路盤工			2-180
		2	コンクリート舗装工	下層路盤工 (面管理の場合)			2-182
		3	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工			2-184
		4	コンクリート舗装工	粒度調整路盤工 (面管理の場合)			2-186
		5	コンクリート舗装工	セメント (石灰・瀝青) 安定処理工			2-188
		6	コンクリート舗装工	セメント (石灰・瀝青) 安定処理工 (面管理の場合)			2-190
		7	コンクリート舗装工	アスファルト中間層			2-192
		8	コンクリート舗装工	アスファルト中間層 (面管理の場合)			2-194
		9	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工			2-196
		10	コンクリート舗装工	コンクリート舗装版工 (面管理の場合)			2-198
		11	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (下層路盤工)			2-200
		12	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (下層路盤工) (面管理の場合)			2-202
		13	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (粒度調整路盤工)			2-204
		14	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (粒度調整路盤工) (面管理の場合)			2-206
		15	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)			2-208
		16	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工) (面管理の場合)			2-210
		17	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (アスファルト中間層)			2-212
		18	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)			2-214
		19	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工			2-216
		20	コンクリート舗装工	転圧コンクリート版工 (面管理の場合)			2-218
	3-2-6-13	1	薄層カラー舗装工	下層路盤工			2-220
		2	薄層カラー舗装工	上層路盤工 (粒度調整路盤工)			〃
		3	薄層カラー舗装工	上層路盤工 (セメント (石灰) 安定処理工)			2-222
		4	薄層カラー舗装工	加熱アスファルト安定処理工			〃
		5	薄層カラー舗装工	基層工			〃
	3-2-6-14	1	ブロック舗装工	下層路盤工			2-224
		2	ブロック舗装工	上層路盤工 (粒度調整路盤工)			〃
		3	ブロック舗装工	上層路盤工 (セメント (石灰) 安定処理工)			2-226
	3-2-6-14	4	ブロック舗装工	加熱アスファルト安定処理工			〃
		5	ブロック舗装工	基層工			〃
3-2-6-15		路面切削工				2-228	
3-2-6-16		舗装打換え工				〃	
3-2-6-17		オーバーレイ工				〃	

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第7節 地盤改良工	3-2-7-2		路床安定処理工			2-230	
			置換工			〃	
			表層安定処理工	サンドマット海上		2-232	
			パイルネット工			〃	
			サンドマット工			〃	
			パーチカルドレーン工	サンドドレーン工		2-234	
		ペーパードレーン工			〃		
		袋詰式サンドドレーン工			〃		
			3-2-7-8	締固め改良工	サトコソパクシヨナル工		〃
			3-2-7-9	固結工	粉末噴射攪拌工		〃
		高圧噴射攪拌工				〃	
スラリー攪拌工		〃					
生石灰パイル工		〃					
第10節 仮設工	3-2-10-5	1	土留・仮締切工	H鋼杭		2-236	
			鋼矢板		〃		
		2	土留・仮締切工	アンカー工		〃	
		3	土留・仮締切工	連節ブロック張り工		〃	
		4	土留・仮締切工	締切盛土		〃	
	5	土留・仮締切工	中詰盛土		2-238		
	3-2-10-9	地中連続壁工（壁式）			〃		
	3-2-10-10	地中連続壁工（柱列式）			〃		
3-2-10-22	法面吹付工			3-2-14-3吹付工	2-264		
第11節 軽量盛土工	3-2-11-2		軽量盛土工		1-2-4-3路体盛土工	2-48	
第12節 工場製作工 （共通）	3-2-12-1	1	一般事項	鋳造費（金属支承工）		2-240	
		2	一般事項	鋳造費（大型ゴム支承工）		2-242	
		3	一般事項	仮設材製作工		2-244	
		4	一般事項	刃口金物製作工		〃	
	3-2-12-3	1	桁製作工	仮組検査を実施する場合		2-246	
				シミュレーション仮組検査を実施する場合		〃	
		2	桁製作工	仮組検査を実施しない場合		2-250	
	3	桁製作工	鋼製堰堤製作工（仮組立時）		2-252		
3-2-12-4		検査路製作工			2-256		

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第12節 工場製作工 (共通)	3-2-12-5		鋼製伸縮継手製作工			2-256
	3-2-12-6		落橋防止装置製作工			〃
	3-2-12-7		橋梁用防護柵製作工			〃
	3-2-12-8		アンカーフレーム製作工			2-258
	3-2-12-9		プレビーム用桁製作工			〃
	3-2-12-10		鋼製排水管製作工			〃
	3-2-12-11		工場塗装工			2-260
第13節 橋梁架設工	3-2-13		架設工(鋼橋)	クレーン架設		2-262
				ケーブルクレーン架設		〃
				ケーブルエレクション架設		〃
				架設桁架設		〃
				送出し架設		〃
				トラベラークレーン架設		〃
	3-2-13		架設工(コンクリート橋)	クレーン架設		2-264
				架設桁架設		〃
				架設工支保工	固定	〃
				移動		〃
				架設桁架設	片持架設	〃
			押出し架設		〃	
第14節 法面工(共通)	3-2-14-2	1	植生工	種子散布工		〃
				張芝工		〃
				筋芝工		〃
				市松芝工		〃
				植生シート工		〃
				植生マット工		〃
				植生筋工		〃
				人工張芝工		〃
				植生穴工		〃
				客土吹付工		〃
	3-2-14-3		吹付工(仮設を含む)	コンクリート		2-266
				モルタル		〃
	3-2-14-4	1	法枠工	現場打法枠工		2-268
				現場吹付法枠工		〃
	2	法枠工	プレキャスト法枠工		〃	
3-2-14-6		アンカー工			〃	
第15節 擁壁工(共通)	3-2-15-1		一般事項	場所打擁壁工		2-270
	3-2-15-2		プレキャスト擁壁工			〃

【第3編 土木工事共通編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第15節 擁壁工（共通）	3-2-15-3		補強土壁工	補強土（テールアルメ）壁工法		2-272
				多数アンカー式補強土工法		〃
				ジオテキスタイルを用いた補強土工法		〃
	3-2-15-4		井桁ブロック工			〃
第18節 床版工	3-2-18-2		床版工			2-274

【第4編 公園編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
公園工関係						
			高木植栽工			2-276
			中低木植栽工			〃

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
<b>第1章 築堤・護岸</b>							
第3節 計量盛土工	6-1-3-1		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48	
第4節 地盤改良工	6-1-4-2		表層安定処理工		3-2-7-4 表層安定処理工	2-232	
	6-1-4-3		パイルネット工		3-2-7-5 パイルネット	〃	
	6-1-4-4		バーチカルドレーン工		3-2-7-7 バーチカルドレーン工	2-234	
	6-1-4-5		締固め改良工		3-2-7-8 締固め改良工	〃	
	6-1-4-6		固結工		3-2-7-9 固結工	〃	
第5節 護岸基礎工	6-1-5-3		基礎工		3-2-4-3 基礎工（護岸）	2-78	
	6-1-5-4		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54	
第6節 矢板護岸工	6-1-6-3		笠コンクリート工		3-2-4-3 基礎工（護岸）	2-78	
	6-1-6-4		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54	
第7節 法覆護岸工	6-1-7-3		コンクリートブロック工		3-2-5-3 コンクリートブロック工	2-84	
	6-1-7-4		護岸付属物工			2-278	
	6-1-7-5		緑化ブロック工		3-2-5-4 緑化ブロック工	2-86	
	6-1-7-6		環境護岸ブロック工		3-2-5-3 コンクリートブロック工	2-84	
	6-1-7-7		石積（張）工		3-2-5-5 石積（張）工	2-86	
	6-1-7-8		法枠工		3-2-14-4 法枠工	2-268	
	6-1-7-9		多自然型護岸工	巨石張り		3-2-3-26 多自然型護岸工	2-70
				巨石積み		3-2-3-26 多自然型護岸工	〃
				かごマット		3-2-3-26 多自然型護岸工	〃
	6-1-7-10		吹付工		3-2-14-3 吹付工	2-266	
	6-1-7-11		植生工		3-2-14-2 植生工	2-264	
	6-1-7-12		覆土工		1-2-3-5 法面整形工	2-42	
	6-1-7-13		羽口工	じゃかご		3-2-3-27 羽口工	2-72
ふとんかご					3-2-3-27 羽口工	〃	
かご枠					3-2-3-27 羽口工	〃	
連節ブロック張り					3-2-5-3 連節ブロック張り	2-84	
第8節 擁壁護岸工	6-1-8-3		場所打擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270	
	6-1-8-4		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2 プレキャスト擁壁工	〃	
第9節 根固め工	6-1-9-3		根固めブロック工		3-2-3-17 根固めブロック工	2-66	
	6-1-9-5		沈床工		3-2-3-18 沈床工	2-68	
	6-1-9-6		捨石工		3-2-3-19 捨石工	〃	
	6-1-9-7		かご工	じゃかご		3-2-3-27 羽口工	2-72
ふとんかご					3-2-3-27 羽口工	〃	
第10節 水制工	6-1-10-3		沈床工		3-2-3-18 沈床工	2-68	
	6-1-10-4		捨石工		3-2-3-19 捨石工	〃	
	6-1-10-5		かご工	じゃかご		3-2-3-27 羽口工	2-72
				ふとんかご		3-2-3-27 羽口工	〃
6-1-10-8		杭出し水制工			2-278		
第11節 付帯道路工	6-1-11-3		路側防護柵工		3-2-3-8 路側防護柵工	2-56	
	6-1-11-5		アスファルト舗装工		3-2-6-7 アスファルト舗装工	2-88	
	6-1-11-6		コンクリート舗装工		3-2-6-12 コンクリート舗装工	2-180	



【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁		
第11節 付帯道路工	6-1-11-7		薄層カラー舗装工		3-2-6-13薄層カラー舗装工	2-220		
	6-1-11-8		ブロック舗装工		3-2-6-14ブロック舗装工	2-224		
	6-1-11-9		側溝工		3-2-3-29側溝工	2-74		
	6-1-11-10		集水柵工		3-2-3-30集水柵工	2-76		
	6-1-11-11		縁石工		3-2-3-5縁石工	2-54		
	6-1-11-12		区画線工		3-2-3-9区画線工	2-58		
第12節 付帯道路施設工	6-1-12-3		道路付属物工		3-2-3-10道路付属物工	〃		
	6-1-12-4		標識工		3-2-3-6小型標識工	2-54		
第13節 光ケーブル配管工	6-1-13-3		配管工			2-278		
	6-1-13-4		ハンドホール工			2-280		
第3章 樋門・樋管								
第3節 軽量盛土工	6-3-3-2		軽量盛土工		1-2-4-3路体盛土工	2-48		
第4節 地盤改良工	6-3-4-2		固結工		3-2-7-9固結工	2-234		
第5節 樋門・樋管本体工	6-3-5-3		既製杭工		3-2-4-4既製杭工	2-80		
	6-3-5-4		場所打杭工		3-2-4-5場所打杭工	〃		
	6-3-5-5		矢板工		3-2-3-4矢板工	2-54		
	6-3-5-6	1	函渠工	本體工			2-280	
				ヒューム管			〃	
				PC管			〃	
				コルゲートパイプ			〃	
				ダクタイル鋳鉄管			〃	
	2	函渠工	PC函渠	3-2-3-28プレキャストカルハート工	2-72			
6-3-5-7				翼壁工		2-282		
6-3-5-8				水叩工		〃		
第6節 護床工			6-3-6-3		根固めブロック工		3-2-3-17根固めブロック工	2-66
			6-3-6-5		沈床工		3-2-3-18沈床工	2-68
	6-3-6-6		捨石工		3-2-3-19捨石工	〃		
	6-3-6-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27羽口工	2-72		
ふとんかご				3-2-3-27羽口工	〃			
第7節 水路工	6-3-7-3		側溝工		3-2-3-29側溝工	2-74		
	6-3-7-4		集水柵工		3-2-3-30集水柵工	2-76		
	6-3-7-5		暗渠工		3-2-3-29暗渠工	2-74		
	6-3-7-6		樋門接続暗渠工		3-2-3-28プレキャストカルハート工 暗渠工	2-72		
第8節 付属物設置工	6-3-8-3		防止柵工		3-2-3-7防止柵工	2-56		
	6-3-8-7		階段工		3-2-3-22階段工	2-68		
第4章 水門								
第3節 工場製作工	6-4-3-3		桁製作工		3-2-12-3桁製作工用工	2-246		

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第3節 工場製作工	6-4-3-4		鋼製伸縮継手製作工		3-2-12-5 鋼製伸縮継手製作工	2-256
	6-4-3-5		落橋防止装置製作工		3-2-12-6 落橋防止装置製作工	〃
	6-4-3-6		鋼製排水管製作工		3-2-12-10 鋼製排水管製作工	2-258
	6-4-3-7		橋梁用防護柵製作工		3-2-12-7 橋梁用防護柵製作工	2-256
	6-4-3-9		仮設材製作工		3-2-12-1 仮設材製作工	2-240
	6-4-3-10		工場塗装工		3-2-12-11 工場塗装工	2-260
第5節 軽量盛土工	6-4-5-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48
第6節 水門本體工	6-4-6-4		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	6-4-6-5		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	6-4-6-6		矢板工 (遮水矢板)		3-2-3-4 矢板工	2-54
	6-4-6-7		床版工			2-282
	6-4-6-8		堰柱工			〃
	6-4-6-9		門柱工			〃
	6-4-6-10		ゲート操作台工			〃
	6-4-6-11		胸壁工			〃
	6-4-6-12		翼壁工		6-3-5-7 翼壁工	〃
6-4-6-13		水叩工		6-3-5-8 水叩工	〃	
第7節 護床工	6-4-7-3		根固めブロック工		3-2-3-17 根固めブロック工	2-66
	6-4-7-5		沈床工		3-2-3-18 沈床工	2-68
	6-4-7-6		捨石工		3-2-3-19 捨石工	〃
	6-4-7-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27 羽口工	2-72
ふとんかご				3-2-3-27 羽口工	〃	
第8節 付属物設置工	6-4-8-3		防止柵工		3-2-3-7 防止柵工	2-56
	6-4-8-8		階段工		3-2-3-22 階段工	2-68
第9節 鋼管理橋上部工	6-4-9-4		架設工 (クレーン架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	2-262
	6-4-9-5		架設工 (ケーブルクレーン架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	6-4-9-6		架設工 (ケーブルエレクション架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	6-4-9-7		架設工 (架設桁架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	6-4-9-8		架設工 (送出し架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	6-4-9-9		架設工 (トラバークレーン架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	6-4-9-10		支承工		7-4-5-10 支承工	2-310
第10節 橋梁現場塗装工	6-4-10-2		現場塗装工		3-2-3-31 現場塗装工	2-76
第11節 床版工	6-4-11-2		床版工		3-2-18-2 床版工	2-274
第12節 橋梁付属物工 (鋼管理橋)	6-4-12-2		伸縮装置工		3-2-3-24 伸縮装置工	2-68
	6-4-12-4		地覆工		7-4-8-5 地覆工	2-314
	6-4-12-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	6-4-12-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	6-4-12-7		検査路工		7-4-8-8 検査路工	〃
第14節 コンクリート 管理橋上部工 (PC橋)	6-4-14-2		プレテンション桁製作工 (購入工)		3-2-3-12 <sup>ア</sup> プレテンション桁製作工 (購入工)	2-60

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第14節 コンクリート 管理橋上部工 (PC橋)	6-4-14-3		ポストテンション桁製作工		3-2-3-13 <sup>ホ</sup> ステテンション桁製作工	2-62
	6-4-14-4		プレキャストセグメント製作工(購入工)		3-2-3-13 <sup>ア</sup> レキャストセグメント製作工(購入工)	〃
	6-4-14-5		プレキャストセグメント主桁組立工		3-2-3-14 <sup>ア</sup> レキャストセグメント主桁組立工	〃
	6-4-14-6		支承工		7-4-5-10支承工	2-310
	6-4-14-7		架設工(クレーン架設)		3-2-13 架設工(コンクリート橋)	2-264
	6-4-14-8		架設工(架設桁架設)		3-2-13 架設工(コンクリート橋)	〃
	6-4-14-9		床版・横組工		3-2-18-2床版工	2-274
	6-4-14-10		落橋防止装置工		7-4-8-3落橋防止装置工	2-312
第15節 コンクリート 管理橋上部工 (PCホロスラブ橋)	6-4-15-2		支承工		7-4-5-10支承工	2-310
	6-4-15-4		落橋防止装置工		7-4-8-3落橋防止装置工	2-312
	6-4-15-5		PCホロスラブ製作工		3-2-3-15PCホロスラブ製作工	2-64
第16節 橋梁付属物工 (コンクリート管理橋)	6-4-16-2		伸縮装置工		3-2-3-24伸縮装置工	2-68
	6-4-16-4		地覆工		7-4-8-5地覆工	2-314
	6-4-16-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6橋梁用防護柵工	〃
	6-4-16-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7橋梁用高欄工	〃
	6-4-16-7		検査路工		7-4-8-8検査路工	〃
第18節 舗装工	6-4-18-5		アスファルト舗装工		3-2-6-7アスファルト舗装工	2-88
	6-4-18-6		半たわみ性舗装工		3-2-6-8半たわみ性舗装工	2-112
	6-4-18-7		排水性舗装工		3-2-6-9排水性舗装工	2-136
	6-4-18-8		透水性舗装工		3-2-6-10透水性舗装工	2-160
	6-4-18-9		グースアスファルト舗装工		3-2-6-11 <sup>グ</sup> ースアスファルト舗装工	2-168
	6-4-18-10		コンクリート舗装工		3-2-6-12コンクリート舗装工	2-180
	6-4-18-11		薄層カラー舗装工		3-2-6-13薄層カラー舗装工	2-220
	6-4-18-12		ブロック舗装工		3-2-6-14ブロック舗装工	2-224
第5章 堰						
第3節 工場製作工	6-5-3-3		刃口金物製作工		3-2-12-1刃口金物製作工	2-240
	6-5-3-4		桁製作工		3-2-12-3桁製作工	2-246
	6-5-3-5		検査路製作工		3-2-12-4検査路製作工	2-256
	6-5-3-6		鋼製伸縮継手製作工		3-2-12-5鋼製伸縮継手製作工	〃
	6-5-3-7		落橋防止装置製作工		3-2-12-6落橋防止装置製作工	〃
	6-5-3-8		鋼製伸縮継手製作工		3-2-12-10鋼製排水管製作工	2-258
	6-5-3-9		プレビーム用桁製作工		3-2-12-9 <sup>ア</sup> レビーム用桁製作工	〃
	6-5-3-10		橋梁用防護柵製作工		3-2-12-7橋梁用防護柵製作工	2-256
	6-5-3-12		アンカーフレーム製作工		3-2-12-8アンカーフレーム製作工	2-258

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第3節 工場製作工	6-5-3-13		仮設材製作工		3-2-12-1 仮設材製作工	2-240
	6-5-3-14		工場塗装工		3-2-12-11 工場塗装工	2-260
第5節 軽量盛土工	6-5-5-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48
第6節 可動堰本体工	6-5-6-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	6-5-6-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	6-5-6-5		オープンケーソン基礎工		3-2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-82
	6-5-6-6		ニューマチックケーソン基礎工		3-2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	〃
	6-5-6-7		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54
	6-5-6-8		床版工		6-4-6-7 床版工	2-282
	6-5-6-9		堰柱工		6-4-6-8 堰柱工	〃
	6-5-6-10		門柱工		6-4-6-9 門柱工	〃
	6-5-6-11		ゲート操作台工		6-4-6-10 ゲート操作台工	〃
	6-5-6-12		水叩工		6-3-5-8 水叩工	〃
	6-5-6-13		閘門工			〃
	6-5-6-14		土砂吐工			〃
	6-5-6-15		取付擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270
第7節 固定堰本体工	6-5-7-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	6-5-7-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	6-5-7-5		オープンケーソン基礎工		3-2-4-7 オープンケーソン基礎工	2-82
	6-5-7-6		ニューマチックケーソン基礎工		3-2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	〃
	6-5-7-7		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54
	6-5-7-8		堰柱工		6-4-6-8 堰柱工	2-282
	6-5-7-9		水叩工		6-3-5-8 水叩工	〃
	6-5-7-10		土砂吐工			〃
	6-5-7-11		取付擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270
	第8節 魚道工	6-5-8-3		魚道本体工		
第9節 管理橋下部工	6-5-9-2		管理橋橋台工			2-284
第10節 鋼管理橋上部工	6-5-10-4		架設工(クレーン架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	2-262
	6-5-10-5		架設工(ケーブルクレーン架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	〃
	6-5-10-6		架設工(ケーブルエクステンション架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	〃
	6-5-10-7		架設工(架設桁架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	〃
	6-5-10-8		架設工(送出し架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	〃
	6-5-10-9		架設工(トラベラークレーン架設)		3-2-13 架設工(鋼橋)	〃
	6-5-10-10		支承工		7-4-5-10 支承工	2-310
第11節 橋梁現場塗装工	6-5-11-2		現場塗装工		3-2-3-31 現場塗装工	2-76
第12節 床版工	6-5-12-2		床版工		3-2-18-2 床版工	2-274
第13節 橋梁付属物工(鋼管理橋)	6-5-13-2		伸縮装置工		3-2-3-24 伸縮装置工	2-68
	6-5-13-4		地覆工		7-4-8-5 地覆工	2-314

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第13節 橋梁付属物工 (鋼管理橋)	6-5-13-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6 橋梁用防護柵工	2-314
	6-5-13-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	6-5-13-7		検査路工		7-4-8-8 検査路工	〃
第15節 コンクリート 管理橋上部工 (PC橋)	6-5-15-2		プレテンション桁製作工(購入工)		3-2-3-12 <sup>ア</sup> プレテンション桁製作工(購入工)	2-60
	6-5-15-3		ポストテンション桁製作工		3-2-3-13 <sup>ホ</sup> ポストテンション桁製作工	〃
	6-5-15-4		プレキャストセグメント製作工(購入工)		3-2-3-13 <sup>ア</sup> プレキャストセグメント製作工(購入工)	2-62
	6-5-15-5		プレキャストセグメント主桁組立工		3-2-3-14 <sup>ア</sup> プレキャストセグメント主桁組立工	〃
	6-5-15-6		支承工		7-4-5-10 支承工	2-312
	6-5-15-7		架設工(クレーン架設)		3-2-13 架設工(コンクリート橋)	2-264
	6-5-15-8		架設工(架設桁架設)		3-2-13 架設工(コンクリート橋)	〃
	6-5-15-9		床版・横組工		3-2-18-2 床版工	2-274
	6-5-15-10		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
	第16節 コンクリート 管理橋上部工 (PCホロース ラブ橋)	6-5-16-3		支承工		7-4-5-10 支承工
6-5-16-4			落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	〃
6-5-16-5			PCホロースラブ製作工		3-2-3-15 <sup>PCホロースラブ</sup> 製作工	2-64
第17節 コンクリート 管理橋上部工 (PC箱桁橋)	6-5-17-3		支承工		7-4-5-10 支承工	2-312
	6-5-17-4		PC箱桁製作工		3-2-3-16 PC箱桁製作工	2-64
	6-5-17-5		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第18節 橋梁付属物工 (コンクリート 管理橋)	6-5-18-2		伸縮装置工		3-2-3-24 伸縮装置工	2-68
	6-5-18-4		地覆工		7-4-8-5 地覆工	2-314
	6-5-18-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	6-5-18-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	6-5-18-7		検査路工		7-4-8-8 検査路工	〃
第20節 付属物設置工	6-5-20-3		防止柵工		3-2-3-7 防止柵工	2-56
	6-5-20-7		階段工		3-2-3-22 階段工	2-68
第6章 排水機場						
第3節 軽量盛土工	6-6-3-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48
第4節 機場本体工	6-6-4-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-840
	6-6-4-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	6-6-4-5		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54
	6-6-4-6		本体工			2-286
	6-6-4-7		燃料貯油槽工			〃
第5節 沈砂池工	6-6-5-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第5節 沈砂池工	6-6-5-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	2-80	
	6-6-5-5		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54	
	6-6-5-6		場所打擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270	
	6-6-5-7		コンクリート床版工			2-286	
	6-6-5-8		ブロック床版工		3-2-3-17根固めブロック工	2-66	
	6-6-5-9		場所打水路工		3-2-3-29場所打水路工	2-74	
第6節 吐出水槽工	6-6-6-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80	
	6-6-6-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃	
	6-6-6-5		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54	
	6-6-6-6		本体工		6-6-4-6 本体工	2-286	
第7章 床止め・床固め							
第3節 軽量盛土工	6-7-3-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48	
第4節 床止め工	6-7-4-4		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80	
	6-7-4-5		矢板工		3-2-3-4 矢板工	2-54	
	6-7-4-6		本体工	床固め本体工			2-288
				植石張り		3-2-5-5 石積（張）工	2-86
				根固めブロック		3-2-3-17根固めブロック工	2-86
	6-7-4-7		取付擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270	
6-7-4-8		水叩工	水叩工			2-288	
			巨石張り		3-2-3-26多自然型護岸工	2-70	
			根固めブロック		3-2-3-17根固めブロック工	2-66	
第5節 床固め工	6-7-5-4		本堤工		6-7-4-6 本体工	2-288	
	6-7-5-5		垂直壁工		6-7-4-6 本体工	〃	
	6-7-5-6		側壁工			〃	
	6-7-5-7		水叩工		6-7-4-8 水叩工	〃	
第6節 山留擁壁工	6-7-6-3		コンクリート擁壁工		3-2-15-1 場所打擁壁工	2-270	
	6-7-6-4		ブロック積擁壁工		3-2-5-3 コンクリートブロック工	2-84	
	6-7-6-5		石積擁壁工		3-2-5-5 石積（張）工	2-86	
	6-7-6-6		山留擁壁基礎工		3-2-4-3 基礎工（護岸）	2-78	
第8章 河川維持							
第7節 路面補修工	6-8-7-3		不陸整正工		1-2-3-6 堤防天端工	2-42	
	6-8-7-4		コンクリート舗装補修工		3-2-6-12コンクリート舗装工	2-180	
	6-8-7-5		アスファルト舗装補修工		3-2-6-7アスファルト舗装工	2-88	
第8節 付属物復旧工	6-8-8-2		付属物復旧工		3-2-3-8 路側防護柵工	2-56	
第9節 付属物設置工	6-8-9-3		防護柵工		3-2-3-7 防止柵工	〃	
	6-8-9-5		付属物設置工		3-2-3-10道路付属物工	2-58	
第10節 光ケーブル配管工	6-8-10-3		配管工		6-1-13-3 配管工	2-278	
	6-8-10-4		ハンドホール工		6-1-13-4 ハンドホール工	2-280	
第12節 植栽維持工	6-8-12-3		樹木・芝生管理工		3-2-14-2 植生工	2-264	
第9章 河川修繕							
第3節 軽量盛土工	6-9-3-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48	
第4節 腹付工	6-9-4-2		覆土工		1-2-3-5 法面整形工	2-42	
	6-9-4-3		植生工		3-2-14-2 植生工	2-264	

【第6編 河川編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第5節 側帯工	6-9-5-2		縁切工	じゃかご工	3-2-3-27羽口工	2-72
				連節ブロック張り	3-2-5-3コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	2-84
				コンクリートブロック張り	3-2-5-3コンクリートブロック工	〃
				石張工	3-2-5-5石積(張)工	2-86
	6-9-5-3		植生工		3-2-14-2植生工	2-264
第6節 堤脚保護工	6-9-6-3		石積工		3-2-5-5石積(張)工	2-86
	6-9-6-4		コンクリートブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84
第7節 管理用通路工	6-9-7-2		防護柵工		3-2-3-7防止柵工	2-56
	6-9-7-4		路面切削工		3-2-6-15路面切削工	2-228
	6-9-7-5		舗装打換え工		3-2-6-16舗装打換え工	〃
	6-9-7-6		オーバーレイ工		3-2-6-17オーバーレイ工	〃
	6-9-7-7		排水構造物工	プレキャストU型側溝・管 (函)渠	3-2-3-29側溝工	2-74
				集水柵工	3-2-3-30集水柵工	2-76
	6-9-7-8		道路付属物工	歩車道境界ブロック	3-2-3-5縁石工	2-54
第8節 現場塗装工	6-9-8-3		付属物塗装工		3-2-3-31現場塗装工	2-76
	6-9-8-4		コンクリート面塗装工		3-2-3-11コンクリート面塗装工	2-58

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
<b>第1章 道路改良</b>						
第3節 工場製作工	7-1-3-2		遮音壁支柱製作工	遮音壁支柱製作工		2-290
				工場塗装工	3-2-12-11工場塗装工	2-260
第4節 地盤改良工	7-1-4-2		路床安定処理工		3-2-7-4路床安定処理工	2-232
	7-1-4-3		置換工		3-2-7-3置換工	2-230
	7-1-4-4		サンドマット工		3-2-7-6サンドマット工	2-232
	7-1-4-5		パーチカルドレーン工		3-2-7-7パーチカルドレーン工	2-234
	7-1-4-6		締固め改良工		3-2-7-8締固め改良工	〃
	7-1-4-7		固結工		3-2-7-9固結工	〃
第5節 法面工	7-1-5-2		植生工		3-2-14-2植生工	2-264
	7-1-5-3		法面吹付工		3-2-14-3吹付工	2-266
	7-1-5-4		法枠工		3-2-14-4法枠工	2-268
	7-1-5-6		アンカー工		3-2-14-6アンカー工	〃
	7-1-5-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27羽口工	2-72
				ふとんかご	3-2-3-27羽口工	〃
第6節 軽量盛土工	7-1-6-2		軽量盛土工		1-2-4-3路体盛土工	2-48
第7節 擁壁工	7-1-7-3		既製杭工		3-2-4-4既製杭工	2-80
	7-1-7-4		場所打杭工		3-2-4-5場所打杭工	〃
	7-1-7-5		場所打擁壁工		3-2-15-1場所打擁壁工	2-270
	7-1-7-6		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2プレキャスト擁壁工	〃
	7-1-7-7		補強土壁工	補強土（テールアルメ）壁工	3-2-15-3補強土壁工	2-272
				多数アンカー式補強土工法	3-2-15-3補強土壁工	〃
				ジオテキスタイルを用いた補強土工法	3-2-15-3補強土壁工	〃
7-1-7-8		井桁ブロック工		3-2-15-4井桁ブロック工	〃	
第8節 石・ブロック積（張）工	7-1-8-3		コンクリートブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84
	7-1-8-4		石積（張）工		3-2-5-5石積（張）工	2-86
第9節 カルバート工	7-1-9-4		既製杭工		3-2-4-4既製杭工	2-80
	7-1-9-5		場所打杭工		3-2-4-5場所打杭工	〃
	7-1-9-6		場所打函渠工			2-290
	7-1-9-7		プレキャストカルバート工		3-2-3-28プレキャストカルバート工	2-72
第10節 排水構造物工（小型水路工）	7-1-10-3		側溝工		3-2-3-29側溝工	2-74
	7-1-10-4		管渠工		3-2-3-29側溝工	2-74
	7-1-10-5		集水柵・マンホール工		3-2-3-30集水柵工	2-76
	7-1-10-6		地下排水工		3-2-3-29暗渠工	2-74
	7-1-10-7		場所打水路工		3-2-3-29場所打水路工	〃
	7-1-10-8		排水工（小段排水・縦排水）		3-2-3-29側溝工	〃
第11節 落石雪害防止工	7-1-11-4		落石防止網工			2-290
	7-1-11-5		落石防護柵工			〃



【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第11節 落石雪害防止工	7-1-11-6		防雪柵工			2-292
	7-1-11-7		雪崩予防柵工			〃
第12節 遮音壁工	7-1-12-4		遮音壁基礎工			〃
	7-1-12-5		遮音壁本体工			〃
第2章 舗装						
第3節 地盤改良工	7-2-3-2		路床安定処理工		3-2-7-2 路床安定処理工	2-230
	7-2-3-3		置換工		3-2-7-3 置換工	2-230
第4節 舗装工	7-2-4-5		アスファルト舗装工		3-2-6-7 アスファルト舗装工	2-88
	7-2-4-6		半たわみ性舗装		3-2-6-8 半たわみ性舗装	2-112
	7-2-4-7		排水性舗装工		3-2-6-9 排水性舗装工	2-136
	7-2-4-8		透水性舗装工		3-2-6-10 透水性舗装工	2-160
	7-2-4-9		グースアスファルト舗装工		3-2-6-11 グースアスファルト舗装工	2-168
	7-2-4-10		コンクリート舗装工		3-2-6-12 コンクリート舗装工	2-180
	7-2-4-11		薄層カラー舗装工		3-2-6-13 薄層カラー舗装工	2-220
	7-2-4-12		ブロック舗装工		3-2-6-14 ブロック舗装工	2-224
	7-2-4		歩道路盤工			2-294
	7-2-4		取合舗装路盤工			〃
	7-2-4		路肩舗装路盤工			〃
	7-2-4		歩道舗装工			〃
	7-2-4		取合舗装工			〃
	7-2-4		路肩舗装工			〃
7-2-4		表層工			〃	
第5節 排水構造物工 (路面排水工)	7-2-5-3		側溝工		3-2-3-29 側溝工	2-74
	7-2-5-4		管渠工		3-2-3-29 側溝工	〃
	7-2-5-5		集水柵(街渠工)・マンホール工		3-2-3-30 集水柵工	2-76
	7-2-5-6		地下排水工		3-2-3-29 暗渠工	2-74
	7-2-5-7		場所打水路工		3-2-3-29 場所打水路工	〃
	7-2-5-8		排水工(小段排水・縦排水)		3-2-3-29 側溝工	〃
	7-2-5-9		排水性舗装用路肩排水工			2-296
第6節 縁石工	7-2-6-3		縁石工		3-2-3-5 縁石工	2-54
第7節 踏掛版工	7-2-7-4		踏掛版工	コンクリート		2-296
				ラバーシュー		〃
				アンカーボルト		〃
第8節 防護柵工	7-2-8-3		路側防護柵工		3-2-3-8 路側防護柵工	2-56
	7-2-8-4		防止柵工		3-2-3-7 防止柵工	〃
	7-2-8-5		ボックスビーム工		3-2-3-8 路側防護柵工	〃
	7-2-8-6		車止めポスト		3-2-3-7 防止柵工	〃
第9節 標識工	7-2-9-3		小型標識工		3-2-3-6 小型標識工	2-54
	7-2-9-4	1	大型標識工	標識基礎工		2-296
		2	大型標識工	標識柱工		〃

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第10節 区画線工	7-2-10-2		区画線工		3-2-3-9 区画線工	2-58
第12節 道路付属物施設工	7-2-12-4		道路付属物工		3-2-3-10 道路付属物工	〃
	7-2-12-5	1	ケーブル配管工			2-298
		2	ケーブル配管工	ハンドホール		〃
	7-2-12-6		照明工	照明柱基礎工		〃
第13節 橋梁付属物工	7-2-13-2		伸縮装置工		3-2-3-24 伸縮装置工	2-68
第3章 橋梁下部						
第3節 工場製作工	7-3-3-2		刃口金物製作工		3-2-12-1 刃口金物製作工	2-244
	7-3-3-3		鋼製橋脚製作工			2-300
	7-3-3-4		アンカーフレーム製作工		3-2-12-8 アンカーフレーム製作工	2-258
	7-3-3-5		工場塗装工		3-2-12-11 工場塗装工	2-260
第5節 軽量盛土工	7-3-5-2		軽量盛土工		1-2-4-3 路体盛土工	2-48
第6節 橋台工	7-3-6-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	7-3-6-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	7-3-6-5		深礎工		3-2-4-6 深礎工	2-82
	7-3-6-6		オープンケーソン基礎工		3-2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃
	7-3-6-7		ニューマチックケーソン基礎工		3-2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	〃
	7-3-6-8		橋台躯体工			2-302
第7節 RC橋脚工	7-3-7-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	7-3-7-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	7-3-7-5		深礎工		3-2-4-6 深礎工	2-82
	7-3-7-6		オープンケーソン基礎工		3-2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃
	7-3-7-7		ニューマチックケーソン基礎工		3-2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	〃
	7-3-7-8		鋼管矢板基礎工		3-2-4-9 鋼管矢板基礎工	2-84
	7-3-7-9	1	橋脚躯体工	張出式		2-304
				重力式		〃
				半重力式		〃
	2	橋脚躯体工	ラーメン式		2-306	
第8節 鋼製橋脚工	7-3-8-3		既製杭工		3-2-4-4 既製杭工	2-80
	7-3-8-4		場所打杭工		3-2-4-5 場所打杭工	〃
	7-3-8-5		深礎工		3-2-4-6 深礎工	2-82
	7-3-8-6		オープンケーソン基礎工		3-2-4-7 オープンケーソン基礎工	〃
	7-3-8-7		ニューマチックケーソン基礎工		3-2-4-8 ニューマチックケーソン基礎工	〃
	7-3-8-8		鋼管矢板基礎工		3-2-4-9 鋼管矢板基礎工	2-84
	7-3-8-9	1	橋脚フーチング工	I型・T型		2-306
		2		門型		2-308
		7-3-8-10	1	橋脚架設工	I型・T型	〃
			2		門型	〃
		7-3-8-11		現場継手工		〃

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁	
第8節 鋼製橋脚工	7-3-8-12		現場塗装工		3-2-3-31現場塗装工	2-76	
第9節 護岸基礎工	7-3-9-3		基礎工		3-2-4-3基礎工(護岸)	2-78	
	7-3-9-4		矢板工		3-2-3-4矢板工	2-54	
第10節 矢板護岸工	7-3-10-3		笠コンクリート工		3-2-4-3基礎工(護岸)	2-78	
	7-3-10-4		矢板工		3-2-3-4矢板工	2-54	
第11節 法覆護岸工	7-3-11-2		コンクリートブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84	
	7-3-11-3		護岸付属物工		6-1-7-4護岸付属物工	2-278	
	7-3-11-4		緑化ブロック工		3-2-5-4緑化ブロック工	2-86	
	7-3-11-5		環境護岸ブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84	
	7-3-11-6		石積(張)工		3-2-5-5石積(張)工	2-86	
	7-3-11-7		法枠工		3-2-14-4法枠工	2-268	
	7-3-11-8		多自然型護岸工	巨石張り		3-2-3-26多自然型護岸工	2-70
				巨石積み		3-2-3-26多自然型護岸工	〃
				かごマット		3-2-3-26多自然型護岸工	〃
	7-3-11-9		吹付工		3-2-14-3吹付工	2-266	
	7-3-11-10		植生工		3-2-14-2植生工	2-264	
	7-3-11-11		覆土工		1-2-3-5法面整形工	2-42	
	7-3-11-12		羽口工	じゃかご		3-2-3-27羽口工	2-72
				ふとんかご		3-2-3-27羽口工	〃
		かご枠			3-2-3-27羽口工	〃	
		連節ブロック張り			3-2-5-3連節ブロック張り	2-84	
第12節 擁壁護岸工	7-3-12-3		場所打擁壁工		3-2-15-1場所打擁壁工	2-270	
	7-3-12-4		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2プレキャスト擁壁工	〃	
<b>第4章 鋼橋上部</b>							
第3節 工場製作工	7-4-3-3		桁製作工		3-2-12-3桁製作工	2-246	
	7-4-3-4		検査路製作工		3-2-12-4検査路製作工	2-256	
	7-4-3-5		鋼製伸縮継手製作工		3-2-12-5鋼製伸縮継手製作工	〃	
	7-4-3-6		落橋防止装置製作工		3-2-12-6落橋防止装置製作工	〃	
	7-4-3-7		鋼製排水管製作工		3-2-12-10鋼製排水管製作工	2-258	
	7-4-3-8		橋梁用防護柵製作工		3-2-12-7橋梁用防護柵製作工	2-256	
	7-4-3-9		橋梁用高欄製作工			2-310	
	7-4-3-10		横断歩道橋製作工		3-2-12-3桁製作工	2-246	
	7-4-3-12		アンカーフレーム製作工		3-2-12-8アンカーフレーム製作工	2-258	
	7-4-3-13		工場塗装工		3-2-12-11工場塗装工	2-260	
第5節 鋼橋架設工	7-4-5-4		架設工(クレーン架設)		3-2-13架設工(鋼橋)	2-262	
	7-4-5-5		架設工(ケーブルクレーン架設)		3-2-13架設工(鋼橋)	〃	
	7-4-5-6		架設工(ケーブルエレクション架設)		3-2-13架設工(鋼橋)	〃	

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第5節 鋼橋架設工	7-4-5-7		架設工（架設桁架設）		3-2-13 架設工（鋼橋）	2-262
	7-4-5-8		架設工（送出し架設）		3-2-13 架設工（鋼橋）	〃
	7-4-5-9		架設工（トラベラー・クレーン架設）		3-2-13 架設工（鋼橋）	〃
	7-4-5-10	1	支承工	鋼製支承		2-310
2		支承工	ゴム支承		2-312	
第6節 橋梁現場塗装工	7-4-6-3		現場塗装工		3-2-3-31現場塗装工	2-76
第7節 床版工	7-4-7-2		床版工		3-2-18-2床版工	2-274
第8節 橋梁付属物工	7-4-8-2		伸縮装置工		3-2-3-24伸縮装置工	2-68
	7-4-8-3		落橋防止装置工			2-312
	7-4-8-5		地覆工			2-314
	7-4-8-6		橋梁用防護柵工			〃
	7-4-8-7		橋梁用高欄工			〃
	7-4-8-8		検査路工			〃
第9節 歩道橋本體工	7-4-9-3		既製杭工		3-2-4-4既製杭工	2-80
	7-4-9-4		場所打杭工		3-2-4-5場所打杭工	〃
	7-4-9-5		橋脚フーチング工	I型	7-3-8-9橋脚フーチング工	2-306
				T型	7-3-8-9橋脚フーチング工	〃
	7-4-9-6		歩道橋（側道橋）架設工		3-2-13 架設工（鋼橋）	2-262
7-4-9-7		現場塗装工		3-2-3-31現場塗装工	2-76	
第5章 コンクリート橋上部						
第3節 工場製作工	7-5-3-2		プレーム用桁製作工		3-2-12-9プレーム桁製作工	2-258
	7-5-3-3		橋梁用防護柵製作工		3-2-12-7橋梁用防護柵製作工	2-256
	7-5-3-4		鋼製伸縮継手製作工		3-2-12-5鋼製伸縮継手製作工	〃
	7-5-3-5		検査路製作工		3-2-12-4検査路製作工	〃
	7-5-3-6		工場塗装工		3-2-12-11工場塗装工	2-260
第5節 PC橋工	7-5-5-2		プレテンション桁製作工（購入工）	けた橋	3-2-3-12プレテンション桁製作工（購入工）	2-60
				スラブ橋	3-2-3-12プレテンション桁製作工（購入工）	〃
	7-5-5-3		ポストテンション桁製作工		3-2-3-13ポストテンション桁製作工	2-62
	7-5-5-4		プレキャストセグメント桁製作工（購入工）		3-2-3-13プレキャストセグメント桁製作工（購入工）	〃
	7-5-5-5		プレキャストセグメント主桁組立工		3-2-3-14プレキャストセグメント主桁組立工	〃
	7-5-5-6		支承工		7-4-5-10支承工	2-312
	7-5-5-7		架設工（クレーン架設）		3-2-13 架設工（クレーン架設）	2-262
	7-5-5-8		架設工（架設桁架設）		3-2-13 架設工（架設桁架設）	〃
	7-5-5-9		床版・横組工		3-2-18-2床版工	2-274

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第5節 PC橋工	7-5-5-10		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第6節 プレビーム桁橋工	7-5-6-2		プレビーム桁製作工	現場		2-316
	7-5-6-3		支承工		7-4-5-10 支承工	2-312
	7-5-6-4		架設工 (クレーン架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	2-262
	7-5-6-5		架設工 (架設桁架設)		3-2-13 架設工 (鋼橋)	〃
	7-5-6-6		床版・横組工		3-2-18-2 床版工	2-274
	7-5-6-9		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第7節 PCホロースラブ橋工	7-5-7-3		支承工		7-4-5-10 支承工	〃
	7-5-7-4		PCホロースラブ製作工		3-2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-64
	7-5-7-5		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第8節 RCホロースラブ橋工	7-5-8-3		支承工		7-4-5-10 支承工	〃
	7-5-8-4		RC場所打ホロースラブ製作工		3-2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-64
	7-5-8-5		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第9節 PC版桁橋工	7-5-9-2		PC版桁製作工		3-2-3-15 PCホロースラブ製作工	2-64
第10節 PC箱桁橋工	7-5-10-3		支承工		7-4-5-10 支承工	2-312
	7-5-10-4		PC箱桁製作工		3-2-3-16 PC箱桁製作工	2-64
	7-5-10-5		落橋防止装置工		7-4-8-3 落橋防止装置工	2-312
第11節 PC片持箱桁橋工	7-5-11-2		PC片持箱桁製作工		3-2-3-16 PC箱桁製作工	2-64
	7-5-11-3		支承工		7-4-5-10 支承工	2-312
	7-5-11-4		架設工 (片持架設)		3-2-13 架設工 (コンクリート橋)	2-264
第12節 PC押し出し箱桁橋工	7-5-12-2		PC押し出し箱桁製作工		3-2-3-16 PC押し出し箱桁製作工	2-66
	7-5-12-3		架設工 (押し出し架設)		3-2-13 架設工 (コンクリート橋)	2-264
第13節 橋梁付属物工	7-5-13-2		伸縮装置工		3-2-3-24 伸縮装置工	2-68
	7-5-13-4		地覆工		7-4-8-5 地覆工	2-314
	7-5-13-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6 橋梁用防護柵工	〃
	7-5-13-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7 橋梁用高欄工	〃
	7-5-13-7		検査路工		7-4-8-8 検査路工	〃
第6章 トンネル (NATM)						
第4節 支保工	7-6-4-3		吹付工			2-316
	7-6-4-4		ロックボルト			〃
第5節 覆工	7-6-5-3		覆工コンクリート工			2-318
	7-6-5-4		側壁コンクリート工		7-6-5-3 覆工コンクリート工	〃
	7-6-5-5		床版コンクリート工			〃
第6節 インバート工	7-6-6-4		インバート本体工			2-320
第7節 坑内付帯工	7-6-7-5		地下排水工		3-2-3-29 暗渠工	2-74
第8節 坑門工	7-6-8-4		坑門本体工			2-320

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第8節 坑門工	7-6-8-5		明り巻工			2-322
第11章 共同溝						
第3節 工場製作工	7-11-3-3		工場塗装工		3-2-12-11工場塗装工	2-260
第6節 現場打構築工	7-11-6-2		現場打躯体工			2-324
	7-11-6-4		カラー継手工			〃
	7-11-6-5	1	防水工	防水		〃
		2	防水工	防水保護工		〃
	3	防水工	防水壁		2-326	
第7節 プレキャスト構築工	7-11-7-2		プレキャスト躯体工			〃
第12章 電線共同溝						
第5節 電線共同溝工	7-12-5-2		管路工	管路部		2-326
	7-12-5-3		プレキャストボックス工	特殊部		2-328
	7-12-5-4		現場打ちボックス工	特殊部	7-11-6-2現場打躯体工	2-324
第6節 付帯設備工	7-12-6-2		ハンドホール工			2-328
第13章 情報ボックス工						
第3節 情報ボックス工	7-13-3-4		官路工	管路部	7-12-5-2官路工(管路部)	2-326
第4節 付帯設備工	7-13-4-2		ハンドホール工		7-12-6-2ハンドホール工	2-328
第14章 道路維持						
第4節 舗装工	7-14-4-3		路面切削工		3-2-6-15路面切削工	2-228
	7-14-4-4		舗装打換え工		3-2-6-16舗装打換え工	〃
	7-14-4-5		切削オーバーレイ工			2-330
	7-14-4-6		オーバーレイ工		3-2-6-17オーバーレイ工	2-228
	7-14-4-7		路上再生工			2-330
	7-14-4-8		薄層カラー舗装工		3-2-6-13薄層カラー舗装工	2-220
第5節 排水構造物工	7-14-5-3		側溝工		3-2-3-29側溝工	2-74
	7-14-5-4		管渠工		3-2-3-29側溝工	〃
	7-14-5-5		集水柵・マンホール工		3-2-3-30集水柵工	2-76
	7-14-5-6		地下排水工		3-2-3-29暗渠工	2-74
	7-14-5-7		場所打水路工		3-2-3-29場所打水路工	〃
	7-14-5-8		排水工		3-2-3-29側溝工	〃
第6節 防護柵工	7-14-6-2		路側防護柵工		3-2-3-8路側防護柵工	2-56
	7-14-6-3		防止柵工		3-2-3-7防止柵工	〃
	7-14-6-5		ボックスビーム工		3-2-3-8路側防護柵工	〃
	7-14-6-6		車止めポスト工		3-2-3-7防止柵工	〃
第7節 標識工	7-14-7-3		小型標識工		3-2-3-6小型標識工	2-54
	7-14-7-4		大型標識工		7-2-9-4大型標識工	2-296
第8節 道路付属施設工	7-14-8-4		道路付属物工		3-2-3-10道路付属物工	2-58
	7-14-8-5		ケーブル配管工		7-2-12-5ケーブル配管工	2-298
	7-14-8-6		照明工		7-2-12-6照明工	〃
第9節 軽量盛土工	7-3-5-2		軽量盛土工		1-2-4-3路体盛土工	2-48
第10節 擁壁工	7-14-10-3		場所打擁壁工		3-2-15-1場所打擁壁工	2-270
	7-14-10-4		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2プレキャスト擁壁工	〃

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第11節 石・ブロック積(張)工	7-14-11-3		コンクリートブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84
	7-14-11-4		石積(張)工		3-2-5-5石積(張)工	2-86
第12節 カルバート工	7-14-12-4		場所打函渠工		7-1-9-6場所打函渠工	2-290
	7-14-12-5		プレキャストカルバート工		3-2-3-28プレキャストカルバート工	2-72
第13節 法面工	7-14-13-2		植生工		3-2-14-2植性工	2-264
	7-14-13-3		法面吹付工		3-2-14-3吹付工	2-266
	7-14-13-4		法枠工		3-2-14-4法枠工	2-268
	7-14-13-6		アンカー工		3-2-14-6アンカー工	〃
	7-14-13-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27羽口工	2-72
		ふとんかご		3-2-3-27羽口工	〃	
第15節 橋梁付属物工	7-15-15-2		伸縮継手工		3-2-3-24伸縮装置工	2-68
	7-15-15-4		地覆工		7-4-8-5地覆工	2-314
	7-15-15-5		橋梁用防護柵工		7-4-8-6橋梁用防護柵工	〃
	7-15-15-6		橋梁用高欄工		7-4-8-7橋梁用高欄工	〃
	7-15-15-7		検査路工		7-4-8-8検査路工	〃
第17節 現場塗装工	7-14-17-6		コンクリート面塗装工		3-2-3-11コンクリート面塗装工	2-58
第16章 道路修繕						
第3節 工場製作工	7-16-3-4		桁補強材製作工			2-332
	7-16-3-5		落橋防止装置製作工		3-2-12-6落橋防止装置製作工	2-256
第5節 舗装工	7-16-5-3		路面切削工		3-2-6-15路面切削工	2-228
	7-16-5-4		舗装打換え工		3-2-6-16舗装打換え工	〃
	7-16-5-5		切削オーバーレイ工		7-14-4-5切削オーバーレイ工	2-330
	7-16-5-6		オーバーレイ工		3-2-6-17オーバーレイ工	2-228
	7-16-5-7		路上再生工		7-14-4-7路上再生工	2-330
	7-16-5-8		薄層カラー舗装工		3-2-6-13薄層カラー舗装工	2-220
第6節 排水構造物工	7-16-6-3		側溝工		3-2-3-29側溝工	2-74
	7-16-6-4		管渠工		3-2-3-29側溝工	〃
	7-16-6-5		集水柵・マンホール工		3-2-3-30集水柵工	2-76
	7-16-6-6		地下排水工		3-2-3-29暗渠工	2-74
	7-16-6-7		場所打水路工		3-2-3-29場所打水路工	〃
	7-16-6-8		排水工		3-2-3-29側溝工	〃
第7節 縁石工	7-17-7-3		縁石工		3-2-3-5縁石工	2-54
第8節 防護柵工	7-16-8-3		路側防護柵工		3-2-3-8路側防護柵工	2-56
	7-16-8-4		防止柵工		3-2-3-7防止柵工	〃
	7-16-8-5		ボックスビーム工		3-2-3-8路側防護柵工	〃
	7-16-8-6		車止めポスト工		3-2-3-7防止柵工	〃
第9節 標識工	7-16-9-3		小型標識工		3-2-3-6小型標識工	2-54
	7-16-9-4		大型標識工		7-2-9-4大型標識工	2-296
第10節 区画線工	7-16-10-2		区画線工		3-2-3-9区画線工	2-58
第12節 道路付属施設工	7-16-12-4		道路付属物工		3-2-3-10道路付属物工	〃

【第7編 道路編】

章、節	条	枝番	工種	種別	準用する出来形管理基準	頁
第12節 道路付属施設工	7-16-12-5		ケーブル配管工		7-2-12-5ケーブル配管工	2-298
	7-16-12-6		照明工		7-2-12-6照明工	〃
第13節 軽量盛土工	7-3-5-2		軽量盛土工		1-2-4-3路体盛土工	2-48
第14節 擁壁工	7-16-14-3		場所打擁壁工		3-2-15-1場所打擁壁工	2-270
	7-16-14-4		プレキャスト擁壁工		3-2-15-2プレキャスト擁壁工	〃
第15節 石・ブロック積(張)工	7-16-15-3		コンクリートブロック工		3-2-5-3コンクリートブロック工	2-84
	7-16-15-4		石積(張)工		3-2-5-5石積(張)工	2-86
第16節 カルバート工	7-16-16-4		場所打函渠工		7-1-9-6場所打函渠工	2-290
	7-16-16-5		プレキャストカルバート工		3-2-3-28プレキャストカルバート工	2-72
第17節 法面工	7-16-17-2		植生工		3-2-14-2植性工	2-264
	7-16-17-3		法面吹付工		3-2-14-3吹付工	2-266
	7-16-17-4		法枠工		3-2-14-4法枠工	2-268
	7-16-17-6		アンカー工		3-2-14-6アンカー工	〃
	7-16-17-7		かご工	じゃかご	3-2-3-27羽口工	2-72
				ふとんかご	3-2-3-27羽口工	〃
第18節 落石雪害防止工	7-18-18-4		落石防止網工		7-1-11-4落石防止網工	2-290
	7-18-18-5		落石防護柵工		7-1-11-5落石防護柵工	〃
	7-18-18-6		防雪柵工		7-1-11-6防雪柵工	2-292
	7-18-18-7		雪崩予防柵工		7-1-11-7雪崩予防柵工	〃
第20節 鋼桁工	7-16-20-3		鋼桁補強工		7-16-3-4桁補強材製作	2-332
第21節 橋梁支承工	7-16-21-3		鋼橋支承工		7-4-5-10支承工	2-310
	7-16-21-4		P C橋支承工		7-4-5-10支承工	2-312
第22節 橋梁付属物工	7-16-22-3		伸縮継手工		3-2-3-24伸縮装置工	2-68
	7-16-22-4		落橋防止装置工		7-4-8-3落橋防止装置工	2-312
	7-16-22-6		地覆工		7-4-8-5地覆工	2-314
	7-16-22-7		橋梁用防護柵工		7-4-8-6橋梁用防護柵工	〃
	7-16-22-8		橋梁用高欄工		7-4-8-7橋梁用高欄工	〃
	7-16-22-9		検査路工		7-4-8-8検査路工	〃
第25節 現場塗装工	7-16-25-3		橋梁塗装工		3-2-3-31現場塗装工	2-76
	7-16-25-6		コンクリート面塗装工		3-2-3-11コンクリート面塗装工	2-58



## 出来形管理基準及び規格値

出来形管理基準及び規格値

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2	1	掘削工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-200
							$\ell \geq 5\text{m}$	法長-4%

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ただし、「TS 等光波方式を用いた出来形管理要領 (土工編) (案)」または「RTK-GNSSを用いた出来高管理要領 (土工編) (案)」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は掘削除の両端で測定。</p>		1-2-3-2

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	2	2	掘削工 (面管理の場合)			平均値	個々の 計測値
						平場	標高較差	±50	±150
						法面 (小段 含む)	水平または 標高較差	±70	±160

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「無人航空機搭載レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」、「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,または「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」に基づき出来形管理を面管理で実施する場合,その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実地する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の測定値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし,全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 法肩,法尻から水平方向に±5cm以内に存在する計測点は,標高較差の評価から除く。同様に,標高方向に±5cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。</p> <p>5. 評価する範囲は,連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は,評価区間を分割するかあるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。</p>		1-2-3-2

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3	1	盛土工	基 準 高 $\nabla$	-50	
						法長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-100
							$\ell \geq 5\text{m}$	法長-2%
						幅 $w_1, w_2$		-100

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所，延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>基準高は各法肩で測定。</p> <p>ただし、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により測点による管理を行う場合は，設計図書の測点毎。基準高は各法肩で測定。</p>		1-2-3-3

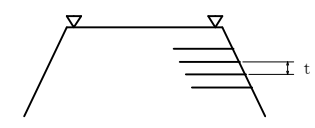
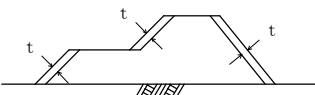
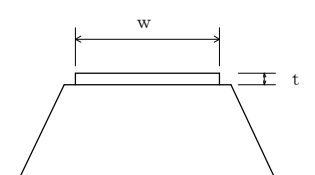
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
1 共 通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	3	2	盛土工 (面管理の場合)		平均値	個々の計測値	
						天端	標高較差	-50	-150
						法面 4割<勾配	標高較差	-50	-170
						法面 4割≥勾配 (小段 含む)	標高較差	-60	-170
※ただし、 ここでの勾配は、鉛直方向の長さ1に対する、水平方向の長さXをX割と表したものの									

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「空中写真測量（無人航空機）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「無人航空機搭載レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」に基づき出来形管理を面管理で実地する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実地する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の測定値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は平場面と法面（小段を含む）の全面とし、全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 法肩、法尻から水平方向に±5cm以内に存在する計測点は、標高較差の評価から除く。同様に、標高方向に±5cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。</p> <p>5. 評価する範囲は、連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は、評価区間を分割するかあるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。</p>		1-2-3-3

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工法)	基 準 高 ▽	-50
						厚 さ t	-50
						控 え 長 さ	設計値以上
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30
1 共通 編	2 土 工	3 河 川 ・ 海 岸 ・ 砂 防 土 工	6		堤防天端工	厚さ t	t < 15cm -25
							t ≥ 15cm -50
						幅 w	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		1-2-3-4
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所, 法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。</p>		1-2-3-5
<p>幅は, 施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは, 施工延長 200mにつき 1 箇所, 200m以下は 2 箇所, 中央で測定。</p>		1-2-3-6

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	2	1	掘削工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-200
							$\ell \geq 5\text{m}$	法長-4%
						幅	W	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ただし, 「TS等光波方式を用いた出来形管理要領 (土工編) (案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領 (土工編) (案)」の規定により測点による管理を行う場合は, 設計図書の測点毎。基準高は, 道路中心線及び端部で測定</p>		1-2-4-2

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	2	2	掘削工 (面管理の場合)			平均値	個々の計測値
						平場	標高較差	±50	±150
						法面 (小段含む)	水平または 標高較差	±70	±160

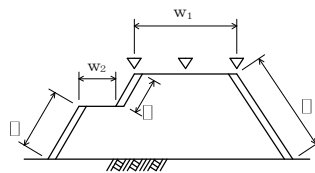
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来高管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「無人航空機搭載レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」に基づき出来形管理を面管理で実地する場合,その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実地する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし,全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 法肩,法尻から水平方向に±5cm以内に存在する計測点は,標高較差の評価から除く。同様に,標高方面に±5cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。</p> <p>5. 評価する範囲は,連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は,評価区間を分割するか,あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。</p>		1-2-4-2



編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	3 4	1	路体盛土工 路床盛土工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 $\ell$	$\ell < 5\text{m}$	-100
							$\ell \geq 5\text{m}$	法長-2%
						幅	$w_1, w_2$	-100

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 ただし、「TS等光波方式を用いた出来形管理要領（土工編）（案）」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領（土工編）（案）」の規定により測点による管理を行う場合は、設計図書の測点毎。基準高は道路中心線及び端部で測定。</p>		<p>1-2-4-3 1-2-4-4</p>



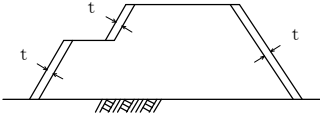
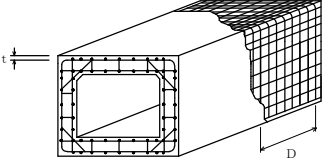
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
1 共 通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	3 4	2	路体盛土工 路床盛土工 (面管理の場合)		平均值	個々の計測値	
						天端	標高較差	±50	±150
						法面 (小段含む)	標高較差	±80	±190

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「空中写真測量(無人航空機)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「無人航空機搭載レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「TS等光波方式を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(土工編)(案)」,「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」または「RTK-GNSSを用いた出来形管理要領(土工編)(案)」に基づき出来高管理を面管理で実地する場合,その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実地する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±50mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は平場面と法面(小段を含む)の全面とし,全ての点で設計面との標高較差または水平較差を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 法肩,法尻から水平方向に±5cm以内に存在する計測点は,標高較差の評価から除く。同様に,標高方面に±5cm以内にある計測点は水平較差の評価から除く。</p> <p>5. 評価する範囲は,連続する一つの面とすることを基本とする。規格値が変わる場合は,評価区間を分割するか,あるいは規格値の条件の最も厳しい値を採用する。</p>		<p>1-2-4-3 1-2-4-4</p>

単位：mm

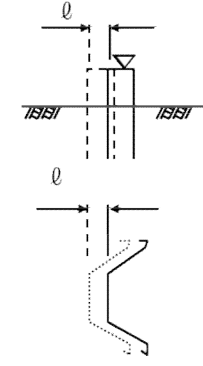
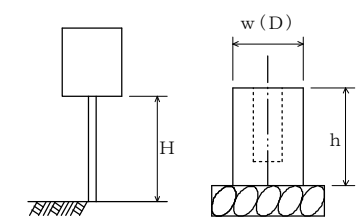
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
1 共通 編	2 土 工	4 道 路 土 工	5		法面整形工	厚 さ t	※-30
					(盛土部)		
1 共通 編	3 無 筋 , 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	7 鉄 筋 工	4		組立て	平均間隔 d	±φ
						かぶり t	±φかつ 最小かぶり 以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40mにつき 1 箇所, 延長 40m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。</p>		1-2-4-5
<p><math display="block">d = \frac{D}{n-1}</math></p> <p>D : n 本間の延長 n : 10 本程度とする φ : 鉄筋径</p> <p>工事の規模に応じて, 1 リフト, 1 ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは, コンクリート標準示方書 (設計編: 標準 7 編 2 章 2.1) 参照。ただし, 道路橋示方書の適用を受ける橋については, 道路橋示方書 (Ⅲ コンクリート橋編 6.6) による。</p> <p>注 1) 重要構造物 かつ 主鉄筋について適用する。</p> <p>注 2) 橋梁コンクリート床版桁 (PC 橋含む) の鉄筋については, 第 3 編 3-2-18-2 床版工を適用する。</p> <p>注 3) 新設のコンクリート構造物 (橋梁上・下部工及び重要構造物である内空断面積 25 m<sup>2</sup>以上のボックスカルバート (工場制作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外)) の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては, 「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する。</p>		1-3-7-4

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	3	4		矢板工〔指定仮設・任意仮設は除く〕 (鋼矢板) (軽量鋼矢板) (コンクリート矢板) (広幅鋼矢板) (可とう鋼矢板)	基 準 高 $\nabla$	±50	
						根 入 長	設計値以上	
						変 位 $\ell$	100	
3	2	3	5		縁石工 (縁石・アスカープ)	延 長 L	-200	
3	2	3	6		小型標識工	設 置 高 さ H	設計値以上	
						基礎	幅 w (D)	-30
							高 さ h	-30
							根入れ長	設定値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は, 施工延長 20m (測点間隔 25m の場合は 25m) につき 1 箇所, 延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-3-4
1 施工箇所		3-2-3-5
1 箇所 / 1 基		3-2-3-6
基礎 1 基毎		

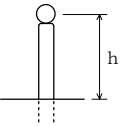
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3	2	3	7		防止柵工 (立入防止柵) (転落(横断)防止柵) (車止めポスト)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
						パイプ取付高 H		+30 -20
3	2	3	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
						ビーム取付高 H		+30 -20
3	2	3	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30
							高 さ h	-30
							延 長 L	-100
						ケーブル取付高 H		+30 -20

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>単独基礎 10 基につき 1 基, 10 基以下のものは 2 基測定。測定箇所は 1 基につき 1 箇所測定。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		3-2-3-7
<p>1 箇所 / 施工延長 40m 40m 以下のものは, 2 箇所 / 1 施工箇所。</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		3-2-3-8
<p>1 箇所 / 1 基礎毎</p> <p>1 箇所 / 1 施工箇所</p>		3-2-3-8

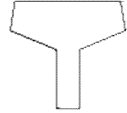
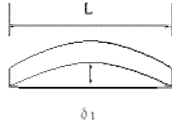
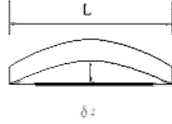
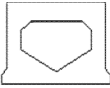
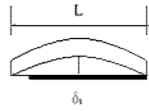
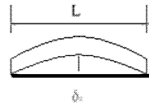
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上
						幅 w	設計値以上
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	11		コンクリート面塗装工	塗 料 使 用 量	鋼道路橋防食 便覧Ⅱ-82 「 表-Ⅱ.5.5 各 塗料の標準使 用量と標準膜 厚」の標準使 用量以上。

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各線種毎に、1箇所テストピースにより測定。		3-2-3-9
1箇所/10本 10本以下の場合は、2箇所測定。		3-2-3-10
塗装系ごとの塗装面積を算出・照査して、各塗料の必要量を求め、塗付作業の開始前に搬入量（缶数）と、塗付作業終了時に使用量（空缶数）を確認し、各々必要量以上であることを確認する。 1ロットの大きさは500㎡とする。		3-2-3-11

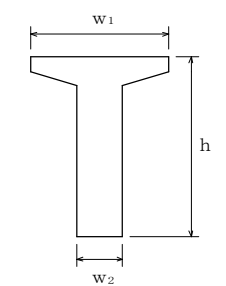
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	1	プレテンション桁製作工 (購入工)  (けた橋)	桁長 L (m)	$\pm L/1000$
						断面の外形寸法	$\pm 5$
						橋 桁 の そり $\delta_1$	$\pm 8$
						横方向の曲がり $\delta_2$	$\pm 10$
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	12	2	プレテンション桁製作工 (購入工)  (スラブ桁)	桁長 L (m)	$\pm 10 \cdots$ $L \leq 10m$ $\pm L/1000 \cdots$ $L > 10m$
						断面の外形寸法	$\pm 5$
						橋 桁 の そり $\delta_1$	$\pm 8$
						横方向の曲がり $\delta_2$	$\pm 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。	<p>断面図</p>  <p>側面図</p>  <p>平面図</p> 	3-2-3-12
桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。	<p>断面図</p>  <p>側面図</p>  <p>平面図</p> 	3-2-3-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	13	1	ポストテンション桁 製作工	幅（上） $w_1$	+10 -5
						幅（下） $w_2$	±5
						高 さ $h$	+10 -5
						桁 長 $\ell$ 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 $\ell$
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	13	2	プレキャストセグメント 製作工（購入工）	桁 長 $\ell$	—
						断面の外形寸法（mm）	—
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	3 共 通 的 工 種	14		プレキャストセグメント 主桁組立工	桁 長 $\ell$ 支 間 長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8 $\ell$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。 <math>\ell</math>：支間長（m）</p>		<p>3-2-3-13 注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>
<p>桁全数について測定。桁断面寸法測定箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。</p>		<p>3-2-3-13</p>
<p>桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。 <math>\ell</math>：支間長（m）</p>		<p>3-2-3-14</p>



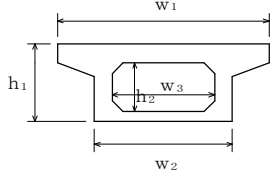
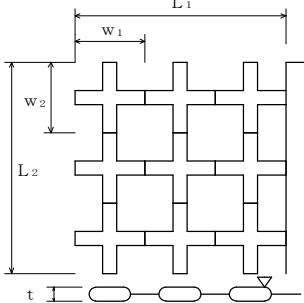
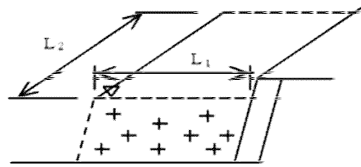
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	15		PCホロースラブ製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						幅 $w_1, w_2$	$-5 \sim +30$
						厚 さ $t$	$-10 \sim +20$
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ $-30 \text{ mm}$ 以内
3	2	3	16	1	PC箱桁製作工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						幅 (上) $w_1$	$-5 \sim +30$
						幅 (下) $w_2$	$-5 \sim +30$
						内 空 幅 $w_3$	$\pm 5$
						高 さ $h_1$	$+10$ $-5$
						内空高さ $h_2$	$+10$ $-5$
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ $-30 \text{ mm}$ 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び厚さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。</p> <p>※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 3-2-18-2 床版工に準ずる。</p> <p><math>\ell</math> : 桁長 (m)</p>		<p>3-2-3-15</p> <p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25 m<sup>2</sup>以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>
<p>桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で 1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅及び高さは 1 径間当たり両端と中央部の 3 箇所。</p> <p>※鉄筋の出来形管理基準については、第 3 編 3-2-18-2 床版工に準ずる。</p> <p><math>\ell</math> : 桁長 (m)</p>		<p>3-2-3-16</p> <p>注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25 m<sup>2</sup>以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>

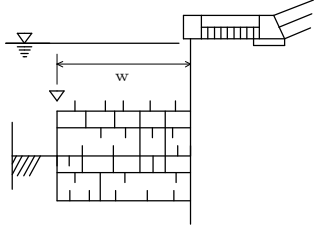
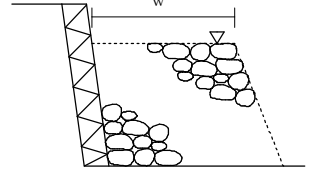
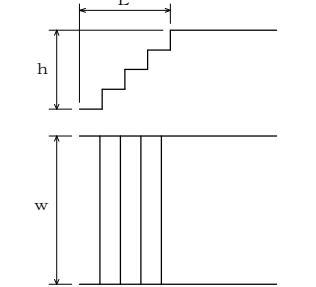
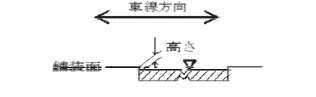
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	3	16	2	PC押出し箱桁製作工	幅(上) $w_1$	-5~+30	
						幅(下) $w_2$	-5~+30	
						内空幅 $w_3$	±5	
						高 さ $h_1$	+10 -5	
						内空高さ $h_2$	+10 -5	
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm(\ell - 5)$ かつ -30mm以内	
3	2	3	17		根固めブロック工	層積	基準高▽	±100
							厚さ $t$	-20
							幅 $w_1, w_2$	-20
							延長 $L_1, L_2$	-200
						乱積	基準高▽	± $t / 2$
							延長 $L_1, L_2$	- $t / 2$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3箇所とする。</p> <p>※鉄筋の出来形管理基準については、第3編3-2-18-2床版工に準ずる。</p> <p><math>\ell</math> : 桁長 (m)</p>		<p>3-2-3-16</p> <p>注) 新設のコンクリート構造物(橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積 25㎡以上のボックスカルバート(工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外))の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」も併せて適用する</p>
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>幅, 厚さは 40 個につき 1 箇所測定。</p> <p>1 施工箇所</p>		<p>3-2-3-17</p>
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p> <p>1 施工箇所</p>		<p><math>t</math> は根固めブロックの高さ</p>

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	18		沈床工	基準高 $\nabla$	$\pm 150$
						幅 w	$\pm 300$
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	19		捨石工	基準高 $\nabla$	-100
						幅 w	-100
						延長 L	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	22		階段工	幅 w	-30
						高さ h	-30
						長さ L	-30
						段 数	$\pm 0$ 段
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据付け高さ	$\pm 3$
						表面の凹凸	3
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1組毎		3-2-3-18
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-3-19
1回 / 1 施工箇所		3-2-3-22
車道端部及び中央部付近の 3 点を測定。  表面の凹凸は長手方向 (橋軸直角方向) に 3m の直線定規で測って凹凸が 3mm 以下		3-2-3-24

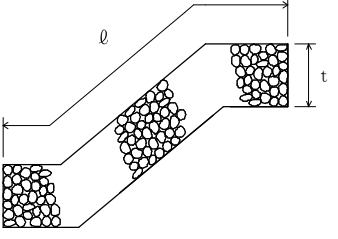
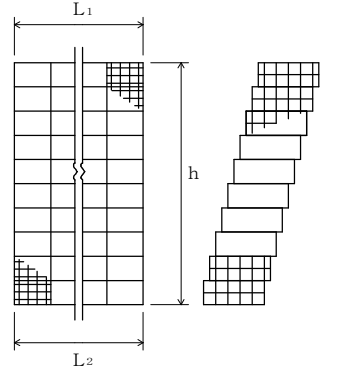
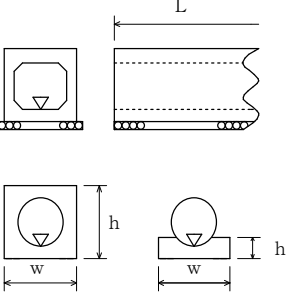
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョイント)	高さ	
						据付け高さ	±3
						車線方向各点誤差の相対差	3
						表面の凹凸	3
						歯型板面の歯咬み合い部の高低差	2
						歯咬み合い部の縦方間隔 $W_1$	±2
						歯咬み合い部の横方間隔 $W_2$	±5
仕上げ高さ	舗装面に対し 0~-2						
3	2	3	24	3	伸縮装置工 (埋設型ジョイント)	表面の凹凸	3
						仕上げ高さ	舗装面に対し 0~+3
3	2	3	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り, 巨石積み)	基準高 $\nabla$	±500
						法 長 $l$	-200
						延 長 $L$	-200
3	2	3	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 $l$	-100
						厚 さ $t$	-0.2t
						延 長 $L$	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>高さについては車道端部、中央部において車線方向に各3点計9点。</p> <p>表面の凸凹は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凸凹が3mm以下</p> <p>歯咬み合い部は車道端部、中央部の計3点。</p>		3-2-3-24
<p>車道端部及び中央部付近の3点を測定。</p> <p>表面の凸凹は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凸凹が3mm以下</p>		3-2-3-24
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1箇所、延長 40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		3-2-3-26
<p>施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき1箇所、延長 40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2箇所。</p>		3-2-3-26

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	3	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100
						厚 さ t		-50
3	2	3	27	2	羽口工 (ふとんかご, かご 枠)	高 さ h	-100	
						延 長 $L_1, L_2$	-200	
3	2	3	28		プレキャストカルバート工 (プレキャストボックス工) (プレキャストパイプ工)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						※幅 w	-50	
						※高 さ h	-30	
						延 長 L	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2箇所。</p>		3-2-3-27
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2箇所。</p>		3-2-3-27
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1箇所, 施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2箇所。 ※印は, 現場打部分のある場合。</p>		3-2-3-28
1 施工箇所		

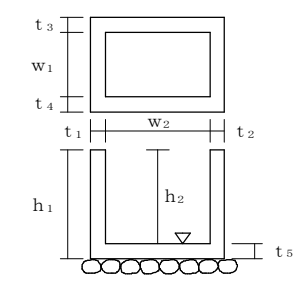
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	3	29	1	側溝工 (プレキャストU型側溝) (L型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						延 長 L	-200
3	2	3	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚 さ $t_1, t_2$	-20
						幅 $w$	-30
						高 さ $h_1, h_2$	-30
						延 長 L	-200
3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						幅 $w_1, w_2$	-50
						深 さ h	-30
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。</p>		3-2-3-29
1 施工箇所		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 施工延長 40 m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇 所につき 2 箇所。</p>		3-2-3-29
1 施工箇所		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合の、製品寸法 は、規格証明書等による。)</p>		3-2-3-29
1 施工箇所		

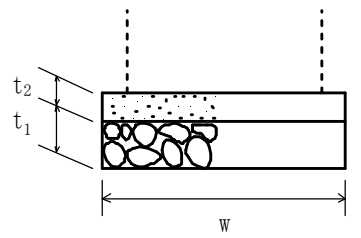
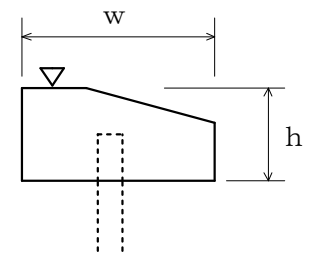
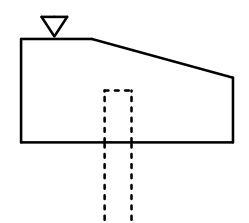
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	30		集水桝工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 $w_1, w_2$	-30
						※高さ $h_1, h_2$	-30
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	31		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所毎 ※は、現場打部分のある場合		3-2-3-30
塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200 m <sup>2</sup> に満たない場合は10 m <sup>2</sup> ごとに1点とする。		3-2-3-31

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	4	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割り石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上
						厚さ $t_1, t_2$	-30
						延 長 L	各構造物の 規格値による
3	2	4	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						幅 w	-30
						高 さ h	-30
						延 長 L	-200
3	2	4	3	2	基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		3-2-4-1
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		3-2-4-3
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。		3-2-4-3



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	4	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 $\nabla$	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ 100 以内
						傾 斜	1/100 以内
3	2	4	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント 杭)	基 準 高 $\nabla$	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	100 以内
						傾 斜	1/100 以内
						杭 径 D	設計値以上
3	2	4	5		場所打杭工	基 準 高 $\nabla$	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	100 以内
						傾 斜	1/100 以内
						杭 径 D	設計径 (公称 径) -30 以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-4
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-4
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50
						根 入 長	設計値以上
						偏 心 量 d	150 以内
						傾 斜	1/50 以内
						基 礎 径 D	設計径（公称径）以上※
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100
						ケーソンの長さℓ	-50
						ケーソンの幅 w	-50
						ケーソンの高さh	-100
						ケーソンの壁厚 t	-20
						偏 心 量 d	300 以内
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100
						ケーソンの長さℓ	-50
						ケーソンの幅 w	-50
						ケーソンの高さh	-100
						ケーソンの壁厚 t	-20
						偏 心 量 d	300 以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ <p>※ライフプレートの場合はその内径，補強リングを必要とする場合は補強リングの内径とし，モタルライングの場合はモタル等の土留め構造の内径にて測定。</p>	3-2-4-6
壁厚，幅，高さ，長さ，偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-7
壁厚，幅，高さ，長さ，偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-8

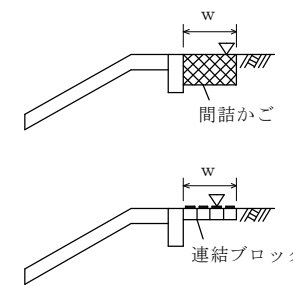
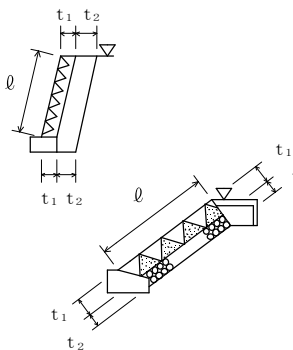
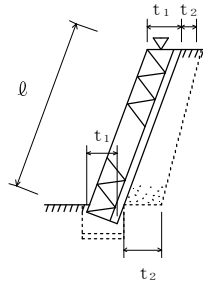
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	4	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 100$	
						根 入 長	設計値以上	
						偏 心 量 d	300 以内	
3	2	5	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法 長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ (ブロック積張) $t_1$	-50	
						厚さ (裏込) $t_2$	-50	
						延 長 L	-200	
3	2	5	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法 長 $\ell$	-100	
						延長 $L_1, L_2$	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-4-9
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。		3-2-5-3
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-5-3

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	5	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						幅 w	-100	
						延 長 L	-200	
3	2	5	4		緑化ブロック工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ(ブロック) $t_1$	-50	
						厚さ(裏込) $t_2$	-50	
						延 長 L	-200	
3	2	5	5		石積(張)工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						法長 $\ell$	$\ell < 3\text{m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{m}$	-100
						厚さ(石積・張) $t_1$	-50	
						厚さ(裏込) $t_2$	-50	
延 長 L	-200							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		3-2-5-3
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		3-2-5-4
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。厚さは上端部及び下端部の 2 箇所を測定。</p>		3-2-5-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書</p> <p>の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満</p> <p>厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	2	アスファルト舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000 m<sup>2</sup>以上10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が、500 t以上3,000 t未満</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。  小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m <sup>2</sup> 以上 10,000 m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満	3-2-6-7
		厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	4	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは 標高較差	-55	-64	-8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000m<sup>2</sup>以上10,000m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満</p>	3-2-6-7



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	5	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m<sup>2</sup>に1個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満</p> <p>厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	6	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	- 8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは, 管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい, 舗装施工面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が, 3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは, 中規模以上の工事より規模は小さいものの, 管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい, 同一工種の施工が数日連続する場合で, 次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	7	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	-	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	<p>工事規模の考え方</p> <p>中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で 1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満</p> <p>厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について</p> <p>橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	8	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-37	-46	-5	-7

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満</p> <p>厚さは個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X<sub>10</sub>)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	9	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	-	-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の見取図によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。  小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m <sup>2</sup> 以上 10,000 m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満  厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	10	アスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-26	-3	-4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500 t以上 3,000 t未満</p>	3-2-6-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	11	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	-	-
						平 坦 性	-		3mプロファイルメーター (σ)2.4 mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の見点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合が該当する。  小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m <sup>2</sup> 以上 10,000 m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満  厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  1,000 m <sup>2</sup> 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-7

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	7	12	アスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-17	-20	-2	-3
						平坦性	—		3mプロファイルメータ (σ) 2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ) 1.75mm 以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 : mm 摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事とは, 管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい, 舗装施工面積が 10,000 m<sup>2</sup>以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が, 3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは, 中規模以上の工事より規模は小さいものの, 管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい, 同一工種の施工が数日連続する場合で, 次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m<sup>2</sup>以上 10,000 m<sup>2</sup>未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満</p> <p>1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては, 平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-7



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均( $X_{10}$ ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくても良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場 合が該当する。</p>	3-2-6-8

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 ( $X_{10}$ ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	-10
						幅	-50	-50	—	—

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80 m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 ( $X_{10}$ ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	-8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 <u>ただし、3,000 m<sup>2</sup>未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。</u>	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	-8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式)」を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	7	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5	- 7
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	8	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36	-45	-5	-7

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-8



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	9	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	10	半たわみ性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-26	-3	-4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式)」を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は, 管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい, 基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは, 中規模以上の工事より規模は小さいものの, 管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい, 同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	8	11	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平 坦 性	—			
							3mプロファイルメータ (σ)2.4mm 以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		3-2-6-8

幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m<sup>2</sup>毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m<sup>2</sup>未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。

工事規模の考え方  
中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。  
小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。  
コアー採取について  
橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  
1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均( $X_{10}$ ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	6 一 般 舗 装 工	8	12	半たわみ性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-17	-20	-2	-3
						平坦性	—		3mプロフィールメータ( $\sigma$ )2.4mm以下 直読式(足付き) ( $\sigma$ )1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」、「地上移動体搭載型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 1,000m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。</p>	3-2-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	-45	-45	-15	-15
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。</p> <p>なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	4	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	- 8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-9



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 <u>ただし、3,000 m<sup>2</sup>未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。</u>	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-64	- 8	-10

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は, 管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい, 基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは, 中規模以上の工事より規模は小さいものの, 管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい, 同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	7	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	8	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-37	-46	-5	-7

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-9

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	9	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	10	排水性舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-26	-3	-4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-9

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	11	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平坦性	—		3mプロファイルター (σ)2.4mm以下 直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下	

単位：mm

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> 毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m <sup>2</sup> 未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	9	12	排水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-17	-20	-2	-3
						平坦性	—		3mプロフィールメーター (σ)2.4mm以下直読式 (足付き) (σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は, 管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい, 基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは, 中規模以上の工事より規模は小さいものの, 管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい, 同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 <u>1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事</u>においては, 平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-9



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		測定値の平均
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
3	2	6	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50		—
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100		—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は片側延長 40m 毎に 1 箇所割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。 ※歩道舗装に適用する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		測定値の平均
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±50		—
						厚さあるいは標高較差	t < 15cm	-64	-10
							t ≥ 15cm	-91	-15

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p> <p>※歩道舗装に適用する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		測定値の平均
							中規模以上	小規模以下	
3	2	6	10	3	透水性舗装工 (表層工)	厚さ	-9		-3
						幅	-25		-

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>幅は、片側延長 80m 毎に 1 箇所割で測定。 厚さは、片側延長 200m 毎に 1 箇所コアを採取して測定。 ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。 ただし、600m 未満の場合は最低 3 個とする。</p> <p>※歩道舗装に適用する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		測定値の平均
							中規模以上	小規模以下	
3	2	6	10	4	透水性舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-3	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。</p> <p>※歩道舗装に適用する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-10

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	1	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5	- 7
						幅	-50	-50	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	2	グースアスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-36	-45	-5	-7

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	3	グースアスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4
						幅	-25	-25	—	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	4	グースアスファルト舗装工 (基層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-25	-3	-4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。</p>	3-2-6-11



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	5	グースアスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平坦性	—		3mプロフィールメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		3-2-6-11

幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1000 m<sup>2</sup>毎に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m<sup>2</sup>未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。

工事規模の考え方  
 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。  
 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。  
 コアー採取について  
 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  
 1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	11	6	グースアスファルト舗装工 (表層工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-17	-20	-2	-3
						平坦性	—		3mプロフィールメータ(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。 <u>1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事</u>においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup> 未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	2	コンクリート舗装工 (下層路盤工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15
						厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	3	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	4	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	- 8	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未滿あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未滿。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	5	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-12
	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	6	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・ 瀝青) 安定処理工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高 較差	-55	-66	-8	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。この場合, 基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは, 1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは, 表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		-	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所を割とし、厚さは、1,000 m<sup>2</sup>に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m<sup>2</sup>未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m<sup>2</sup>未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-27	-3	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	9	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	厚 さ	—10		—3.5	
						幅	—25		—	
						平 坦 性	—		コンクリートの硬化後 3mプロフィルメータにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm 以下 人力舗設の場合 (σ)3mm 以下	
					目地段差	± 2				

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から 1 mの線上、全延長とする。なお、スリップフォーム工法の場合は、厚さ管理に関し、打設前に各車線の中心付近で各車線 200m毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上路盤の基準高を測定し、測定打設後に各車線 200m毎に両側の版端を測定する。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。</p> <p>隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することができる。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均(X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	10	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-22		-3.5	
						平坦性	—		3mプロフィールメータ(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」,「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合,その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし,全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 厚さは,直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は,直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合,基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは,1層あたりの施工面積が2,000m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは,表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m<sup>2</sup>未満。  1,000m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては,平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	11	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長 40m毎に1箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に1箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	3-2-6-12

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	12	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工) (面管理の場合)	基準高▽	±90	±90	+40 -15	+50 -15
						厚さあるいは標高較差	±90	±90	+40 -15	+50 -15

測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 : mm 摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザーキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）」を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	13	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に1箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-12

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	14	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	-8	

測 定 基 準	測 定 箇 所	単 位 : mm 摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」,「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領(案)」または「TS(ノンプリズム方式)を用いた出来形管理要領(舗装工事編)(案)」に基づき出来形管理を実施する場合,その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし,全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>(平面投影面積当たり)以上とする。</p> <p>4. 厚さは,直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は,直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。この場合,基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは,1層あたりの施工面積が2,000m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは,表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	15	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・瀝青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取もしくは、掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	16	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント (石灰・瀝青) 安定処理工 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-55	-66	- 8	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」, 「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領 (案)」または「TS (ノンプリズム方式) を用いた出来形管理要領 (舗装工事編) (案)」に基づき出来形管理を実施する場合, その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±10 mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし, 全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup> (平面投影面積当たり) 以上とする。</p> <p>4. 厚さは, 直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は, 直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求める高さとの差とする。この場合, 基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは, 1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは, 表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t 未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	17	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		-	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に1箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に1個の割でコアーを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	18	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層 (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-20	-27	-3	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未滿あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未滿。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	19	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15		-4.5	
						幅	-35		-	
						平 坦 性	-		転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより(σ)2.4mm以下。	
						目地段差	± 2			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線 200m毎に水糸又はレベルにより 1 測線当たり横断方向に 3 箇所以上測定、幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から 1 m の線上、全延長とする。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。</p> <p>隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p> <p>コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p> <p>1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-12

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	12	20	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) (面管理の場合)	厚さあるいは標高較差	-32		-4.5	
						平坦性	—		3mプロフィールメーター(σ)2.4mm以下直読式(足付き)(σ)1.75mm以下	
						目地段差	± 2			

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>1. 3次元データによる出来形管理において「地上型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」、「地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理要領（案）」または「TS（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理要領（舗装工事編）（案）」に基づき出来形管理を実施する場合、その他本基準に規定する計測精度・計測密度を満たす計測方法により出来形管理を実施する場合に適用する。</p> <p>2. 個々の計測値の規格値には計測精度として±4mmが含まれている。</p> <p>3. 計測は設計幅員の内側全面とし、全ての点で標高値を算出する。計測密度は1点/m<sup>2</sup>（平面投影面積当たり）以上とする。</p> <p>4. 厚さは、直下層の標高値と当該層の標高値との差で算出する。</p> <p>5. 厚さを標高較差として評価する場合は、直下層の目標高さ+直下層の標高較差平均値+設計厚さから求まる高さとの差とする。この場合、基準高の評価は省略する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500 t未満あるいは施工面積が2,000 m<sup>2</sup>未満。  1,000 m<sup>2</sup>未満の舗装工事及び維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	3-2-6-12
隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚 さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3	2	6	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書 の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-13
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の間隔で測定することができる。 なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。		3-2-6-13

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	- 8	
						幅	-50		—	
3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	- 5	
						幅	-50		—	
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	- 9	-12	- 3	
						幅	-25		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-13
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-13
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		3-2-6-13



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	
						厚さ	-45		-15	
						幅	-50		—	
3	2	6	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は、延長 40m毎に 1 箇所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。 幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割に測定。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。</p>	3-2-6-14
<p>幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、各車線 200m毎に 1 箇所を掘り起こして測定。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り起こして測定しなくてもよい。</p>		3-2-6-14

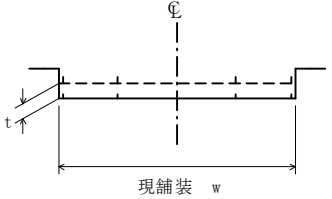
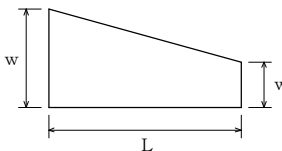
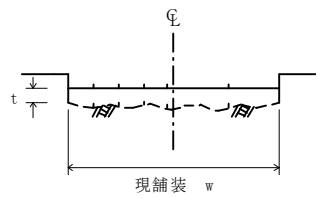
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> ) *面管理の場合は測定値の平均	
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下
3	2	6	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント (石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	
						幅	-50		—	
3	2	6	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	
						幅	-50		—	
3	2	6	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	
						幅	-25		—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取もしくは掘り起こして測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2,000 m <sup>2</sup> 未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-14
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	コアー採取について 橋面舗装等でコアー採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	3-2-6-14
幅は、延長 80m毎に 1 箇所の割とし、厚さは、1,000 m <sup>2</sup> に 1 個の割でコアーを採取して測定。ただし、3,000 m <sup>2</sup> 未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m <sup>2</sup> 未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。		3-2-6-14

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ( $X_{10}$ )
3	2	6	15		路面切削工	厚 さ t	-7	-2
						幅 w	-25	—
3	2	6	16		舗装打換え工	路盤工	幅 w	-50
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
						舗設工	幅 w	-25
							延長 L	-100
							厚さ t	該当工種
3	2	6	17		オーバーレイ工	厚 さ t	-9	
						幅 w	-25	
						延 長 L	-100	
						平 坦 性	—	3mプロフィールメーター (σ)2.4mm 以下直読式 (足付き) (σ)1.75mm 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは 40m 毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。                  測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。                  延長 40m 未満の場合は、2 箇所/施工箇所とする。                  断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。                  測定方法は自動横断測定法によることが出来る。</p>	 <p style="text-align: center;">現舗装 w</p>	3-2-6-15
各層毎 1 箇所 / 1 施工箇所	 <p style="text-align: center;">L</p>	3-2-6-16
<p>厚さは 40m 毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。                  測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。                  幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、延長 80m 未満の場合は、2 箇所/施工箇所とする。                  断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p style="text-align: center;">現舗装 w</p>	3-2-6-17

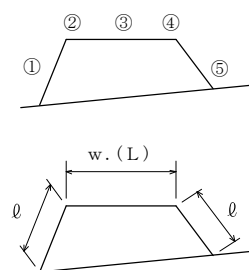
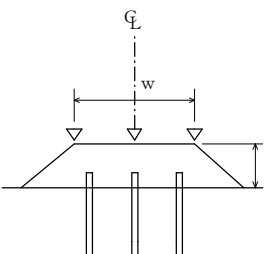
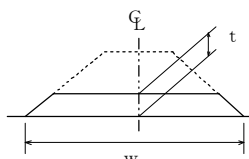
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	7	2		路床安定処理工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
						施 工 厚 さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200
3	2	7	3		置換工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
						置 換 厚 さ t	-50
						幅 w	-100
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>延長 40m 毎に 1 箇所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		3-2-7-2
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 厚さは中心線及び端部で測定。</p>		3-2-7-3

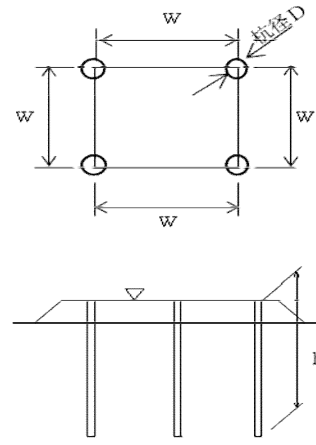
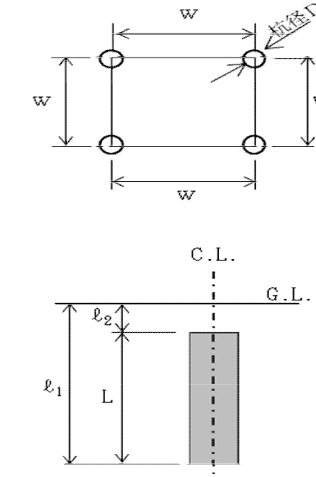
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 $\nabla$	特記仕様書に 明示
						法 長 $l$	-500
						天 端 幅 $w$	-300
						天端延長 $L$	-500
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	5		パイルネット工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
						厚 さ $t$	-50
						幅 $w$	-100
						延 長 $L$	-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	7 地 盤 改 良 工	6		サンドマット工	施工厚さ $t$	-50
						幅 $w$	-100
						延 長 $L$	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 10mにつき、1測点当たり5点以上測定。</p> <p>w. (L) は施工延長 40mにつき1箇所、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 (L) はセンターライン及び表裏法肩で行う。</p>		3-2-7-4
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。</p>		3-2-7-5
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m) につき1箇所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。</p>		3-2-7-6

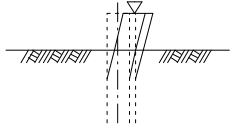
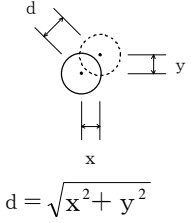
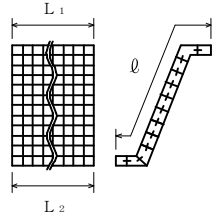
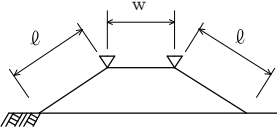
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	7	7		バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位置・間隔w	±100
						杭 径 D	設計値以上
			8		締め改良工 (サンドコンパクション ンパイル工)	打 込 長 さ h	設計値以上
						サンドドレーン, 袋詰 式サンドドレーン, サ ンドコンパクションパ イルの砂投入量	—
3	2	7	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰パイル工)	基 準 高 ▽	-50
						位置・間隔w	D/4以内
						杭 径 D	設計値以上
						深 度 L	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。1箇所に4 本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対 象外とする。 全本数		3-2-7-7 3-2-7-8
全本数 計器管理にかえることができる。	※余長は、適用除外	
100本に1箇所。 100本以下は2箇所測定。 1箇所に4本測定。 全本数 $L = \ell_1 - \ell_2$ $\ell_1$ は改良体先端深度 $\ell_2$ は改良端天端深度		3-2-7-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 100$
						根 入 長	設計値以上
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ $\ell$	設計深さ以上
						配 置 誤 差 $d$	100
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 $\ell$	-100
						延 長 $L_1$ $L_2$	-200
3 土木工事共通編	2 一般施工	10 仮設工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 $\nabla$	-50
						天 端 幅 $w$	-100
						法 長 $\ell$	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
基準高は施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		3-2-10-5
全数 (任意仮設は除く)	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-10-5
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。  1 施工箇所毎		3-2-10-5
施工延長 50m につき 1 箇所。 延長 50m 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)		3-2-10-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	10	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 $\nabla$	-50
3	2	10	9		地中連続壁工 (壁式)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
					連壁の長さ $\ell$	-50	
					変 位	300	
					壁 体 長 $L$	-200	
3	2	10	10		地中連続壁工 (柱列式)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
					連壁の長さ $\ell$	-50	
					変 位 $d$	D/4 以内	
					壁 体 長 $L$	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 50mにつき 1 箇所。 延長 50m以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 (任意仮設は除く)</p>		3-2-10-5
<p>基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		3-2-10-9
<p>基準高は施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものについては 1 施工箇所につき 2 箇所。 変位は施工延長 20m (測点間隔 25mの場合は 25m) につき 1 箇所。延長 20m (又は 25m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		3-2-10-10 D : 杭径



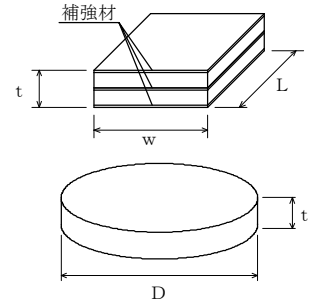
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値			
3	土 木 工 事 共 通 編	2	12	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ		
								≤1000mm	1以下	
								センターボスを基準にした孔位置のずれ		
								>1000mm	1.5以下	
							アンカーボルト用孔(鑄放し)	孔の直径	≤100mm	+3 -1
								>100mm	+4 -2	
							孔の中心距離		JIS B 0403 CT13	
							センターボス	ボスの直径	+0 -1	
								ボスの高さ	+1 -0	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。		3-2-12-1

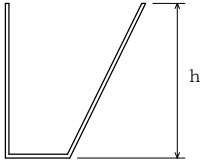
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工共 通	1	1	鑄造費 (金属支承工)	上沓の橋軸及び直角方向 の長さ寸法	JIS B 0403 CT13		
						全 移 動 量 $\phi$	$\phi \leq 300\text{mm}$	$\pm 2$	
							$\phi > 300\text{mm}$	$\pm \phi / 100$	
						組 立 高 さ H	上, 下面加工仕上げ	$\pm 3$	
							コン クリ ート 構 造 用	$H \leq 300\text{mm}$	$\pm 3$
								$H > 300\text{mm}$	(H/200+3) 小数 点以下切り捨 て
						普 通 寸 法	鑄放し長さ寸法 ※1), ※2)	JIS B 0403 CT14	
							鑄放し肉厚寸法 ※1)	JIS B 0403 CT15	
							削り加工寸法	JIS B 0405 粗級	
							ガス切断寸法	JIS B 0417 B級	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工共 通	1	2	鑄造費 (大型ゴム支承工)	幅 w	$w, L, D \leq 500$	0 ~ + 5	
						長 さ L	$500 < w, L, D \leq 1500\text{mm}$	0 ~ + 1 %	
						直 径 D	$1500 < w, L, D$	0 ~ + 15	
						厚 さ t	$t \leq 20\text{mm}$	$\pm 0.5$	
							$20 < t \leq 160$	$\pm 2.5\%$	
							$160 < t$	$\pm 4$	
						平 面 度	$w, L, D \leq 1000$	1	
$1000 \text{ mm} < w, L, D$	(w, L, D) /1000								

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
製品全数を測定。  ※ 1) 片面削り加工も含む。  ※ 2) ただし、ソールプレート接触面 の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に 対してはCT13を適用する。		3-2-12-1
製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ (t) の最大相対誤差		3-2-12-1

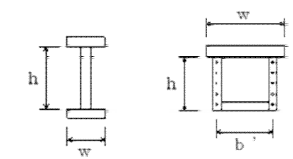
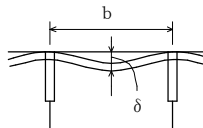
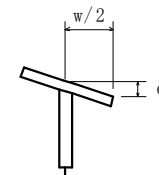
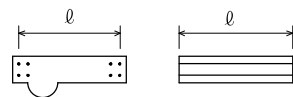
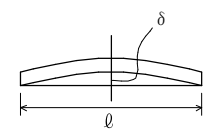
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3 土木工事 共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m)  $\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$
						刃口金物製作工	刃 口 高 さ h (m)  $\pm 2 \dots\dots$ $h \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < h \leq 2.0$
						外周長 L (m)	$\pm (10+L/10)$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		3-2-12-1
図面の寸法表示箇所にて測定。		3-2-12-1

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値	
						測 定 項 目			
3	土	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部 材 精 度	フランジ幅 w (m)	± 2 …… w ≤ 0.5 ± 3 …… 0.5 < w ≤ 1.0
								腹板高 h (m)	± 4 ……
								腹板間隔 b' (m)	1.0 < w ≤ 2.0 ± (3+w/2) 2.0 < w
								鋼桁及びトラス等の部材の腹板	h / 250
								箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	b / 150
フランジの直角度 δ (mm)	w / 200								
部 材 長 ℓ (m)	鋼桁	± 3 …… ℓ ≤ 10 ± 4 …… ℓ > 10							
	トラス, アーチなど	± 2 …… ℓ ≤ 10 ± 3 …… ℓ > 10							
	圧縮材の曲がり δ (mm)	ℓ / 1000							

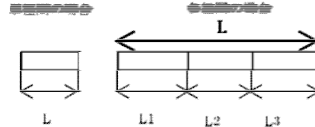
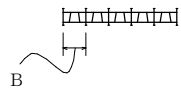

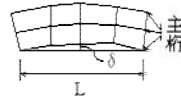
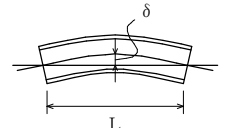
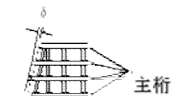
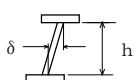
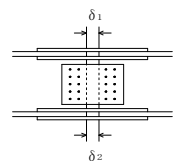
測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。 なお、JIS マーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行する JIS に基づく試験成績表に替えることができる。		 I型鋼桁      トラス材材	3-2-12-3
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。  h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)			3-2-12-3
			3-2-12-3
原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。			3-2-12-3
—		主要部材全数を測定。  ℓ : 部材長 (mm) 	3-2-12-3

※規格値の w に代入する数値は m 単位の数値である。

ただし、「板の平面度 δ、フランジの直角度 δ、圧縮材の曲り δ」の規格値の h, b, w に代入する数値は mm 単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3	2	12	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	全長 L (m)		$\pm (10+L/10)$ $\pm (10+Ln/10)$
						支間長 L n (m)		
						主桁, 主構の中心間距離 B (m)		$\pm 4 \cdots B \leq 2$ $\pm (3+B/2)$ $\cdots B > 2$
						主構の組立高さ h (m)		$\pm 5 \cdots h \leq 5$ $\pm (2.5+h/2)$ $\cdots h > 5$
						主桁, 主構の通り $\delta$ (mm)		$5+L/5 \cdots$ $L \leq 100$ $25 \cdots L > 100$
						主桁, 主構のそり $\delta$ (mm)		$-5 \sim +5 \cdots L \leq 20$ $-5 \sim +10 \cdots$ $20 < L \leq 40$ $-5 \sim +15 \cdots$ $40 < L \leq 80$ $-5 \sim +25 \cdots$ $80 < L \leq 200$
						主桁, 主構の橋端における出入差 $\delta$ (mm)		$\pm 10$
						主桁, 主構の鉛直度 $\delta$ (mm)		$3+h/1,000$
					現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)		$\pm 5$	

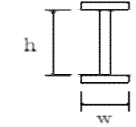
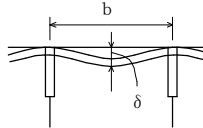
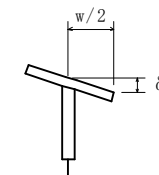
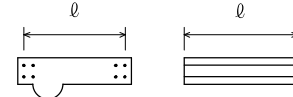
測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
各桁毎に全数測定。			3-2-12-3
—			3-2-12-3
—			3-2-12-3
最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。 L：測線上 (m)			3-2-12-3
各主桁について 10 ～ 12 m 間隔を測定。 L：主桁の 支間長 (m)	各主構の各格点を測定。 L：主構の支間長 (m)		3-2-12-3
どちらか一方の主桁 (主構) 端を測定。			3-2-12-3
各主桁の両端部を測定。 h：主桁の高さ (mm)	支点及び支間中央付近を測定。 h：主構の高さ (mm)		3-2-12-3
主桁, 主構の全継手数の 1/2 を測定。 $\delta_1, \delta_2$ のうち大きいもの なお, 設計値が 5 mm 未満の場合は, すき間の許容範囲の下限値を 0 mm とする。 (例：設計値が 3 mm の場合, すき間の許容範囲は 0 mm～8 mm)			3-2-12-3

※規格値のL, B, h に代入する数値はm単位の数値である。

ただし, 「主桁, 主構の鉛直度 $\delta$ 」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$
						腹板高 h (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3+w/2)$ $2.0 < w$
						板鋼桁等の部材の腹板の平面度 $\delta$ (mm)	$h/250$
						箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$
					材	フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$
					精		
					度	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
主桁, 主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に, 5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。	 I型鋼桁	3-2-12-3
主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。  h : 腹板高 (mm) b : 腹板又はリブの間隔 (mm) w : フランジ幅 (mm)		
		
主要部材全数を測定。		

※規格値のwに代入する数値はmm単位の数値である。

ただし、「版の平面度 $\delta$ 、フランジの直角度 $\delta$ 」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。

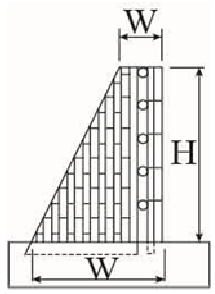
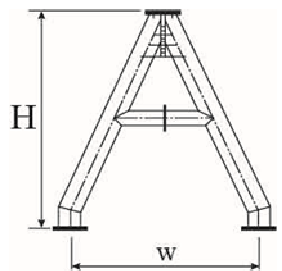
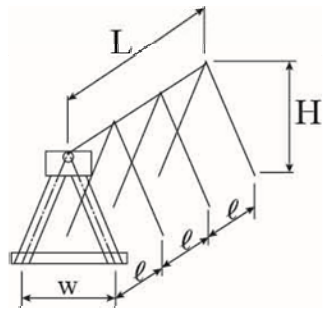
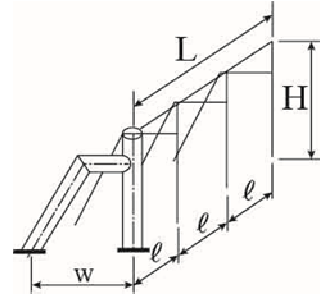
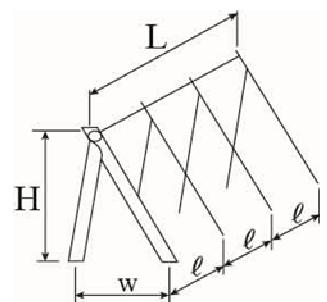
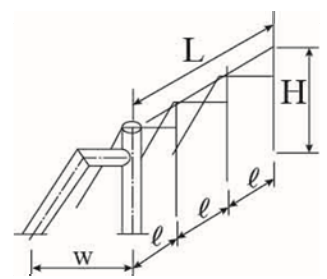
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))	部材の水平度	10
						堤 長 L	±30
						堤 長 $l$	±10
						堤 幅 W	±30
						堤 幅 w	±10
						高 さ H	±10
						ベースプレートの高さ	±10
						本体の傾き	±H/500

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
全数を測定。		3-2-12-3

単位：mm

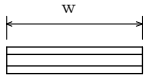
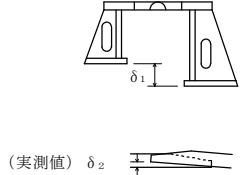
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工 (仮組立時))		

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
  	  	3-2-12-3



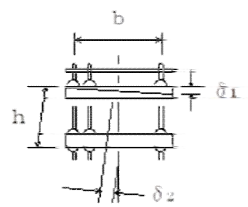
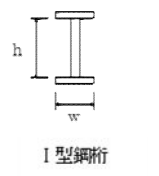
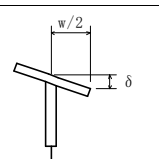
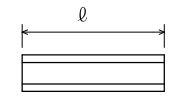
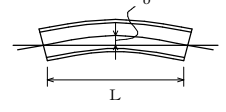
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	4		検査路製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	5		鋼製伸縮継手製作工	部 材	部材長 $w$ (m) $0 \sim +30$	
						仮 組 立 時	組合せる伸縮装置 との高さの差 $\delta_1$ (mm)	設 計 値 $\pm 4$
							フィンガーの食い 違い $\delta_2$ (mm)	$\pm 2$
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	6		落橋防止装置製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	7		橋梁用防護柵製作工	部 材	部 材 長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots\dots$ $\ell \leq 10$ $\pm 4 \dots\dots$ $\ell > 10$	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		3-2-12-4
製品全数を測定。		3-2-12-5
両端部及び中央部付近を測定。		
図面の寸法表示箇所にて測定。		3-2-12-6
図面の寸法表示箇所にて測定。		3-2-12-7

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	8		アンカーフレーム製作工	仮組立時 上面水平度 $\delta_1$ (mm)	$b/500$	
						鉛直度 $\delta_2$ (mm)	$h/500$	
						高さ h (mm)	$\pm 5$	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	9		プレビーム用桁製作工	部 材	フランジ幅 w (m) 腹板高 h (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w/2) \dots 2.0 < w$
						フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w/200$	
						部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	
						仮組立時 主桁のそり $\delta$	$-5 \sim +5$ $\dots L \leq 20$ $-5 \sim +10$ $\dots 20 < L \leq 40$	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	12 工 場 製 作 工 共 通	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
軸心上全数測定。		3-2-12-8
各支点及び各支間中央付近を測定。		3-2-12-9
各支点及び各支間中央付近を測定。		3-2-12-9
原則として仮組立をしない部材について主要部材全数で測定。		3-2-12-9
各主桁について10~12m間隔を測定。		3-2-12-9
図面の寸法表示箇所を測定。		3-2-12-10

単位：mm

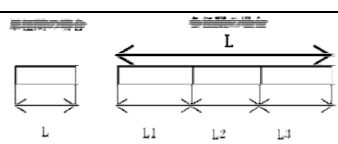
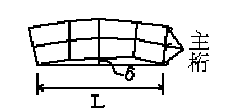
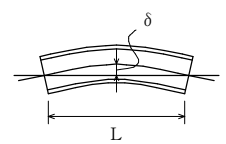
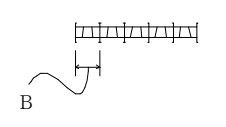
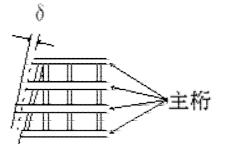
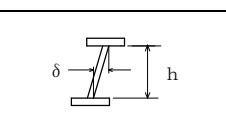
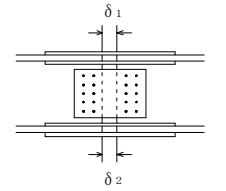
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	12	11		工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは、500 m <sup>2</sup> とする。 1 ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200 m <sup>2</sup> に満たない場合は10 m <sup>2</sup> ごとに1点とする。		3-2-12-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値								
3	土	木	工	事	共	通	編	13	橋	架	設	工	架設工（鋼橋）	全 長L (m)	±(20+L/5)
													(クレーン架設)	支間長Ln (m)	±(20+Ln/5)
													(ケーブルクレーン架設)		
													(ケーブルエレクション架設)		
													(架設桁架設)	通 り δ (mm)	±(10+2L/5)
													(送出し架設)		
													(トラベラークレーン架設)		
														そ り δ (mm)	±(25+L/2)
	※主桁、主構の中心間距離 B(m)	±4..... B≤2 ±(3+B/2)..... B>2													
	※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	±10													
	※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000													
	※現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	±5													

※規格値のL, Bに代入する数値はm単位の数値である。  
ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。		3-2-13
L：主桁、主構の支間長(m)		
主桁、主構を全数測定。 L：主桁、主構の支間長(m)		
各支点及び各支間中央付近を測定。		
どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
各主桁の両端部を測定。 h：主桁、主構の高さ(mm)		
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> のうち大きいもの なお、設計値が5mm未満の場合は、すき間の許容範囲の下限値を0mmとする。(例：設計値が3mmの場合、すき間の許容範囲は0mm~8mm)		
※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		

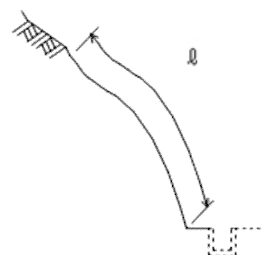
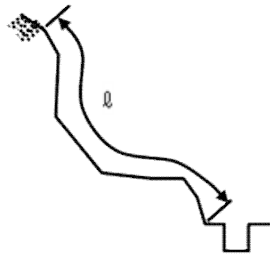
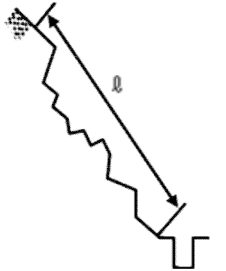
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	13 橋 梁 架 設 工			架設工（コンクリート橋）  （クレーン架設） （架設桁架設）  架設工支保工（固定） （移動）  架設桁架設（片持架設） （押し架設）	全 長・支 間		—
						桁の中心間距離		—
						そ り		—
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土法 長 $\ell$	$\ell < 5\text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-4%
						盛土法 長 $\ell$	$\ell < 5\text{ m}$	-100
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-2%
						延 長 L		-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	2	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長 $\ell$	$\ell < 5\text{ m}$	-200
							$\ell \geq 5\text{ m}$	法長の-4%
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10
							$t \geq 5\text{ cm}$	-20
						ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上。		
						延 長 L		-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各桁毎に全数測定。		3-2-13
一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
主桁を全数測定。		
施工延長 40m（測点間隔 25mの場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-14-2
1 施工箇所		
施工延長 40mにつき 1 箇所、40m以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-14-2
施工面積 200 m <sup>2</sup> につき 1 箇所、面積 200 m <sup>2</sup> 以下のものは、1 施工箇所につき 2 箇所。 検査孔により測定。		
1 施工箇所		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	2	14	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 $\ell$	$\ell < 3\text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚さ t	$t < 5\text{ cm}$	-10
							$t \geq 5\text{ cm}$	-20
						ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上		
		延 長 L	-200					

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40mにつき1箇所、40m以下のものは1施工箇所につき2箇所。 測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。</p>		3-2-14-3
<p>200 m<sup>2</sup>につき1箇所以上、200 m<sup>2</sup>以下は2箇所をせん孔により測定。</p>		
<p>1 施工箇所</p>		

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	1	法枠工 (現場打法枠工) (現場吹付法枠工)	法長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						幅	w	-30
						高 さ	h	-30
						枠中心間隔	a	$\pm 100$
						延 長	L	-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 $\ell$	$\ell < 10\text{m}$	-100
							$\ell \geq 10\text{m}$	-200
						延 長	L	-200
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	14 法 面 工 共 通	6		アンカー工	削孔深さ	$\ell$	設計値以上
						配置誤差	d	100
						せん孔方向	$\theta$	$\pm 2.5$ 度

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m)につき1箇所、延長 40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 枠延長 100mにつき1箇所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2箇所。		3-2-14-4 曲線部は設計図書による
1 施工箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は50m)につき1箇所、延長 40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2箇所。 1 施工箇所		3-2-14-4
全数 (任意仮設は除く)	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$	3-2-14-6

単位：mm

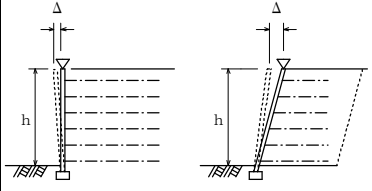
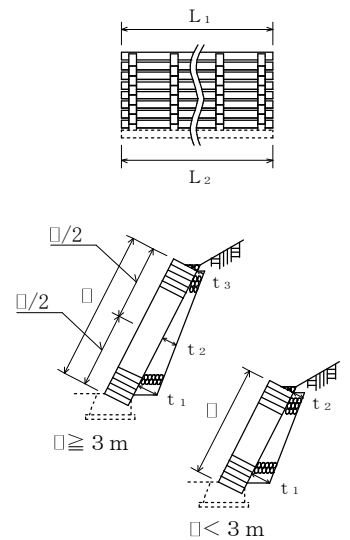
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	土 木 工 事 共 通 編	2	15	1	(一般事項) 場所打擁壁工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						厚 さ t	-20	
						裏 込 厚 さ	-50	
						幅 $w_1, w_2$	-30	
						高 さ h	$h < 3 \text{ m}$	-50
							$h \geq 3 \text{ m}$	-100
						延 長 L	-200	
3	土 木 工 事 共 通 編	2	15	2	プレキャスト擁壁工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						延 長 L	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		3-2-15-1
1 施工箇所		
<p>施工延長 40m (測点間隔 25mの場合 は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所 につき 2 箇所。</p>		3-2-15-2
1 施工箇所		



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
3	土 木 工 事 共 通 編	2	15	3	補強土壁工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工法) (ジオキスタイルを用いた補強土工法)	基準高▽	±50	
						高さ h	$h < 3\text{ m}$	-50
							$h \geq 3\text{ m}$	-100
						鉛 直 度 $\Delta$	$\pm 0.03\text{ h}$ かつ $\pm 300$ 以内	
						控 え 長 さ	設計値以上	
						延 長 L	-200	
3	土 木 工 事 共 通 編	2	15	4	井桁ブロック工	基 準 高 ▽	±50	
						法長 $\ell$	$\ell < 3\text{ m}$	-50
							$\ell \geq 3\text{ m}$	-100
						厚さ $t_1, t_2, t_3$	-50	
						延 長 $L_1, L_2$	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所		3-2-15-3
1 施工箇所		
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-15-4
1 施工箇所		

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
3	2	18	2		床版工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						幅 w	$0 \sim +30$
						厚 さ t	$-10 \sim +20$
						鉄筋のかぶり	設計値以上
						鉄筋の有効高さ	$\pm 10$
						鉄 筋 間 隔	$\pm 20$
	上記、鉄筋の有効高さがマックスの場合	$\pm 10$					

測 定 基 準	測 定 箇 所	単位：mm 摘 要
基準高は、1 径間当たり 2 箇所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3 箇所、厚さは型枠設置時におおむね 10 m に 1 箇所測定。 （床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		3-2-18-2 注) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工及び重要構造物である内空断面積 25 m <sup>2</sup> 以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外）の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋及びかぶり測定要領[案]」も併せて適用する。
1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1 箇所とする。		
1 径間当たり 3 箇所（両端及び中央）測定。 1 箇所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2 m の範囲を測定。		

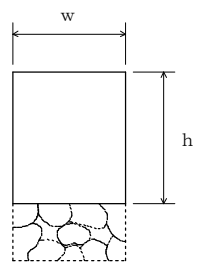
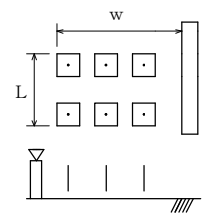
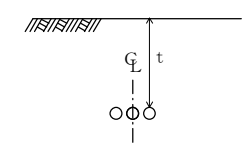
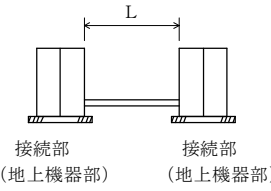
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
4 公園 編					高木植栽工	樹 高 H	— 0
						幹 周 C	— 0
						枝 張 W	— 0
4 公園 編					中低木植栽工	樹 高 H	— 0
						枝 張 W (葉 張)	— 0

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
樹種別に10本に1本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹高Hについて 樹木の、樹冠の頂端から根鉢の上端までの垂直高をいい、一部の突出した枝は含まない。なお、ヤシ類など特殊樹木にあって「樹高」と特記する場合は幹部の垂直高をいう。</li> <li>・幹周Cについて 樹木の、幹の周長をいい、根鉢の上端より1.2m上りの位置を測定する。この部分に、枝が分岐しているときは、その上部を測定する。幹が2本以上の樹木の場合においては、おのおのの周長の総和の70%をもって幹周とする。なお、「根元周」と特記する場合は幹の根元の周長をいう。</li> <li>・枝張Wについて 樹木等の、四方面に伸張した枝(葉)の幅をいう。測定方向により幅に長短がある場合は、最長と最短の平均値とする。なお、一部の突出した枝は含まない。葉張とは低木の場合についていう。</li> </ul>	
樹種別に10本に1本	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹高Hについて 樹木の、樹冠の頂端から根鉢の上端までの垂直高をいい、一部の突出した枝は含まない。なお、ヤシ類など特殊樹木にあって「樹高」と特記する場合は幹部の垂直高をいう。</li> <li>・枝張(葉張)Wについて 樹木等の、四方面に伸張した枝(葉)の幅をいう。測定方向により幅に長短がある場合は、最長と最短の平均値とする。なお、一部の突出した枝は含まない。葉張とは低木の場合についていう。</li> </ul>	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	1 築堤 護岸工	7 法覆 護岸工	4		護岸付属物工	幅 w	-30
						高 さ h	-30
6 河川編	1 築堤・ 護岸	10 水制 工	8		杭出し水制工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
						幅 w	$\pm 300$
						方 向	$\pm 7^\circ$
						延 長 L	-200
6 河川編	1 築堤・ 護岸	13 光ケ ーブル 配管工	3		配管工	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200

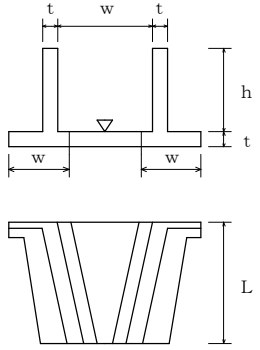
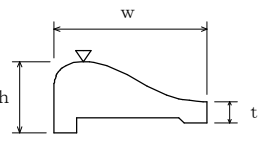
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		6-1-7-4
1組毎		6-1-10-8
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		6-1-13-3
接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターで測定】	 <p>接続部 (地上機器部)      接続部 (地上機器部)</p>	

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	1 築堤・護岸	13 光ケーブル配管工	4		ハンドホール工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 $w_1, w_2$	-30
						※高さ $h_1, h_2$	-30
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管本體工	6	1	函渠工 (本體工)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚さ $t_1 \sim t_8$	-20
						幅 $w_1, w_2$	-30
						内空幅 $w_3$	-30
						内空高 $h_1$	$\pm 30$
						延長 $L$	-200
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管本體工	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						延長 $L$	-200

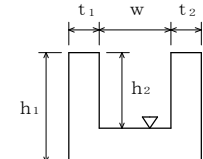
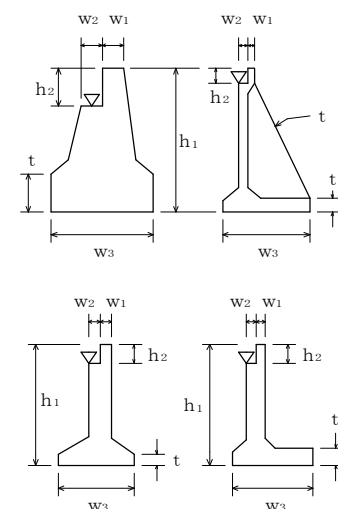
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 箇所毎 ※は現場打部分のある場合		6-1-13-4
柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。 函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。		6-3-5-6
施工延長 40m（測点間隔 25m の場合は 50m）につき 1 箇所、延長 40m（又は 50m）以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所		6-3-5-6

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
6 河川編	3 樋門・樋管	5 樋門・樋管本 体工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	$\pm 30$	
						延 長 L	-50	
6 河川編	4 水門	6 水門本 体工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	$\pm 30$	
						延 長 L	-50	
6 河川編	5 堰	6 可動堰本 体工	13 14		閘門工 土砂吐工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	$\pm 30$	
						延 長 L	-50	
6 河川編	5 堰	7 固定堰本 体工	8 9 10		堰本 体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						厚 さ t	-20	
						幅 w	-30	
						高 さ h	$\pm 30$	
						堰 長 L	L < 20m	-50
							L $\geq$ 20m	-100

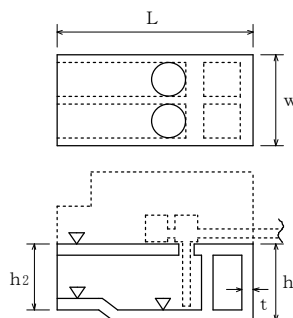
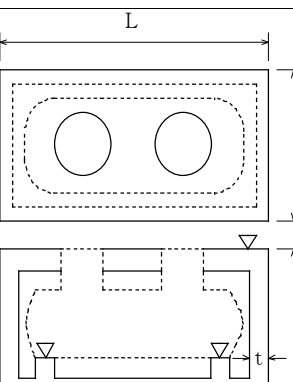
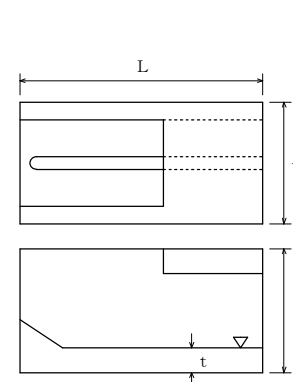
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		6-3-5-7 6-3-5-8
図面の寸法表示箇所にて測定。		6-4-6-7 6-4-6-8 6-4-6-9 6-4-6-10 6-4-6-11
図面の寸法表示箇所にて測定。		6-5-6-13 6-5-6-14
基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。		6-5-7-8 6-5-7-9 6-5-7-10

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	5 堰	8 魚道工	3		魚道本体工	基準高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚さ $t_1, t_2$	-20
						幅 $w$	-30
						高さ $h_1, h_2$	-30
						延長 $L$	-200
6 河川編	5 堰	9 管理橋下部工	2		管理橋橋台工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$
						厚さ $t$	-20
						天端幅 $w_1$ (橋軸方向)	-10
						天端幅 $w_2$ (橋軸方向)	-10
						敷幅 $w_3$ (橋軸方向)	-50
						高さ $h_1$	-50
						胸壁の高さ $h_2$	-30
						天端長 $l_1$	-50
						敷長 $l_2$	-50
						胸壁間距離 $l$	$\pm 30$
						支点長及び 中心線の変化	$\pm 50$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所, 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。(なお, 製品使用の場合の製品寸法は, 規格証明書等による)</p> 		6-5-8-3
<p>橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部, その他は図面の寸法表示箇所にて測定。</p> 		6-5-9-2

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川編	6 排水機場	4 機場本 体工	6		本 体 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ $h_1, h_2$	$\pm 30$
						延 長 L	-50
6 河川編	6 排水機場	4 機場本 体工	7		燃 料 貯 油 槽 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ h	$\pm 30$
						延 長 L	-50
6 河川編	6 排水機場	5 沈砂池 工	7		コ ン ク リ ー ト 床 版 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚 さ t	-20
						幅 w	-30
						高 さ h	$\pm 30$
						延 長 L	-50

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の表示箇所 で測定。		6-6-4-6
図面の表示箇所 で測定。		6-6-4-7
図面の表示箇所 で測定。		6-6-5-7





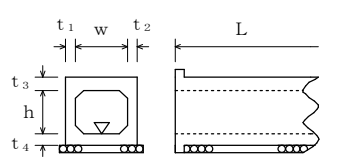
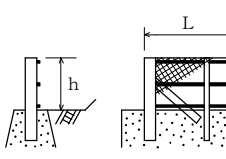
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
6 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 止 め 工	6		本 体 工 ( 床 固 め 本 体 工 )	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						天 端 幅 $w_1 w_3$	-30
						堤 幅 $w_2$	-30
						堤 長 $L_1, L_2$	-100
						水 通 し 幅 $\ell_1, \ell_2$	$\pm 50$
6 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	4 床 止 め 工	8		水 叩 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						厚 さ t	-30
						幅 w	-100
						延 長 L	-100
6 河川 編	7 床 止 め ・ 床 固 め	5 床 固 め 工	6		側 壁 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						天 端 幅 $w_1$	-30
						堤 幅 $w_2$	-30
						長 さ L	-100
6 河川 編					河 道 工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$
						幅 w	$\pm 100$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
		6-7-4-6
<p>図面に表示してある箇所で測定。</p>	<p>基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。</p>	6-7-4-8
<p>1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。</p>		6-7-5-6

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目		規 格 値
						部 材	部材長 $\ell$ (m)	
7	1	3	2		遮音壁支柱製作工		部材長 $\ell$ (m)	$\pm 3 \cdots \ell \leq 10$ $\pm 4 \cdots \ell > 10$
7	1	9	6		場所打函渠工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	
						厚 さ $t_1 \sim t_4$	-20	
						幅 (内法) $w$	-30	
						高 さ $h$	$\pm 30$	
				延長 L		L < 20m	-50	
					L $\geq$ 20m	-100		
7	1	11	4		落石防止網工	幅 $w$	-200	
						延 長 $L$	-200	
7	1	11	5		落石防護柵工	高 さ $h$	$\pm 30$	
						延 長 $L$	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所		7-1-3-2
両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所		7-1-9-6
1 施工箇所		7-1-11-4
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所		7-1-11-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	6		防雪柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基 礎	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30
							高 さ h	-30
7 道 路 編	1 道 路 改 良	11 落 石 雪 害 防 止 工	7		雪崩予防柵工	高 さ h	±30	
						延 長 L	-200	
						基 礎	幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30
							高 さ h	-30
ア ン カ ー 長 ℓ	打 込 み ℓ	-10%						
	埋 込 み ℓ	-5%						
7 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	
						高 さ h	-30	
						延 長 L	-200	
7 道 路 編	1 道 路 改 良	12 遮 音 壁 工	5		遮音壁本体工	支 柱	間隔 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	±15
							ず れ a	10
							ねじれ b-c	5
							倒 れ d	h×0.5%
						高 さ h	+30, -20	
						延 長 L	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所 基礎 1 基毎		7-1-11-6
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所 基礎 1 基毎		7-1-11-7
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、施工延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所毎		7-1-12-4
施工延長 5 スパンにつき 1 箇所 1 施工箇所毎		7-1-12-5

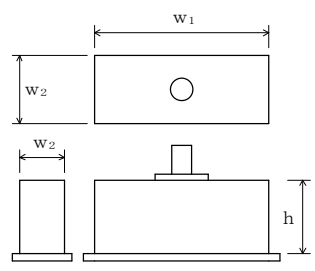
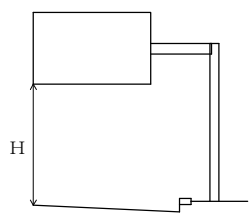
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		
							個々の測定値 (X)		10 個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )
							中規模以上	小規模以下	中規模以上
7 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50		—
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10
							t ≥ 15cm	-45	-15
						幅	-100		—
7 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9	-3	
						幅	-25	—	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高は片側延長 40m毎に 1 箇所割で測定。 厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所掘り起こして測定。 幅は、片側延長 80m毎に 1 箇所測定。 ※両端部 2 点で測定する。</p>	<p>工事規模の考え方 中規模とは、1 層あたりの施工面積が 2000 m<sup>2</sup>以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が 500 t 未満あるいは施工面積が 2000 m<sup>2</sup>未満。 厚さは、個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X<sub>10</sub>) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。  コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。</p>	7-2-4
<p>幅は、片側延長 80m毎に 1 箇所割で測定。厚さは、片側延長 200m毎に 1 箇所コアを採取して測定。</p>		7-2-4

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	2 舗 装	5 排 水 構 造 物 工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						延 長 L	-200
7 道 路 編	2 舗 装	7 踏 掛 版 工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	$\pm 20$
						各 部 の 厚 さ	$\pm 20$
						各 部 の 長 さ	$\pm 30$
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	$\pm 20$
						厚 さ	—
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ
ア ン カ ー 長	$\pm 20$						
7 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 $w_1, w_2$	-30
						高 さ h	-30
7 道 路 編	2 舗 装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
施工延長 40m (測点間隔 25mの場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。 1 施工箇所		7-2-5-9
1 箇所 / 1 踏掛版		7-2-7-4
1 箇所 / 1 踏掛版		
1 箇所 / 1 踏掛版		
全数		
全数		
全数		
基礎一基毎		7-2-9-4
1 箇所 / 1 基		7-2-9-4

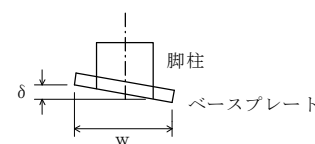
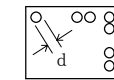
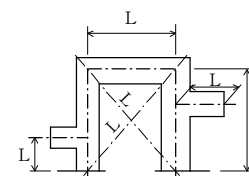
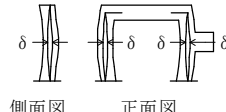
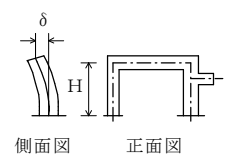
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200
7 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 $w_1, w_2$	-30
						※高さ $h_1, h_2$	-30
7 道 路 編	2 舗 装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30
						高 さ h	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部間毎に1箇所 接続部間毎で全数	<p>接続部 (地上機器部)      接続部 (地上機器部)</p>	7-2-12-5
1箇所毎 ※印は、現場打ちのある場合		7-2-12-5
1箇所 / 1施工箇所		7-2-12-6

単位：mm

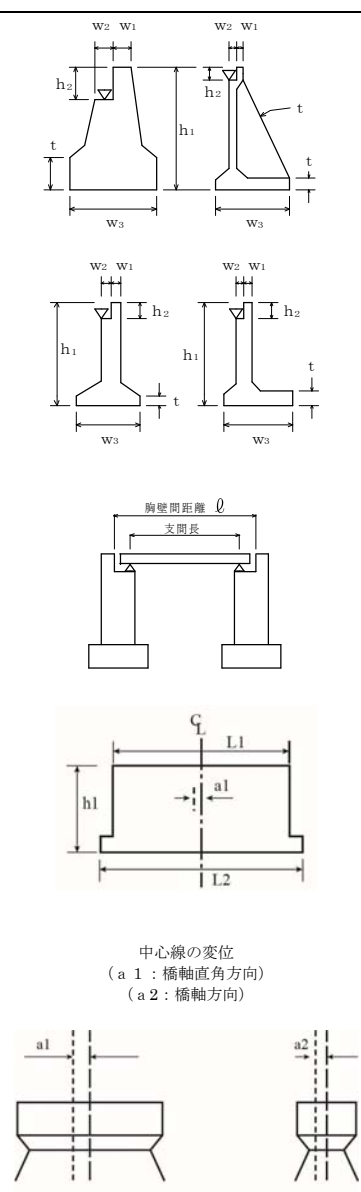
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値		
7	道	路	編	3	鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートの鉛直度 $\delta$ (mm)	w/500	
							ベースプレート	孔の位置	$\pm 2$
								孔の径 d	0 ~ 5
						仮 組	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots$ $L \leq 10m$ $\pm 10 \dots$ $10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10)$ $\dots 20m < L$	
							立 時	はりのキャンバー及び柱の曲がり $\delta$ (mm)	L/1,000
							柱の鉛直度 $\delta$ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
各脚柱、ベースプレートを測定。		7-3-3-3
全数を測定。		7-3-3-3
全数を測定。		
両端部及び片持ばり部を測定。		7-3-3-3
各主構の各格点を測定。		7-3-3-3
各柱及び片持ばり部を測定。 H：高さ (m)		7-3-3-3



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値						
7	3	6	8		橋台躯体工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$						
						厚 さ t	-20						
						天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	-10						
						天 端 幅 $w_2$ (橋軸方向)	-10						
						敷 幅 $w_3$ (橋軸方向)	-50						
						高 さ $h_1$	-50						
						胸壁の高さ $h_2$	-30						
						天 端 長 $l_1$	-50						
						敷 長 $l_2$	-50						
						胸壁間距離 $l$	$\pm 30$						
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$						
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20					
							平 面 位 置	$\pm 20$					
							ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1/50 以下					

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。	 <p>7-3-6-8</p>	7-3-6-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7	道 路 編	3	橋 梁	9	1	橋脚躯体工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						(張出式) (重力式) (半重力式)	厚 さ t	-20
						天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	-20	
						敷 幅 $w_2$ (橋軸方向)	-50	
						高 さ h	-50	
						天 端 長 $l_1$	-50	
						敷 長 $l_2$	-50	
						橋脚中心間距離 $l$	$\pm 30$	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	+10~-20
							平 面 位 置	$\pm 20$
							ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1/50 以下

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。	<p>橋脚中心間距離 支間長</p> <p>中心線の変位 (a1: 橋軸直角方向) (a2: 橋軸方向)</p>	7-3-7-9

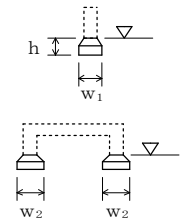
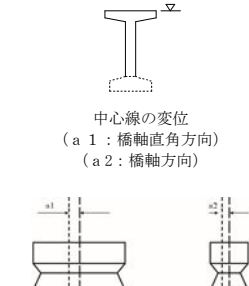
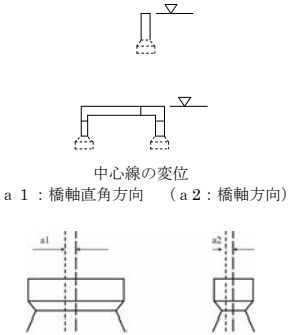
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	7 R C 橋 脚 工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	
						厚 さ t	-20	
						天 端 幅 $w_1$	-20	
						敷 幅 $w_2$	-20	
						高 さ h	-50	
						長 さ $\ell$	-20	
						橋脚中心間距離 $\ell$	$\pm 30$	
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$	
						支 承 部 ア ン カ ー ボ ル ト の 箱 抜 き 規 格 値	計 画 高	$\pm 10 \sim -20$
							平 面 位 置	$\pm 20$
ア ン カ ー ボ ル ト 孔 の 鉛 直 度	1/50 以下							
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	
						幅 $w$ (橋軸方向)	-50	
						高 さ h	-50	
						長 さ $\ell$	-50	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承受便覧」による。		7-3-7-9
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		7-3-8-9

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						幅 $w_1, w_2$	-50
						高 さ $h$	-50
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						橋脚中心間距離 $\ell$	$\pm 30$
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$
						橋脚中心間距離 $\ell$	$\pm 30$
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$
7 道 路 編	3 橋 梁 下 部	8 鋼 製 橋 脚 工	11		現場継手工	現場継手部のすき間 $\delta_1, \delta_2$ (mm)	5 ※ $\pm 5$

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。		7-3-8-9
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	 <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向) (a 2 : 橋軸方向)</p>	7-3-8-10
橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。	 <p>中心線の変位 (a 1 : 橋軸直角方向 (a 2 : 橋軸方向)</p>	7-3-8-10
主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合		7-3-8-11

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	3 工 場 製 作 工	9		橋梁用高欄製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \dots \ell > 10$	
							x	
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10 以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋	鋼橋
							±5	4+0.5× (B-2)
						下 沓 の 水 平 度	橋軸方向	1 / 100
							橋軸直角方向	
可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5							
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う 移動量計算値の 1/2 以上							

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		7-4-3-9
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合、 水平面の高低差を1mm以下とする。な お、支承を勾配なりに据付ける場合を 除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 $\delta$ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		7-4-5-10

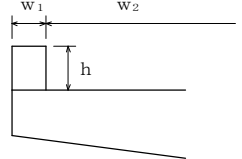
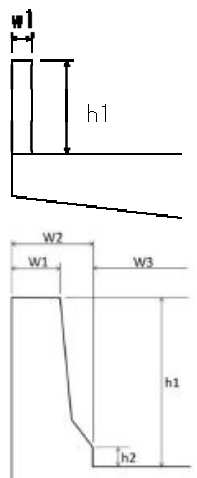
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	5 鋼 橋 架 設 工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10 以上	
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋	鋼橋
							±5	4+0.5× (B-2)
						支 承 の 水 平 度	橋軸方向	1/300
							橋軸直角方向	
可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5							
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移 動量計算値の1/2以 上							
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔 の削孔長	設計値以上	
						アンカーボルト定 着長	-20 以内 かつ -1D以内	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が 300mm 以下の場合 は、水平面の高低差を 1mm 以下とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける場合 を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で測定 する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付時のオフセット量 δ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設完 了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。		7-4-5-10
全数測定		7-4-8-3
全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)		

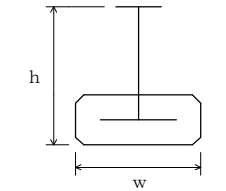
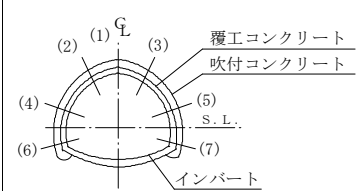
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	5		地覆工	地覆の幅 $w_1$	-10～+20
						地覆の高さ $h$	-10～+20
						有効幅員 $w_2$	0～+30
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	6 7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	天端幅 $w_1$	-5～+10
						地覆の幅 $w_2$	-10～+20
						高さ $h_1$	-20～+30
						高さ $h_2$	-10～+20
						有効幅員 $w_3$	0～+30
7 道 路 編	4 鋼 橋 上 部	8 橋 梁 付 属 物 工	8		検査路工	幅	±3
						高  さ	±4

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		7-4-8-5
1 径間当たり両端と中央部の3箇所測定。		7-4-8-6 7-4-8-7
1 ブロックを抽出して測定。		7-4-8-8

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	5 コ ン ク リ ー ト 橋 上 部	6 プ レ ビ ー ム 桁 橋 工	2		プレビーム桁製作工 (現場)	幅 w	± 5
						高 さ h	+10 - 5
						桁 長 ℓ スパン長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ -30mm 以内
						横方向最大タワミ	0.8ℓ
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	4 支 保 工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚 以上。ただし、 良好な岩盤で 施工端部、突出 部等の特殊な 箇所は設計吹 付け厚の 1 / 3 以上を確保 するものとする。
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	4 支 保 工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—
						角 度	—
						削 孔 深 さ	—
						孔 径	—
						突 出 量	プレート下面 から10cm以内

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレス ング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部 の3箇所とする。 ℓ：スパン長		7-5-6-2
施工延長 40m 毎に図に示す。 (1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測 定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術 基準(構造編)にいう地盤等級 A 又は B に該当する地盤とする。		7-6-4-3
施工延長 40m 毎に断面全本数検測。		7-6-4-4



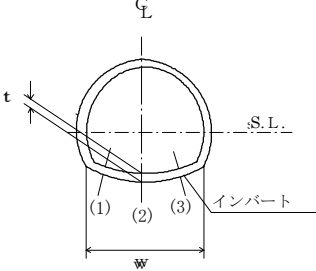
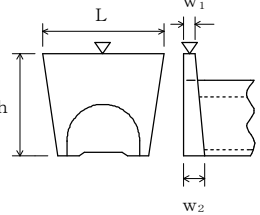
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	5 覆 工	3		覆工コンクリート工	基準高 $\nabla$ (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	設計値以上
						延 長 L	—
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	5 覆 工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50
						厚 さ t	-30

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 基準高、幅、高さは、施工 40m につき 1 箇所。</p> <p>(2) 厚さ</p> <p>(イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。</p> <p>(ロ) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p> <p>(ハ) 検測孔による巻厚の測定は図の (1) は 40m に 1 箇所、(2)～(3) は 100m に 1 箇所の割合で行う。</p> <p>なお、トンネル延長が 100m 以下のものについては、1 トンネル当たり 2 箇所以上の検測孔による測定を行う。</p> <p>ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の 3 分の 1 以下のもの。</li> <li>・なお、変形が収束しているものに限る。</li> <li>・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。</li> <li>・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。</li> </ul>		7-6-5-3
<p>施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所、延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。</p>		7-6-5-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	6 イ ン バ ー ト 工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	
						厚 さ t	設計値以上	
						延 長 L	—	
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	8 坑 門 工	4		坑門本体工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	
						幅 $w_1, w_2$	-30	
						高 さ h	$h < 3\text{ m}$	-50
							$h \geq 3\text{ m}$	-100
						延 長 L	-200	

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>(1) 幅は、施工 40mにつき 1 箇所。                      (2) 厚さ                      (イ) コンクリート打設前の巻立空間を 1 打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。                      (ロ) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて 1 打設長の端面（施工継手の位置）において、図に示す各点の巻厚測定を行う。</p>		7-6-6-4
図面の主要寸法表示箇所にて測定。		7-6-8-4

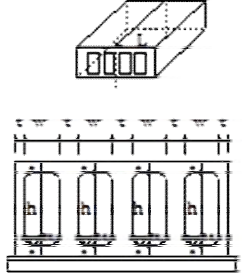
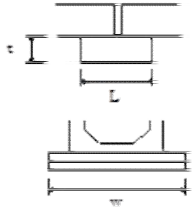
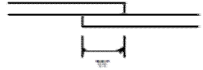

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	6 ト ン ネ ル ( N A T M )	8 坑 門 工	5		明り巻工	基準高▽ (拱頂)	±50
						幅 w (全幅)	-50
						高さ h (内法)	-50
						厚 さ t	-20
						延 長 L	—

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1箇所を測定。                  なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。</p>	<p>(アーチ部)</p> <p>(側壁部)</p> <p>(インバート部)</p>	7-6-8-5

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	2		現場打躯体工	基 準 高 $\nabla$	±30
						厚 さ t	-20
						内 空 幅 w	-30
						内 空 高 h	±30
						ブ ロ ッ ク 長 L	-50
7 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	4		カラー継手工	厚 さ t	-20
						幅 w	-20
						長 さ L	-20
7 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上
7 道 路 編	11 共 同 溝	6 現 場 打 構 築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。		7-11-6-2
図面の寸法表示箇所にて測定。		7-11-6-4
両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。		7-11-6-5
両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。		7-11-6-5

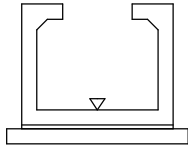
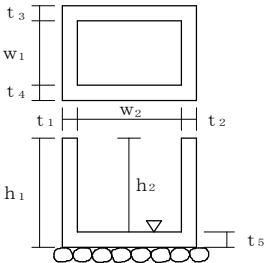
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道路編	11 共同溝	6 現場打構築工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20
						幅 w	±50
						厚 さ t	-20
7 道路編	11 共同溝	7 プレキャスト構築工	2		プレキャスト躯体工	基 準 高 ▽	±30
						延 長 L	-20
7 道路編	12 電線共同溝	5 電線共同溝工	2		管路工 (管路部)	埋 設 深 t	0~+50
						延 長 L	-200

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
図面の寸法表示箇所にて測定。		7-11-6-5
施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は、50m) につき 1 箇所、延長 40m (または 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。  延長：1 施工箇所毎		7-11-7-2
接続部 (地上機器部) 間毎に 1 箇所。  接続部 (地上機器部) 間毎で全数。 【管路センターで測定】		7-12-5-2

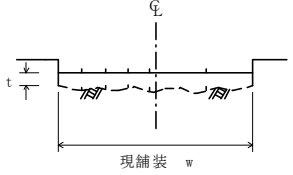
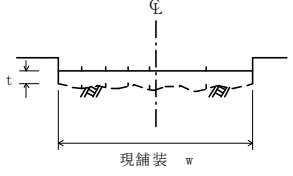
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7	12	5	3		プレキャストボックス工 (特殊部)	基 準 高 ▽	±30
7	12	6	2		ハンドホール工	基 準 高 ▽	±30
						※厚 さ $t_1 \sim t_5$	-20
						※幅 $w_1, w_2$	-30
						※高 さ $h_1, h_2$	-30

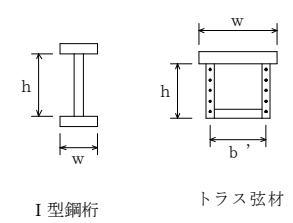
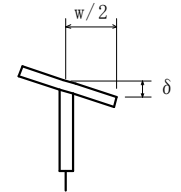
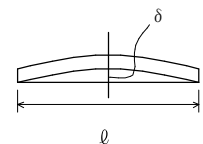
測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
接続部（地上機器部）間毎に1箇所。		7-12-5-3
1箇所毎 ※は現場打部分のある場合		7-12-6-2

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値	
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 ( $\bar{X}_{10}$ )
7 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t (切削)	-7	-2
						厚さ t (オーバーレイ)	-9	
						幅 w	-25	
						延長 L	-100	
						平坦性	—	3mプロファイルメータ ( $\sigma$ )2.4mm以下 直読式(足付き) ( $\sigma$ )1.75mm以下
7 道 路 編	14 道 路 維 持	4 舗 装 工	7		路上再生工	路盤工	厚さ t	-30
							幅 w	-50
							延長 L	-100

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>厚さは40m毎に「現舗装高と切削後の基準高の差」「切削後の基準高とオーバーレイ後の基準高の差」で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。</p> <p>幅は、延長80m毎に1箇所/施工箇所とする。延長80m未満の場合は、2箇所/施工箇所とする。</p> <p>断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。</p>	 <p>維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。</p>	7-14-4-5
<p>幅は延長80m毎に1箇所/割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。</p>		7-14-4-7

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値
7 道 路 編	16 道 路 修 繕	3 工 場 製 作 工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 w (m)	$\pm 2 \dots\dots$ $w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots\dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots\dots$
						腹板高 h (m)	$1.0 < w \leq 2.0$
						腹板間隔 b' (m)	$\pm (3 + w / 2) \dots 2.0 < w$
						フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w / 200$
						圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$\ell / 1000$

測 定 基 準		測 定 箇 所	単 位 : mm 摘 要
鋼桁等	トラス・アーチ等		
主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。	 <p>I型鋼桁                  トラス弦材</p>	7-16-3-4
床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。		7-16-3-4
—	主要部材全数を測定。 $\ell$ : 部材長 (mm)		7-16-3-4



# 品質管理基準及び規格値

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
I セメント・コンクリート（転圧コンクリート・覆工コンクリート・吹付けコンクリートを除く）	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」（平成15年3月5日付け技管第261号）	同左
		その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。
		骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 （砕砂・砕石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照）	
		粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	砕石 40%以下 砂利 35%以下 舗装コンクリートは35%以下 ただし、積雪寒冷地の舗装コンクリートの場合は25%以下	
		骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下（ただし、粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下） スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外（砂利等） 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下） スラグ細骨材 7.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下） それ以外（砂等） 5.0%以下（ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下）	
		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	
		モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	
		骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	
		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部:高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部:銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部:電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○
工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。 ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○
工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142 「有機不純物を含む細骨材のモルタルの圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
砂，砂利： 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂，砕石： 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
製造 (プラント)	その他（JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く）	計量設備の計量精度	/		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率： 15%以下
				連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5% 以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による
粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125				

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
工事開始前, 工事中1回/月以上	/	○
	/	○
工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え, 上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
	その原水は, 上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○
工事開始前, 工事中1回/6ヶ月以上	レディーミクストコンクリートの場合, 印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験, またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは, 以下の工種を除く工種とする。(橋台, 橋脚, 杭類(場所打杭, 井筒基礎等), 橋梁上部工(桁, 床版, 高欄等), 擁壁工(高さ1m以上), 函渠工, 樋門, 樋管, 水門, 水路(内幅2.0m以上), 護岸, ダム及び堰, トンネル, 舗装, その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。		○
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	施工	必須	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下
			単位水量測定	「レディミクストコンクリートの品質確保について」（「レディミクストコンクリート単位水量測定要領（案）について（平成16年6月22日付技管第54号）」）	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> を超え±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m <sup>3</sup> の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m <sup>3</sup> 以内になることを確認する。更に、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。
			スランプ試験	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm スランプ2.5cm：許容値±1.0cm

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする) 試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> <li>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-C502-2013, 503-2007)または設計図書の規定により行う。</li> <li>・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。</li> </ul> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
<p>100m<sup>3</sup>/日以上の場合； 2回/日(午前1回、午後1回)以上、重要構造物の場合は重要度に応じて、100m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし、測定回数は多い方を採用する。</p>	<p>示方配合の単位水量の上限値は、粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m<sup>3</sup>、40mmの場合は165kg/m<sup>3</sup>を基本とする。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m<sup>3</sup>～150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。ただし、道路橋鉄筋コンクリート床版にレディーミクスコンクリートを用いる場合は原則として全運搬車測定を行う。</li> <li>・道路橋床版の場合、全運搬車試験を行うが、スランプ試験の結果が安定し良好な場合はその後スランプ試験の頻度について監督職員と協議し低減することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> </ul> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)
			コンクリートの曲げ強度試験 (コンクリート舗装の場合, 必須)	JIS A 1106	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
			コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112	
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm
				テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504-2013



試験基準	摘 要	試験成績等による確認
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回 なお、テストピースは打設場所で採取し、1回につき6個（σ7・・・3個，σ28・・・3個）とする。 ・早強セメントを使用する場合には、必要に応じて1回につき3個（σ3）を追加で採取する。</p>		
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>打設日1日につき2回（午前・午後）の割りで行う。なおテストピースは打設場所で採取し、1回につき原則として3個とする。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		
<p>本数 総延長 最大ひび割れ幅等</p>	<p>高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象。（ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない）とし構造物躯体の地盤や他の構造物との接触面を除く全表面とする。 フーチング・底版等で竣工時に地中、水中にある部位については竣工前に調査する。ひび割れ幅が0.2mm以上の場合には、「ひび割れ発生状況の調査」を実施する</p>	
<p>鉄筋コンクリート擁壁及びカルバート類で行う。その他の構造物については、強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5ヶ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。</p>	<p>高さが、5m以上の鉄筋コンクリート擁壁、内空断面積が25㎡以上の鉄筋コンクリートカルバート類、橋梁上・下部工及び高さが3m以上の堰・水門・樋門を対象。（ただしいずれの工種についてもプレキャスト製品及びプレストレストコンクリートは対象としない。）また、再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする。</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度
			配筋状態及びかぶり	「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領」による	同左
			強度測定	「微破壊・非破壊試験によるコンクリート構造物の強度測定要領」による	同左
2 プレキャストコンクリート製品 (JIS I類)	材料	必須	JISマーク確認 又は「その他」の試験項目の確認	目視 (写真撮影)	
	施工	必須	製品の外観検査 (角欠け・ひび割れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと
3 プレキャストコンクリート製品 (JIS II類)	材料	必須	製品検査結果 (寸法・形状・外観, 性能試験) ※協議をした項目	JIS A 5363 JIS A 5371 JIS A 5372 JIS A 5373	設計図書による。
			JISマーク確認 又は「その他」の試験項目の確認	目視 (写真撮影)	
	施工	必須	製品の外観検査 (角欠け・ひび割れ検査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと
4 プレキャストコンクリート製品 (その他)	材料	必須	セメントのアルカリ骨材反応対策	アルカリ骨材反応抑制対策について (平成15年3月5日付け技管第261号)	同左
			コンクリートの塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下
			コンクリートのスランプ試験/スランプフロー試験	JIS A 1101 JIS A 1150	製造工場の管理基準

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
所定の強度を得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討を行う。圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。	
同左	同左	
同左	同左	
/	/	/
全数	/	/
製造工場の検査ロット毎	/	○
/	/	/
全数	/	/
1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。	/	○
1回/日以上 (塩化物量の多い砂の場合1回以上/週)	/	○
1回/日以上	/	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)
			コンクリートの空気測定 (凍害を受ける恐れのあるコンクリート製品)	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	JIS A 5364 4.5±1.5% (許容差)
		その他 (JISマーク表示されたレディミックスコンクリートを使用する場合は除く)	骨材のふるい分け試験 (粒度・粗粒率)	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	JIS A 5364 JIS A 5308
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	JIS A 5364 JIS A 5308
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005	粗骨材：1.0%以下 細骨材：コンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合3.0%以下、その他の場合5.0%以下 (砕砂及びスラグ細骨材を用いた場合はコンクリートの表面がすりへり作用を受ける場合5.0%以下その他の場合7.0%以下)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
1回/日以上	/	○
1回/日以上	/	○
1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材—第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材—第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材—第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材—第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○
1回/年以上及び産地が変わった場合。	/	○
1回/月以上及び産地が変わった場合。 (微粒分量の多い砂1回/週以上)	/	○
1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
砂，砂利： 製作開始前，1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂，砕石： 製作開始前，1回/年以上及び産地が変わった場合。	/	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			セメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			コンクリート用混和材 ・化学混和剤	JIS A 6201 JIS A 6202 JIS A 6204 JIS A 6205 JIS A 6206 JIS A 6207	JIS R 6201 (フライアッシュ) JIS R 6202 (膨張材) JIS R 6204 (化学混和剤) JIS R 6205 (防せい剤) JIS A 6206 (高炉スラグ微粉末) JIS A 6207 (シリカフェューム)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合：JIS A 5308附属書3	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
		必須	鋼材	JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3137 JIS G 3506 JIS G 3521 JIS G 3532 JIS G 3536 JIS G 3538 JIS G 3551 JIS G 4322 JIS G 5502	JIS G 3101 JIS G 3109 JIS G 3112 JIS G 3117 JIS G 3137 JIS G 3506 JIS G 3521 JIS G 3532 JIS G 3536 JIS G 3538 JIS G 3551 JIS G 4322 JIS G 5502
施工	必須	製品の外観検査 (角欠け・ひび割れ調査)	目視検査 (写真撮影)	有害な角欠け・ひび割れの無いこと	

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
1回/月以上		○
		○
1回/月以上 ただし、JIS A 6202（膨張材）は1回/3ヶ月以上、JIS A 6204（化学混和剤）は1回/6ヶ月以上	試験成績表による。	○
1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え、上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
1回/月又は入荷の都度	試験成績表による。	○
全数		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
5 ガス圧接	施工前試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 等</li> <li>・ノギス等による計測 (詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 折れ曲がり 等</li> </ul>	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下。 ⑥著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがない。なお、(公社)日本鉄筋継手協会の技量検定試験の判定基準では、垂れ下がりは、6mm以下としている。 ⑦その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>
					<p>熱間押抜法の場合</p> <p>①ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない ②ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があつてはならない。 ④その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>
	施工後試験	必須	外観検査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目視 圧接面の研磨状況 たれ下がり 焼き割れ 等</li> <li>・ノギス等による計測 (詳細外観検査) 軸心の偏心 ふくらみ ふくらみの長さ 圧接部のずれ 折れ曲がり 等</li> </ul>	<p>熱間押抜法以外の場合</p> <p>①軸心の偏心が鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1/5以下。 ②ふくらみは鉄筋径（径の異なる場合は細いほうの鉄筋）の1.4倍以上。ただし、SD490の場合は1.5倍以上。 ③ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ④ふくらみの頂点と圧接部のずれが鉄筋径の1/4以下。 ⑤折れ曲がりの角度が2°以下。 ⑥著しい垂れ下がり、へこみ、焼き割れがない。なお、(公社)日本鉄筋継手協会の技量検定試験の判定基準では、垂れ下がりは、6mm以下としている。 ⑦その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>
				<p>熱間押抜法の場合</p> <p>①ふくらみを押抜いた後の圧接面に対応する位置の割れ、へこみがない ②ふくらみの長さが鉄筋径の1.1倍以上。ただし、SD490の場合は1.2倍以上。 ③鉄筋表面にオーバーヒートによる表面不整があつてはならない。 ④その他有害と認められる欠陥があつてはならない。</p>	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>鉄筋メーカー，圧接作業班，鉄筋径毎に自動ガス圧接の場合は各2本，手動ガス圧接の場合は各5本のモデル供試体を作成し実施する。</p>	<p>・モデル供試体の作成は，実際の作業と同一条件・同一材料で行う。  (1)直径19mm以上の鉄筋またはSD490以外の鉄筋を圧接する場合  ・手動ガス圧接及び熱間押抜ガス圧接を行う場合，材料，施工条件などを特に確認する必要がある場合には，施工前試験を行う。  ・特に確認する必要がある場合とは，施工実績の少ない材料を使用する場合，過酷な気象条件・高所などの作業環境下での施工条件，圧接技量資格者の熟練度などの確認が必要な場合などである。  ・自動ガス圧接を行う場合には，装置が正常で，かつ装置の設定条件に誤りのないことを確認するため，施工前試験を行わなければならない。  (2)直径19mm未満の鉄筋またはSD490の鉄筋を圧接する場合  手動ガス圧接，自動ガス圧接，熱間押抜法のいずれにおいても，施工前試験を行わなければならない。</p>	
<p>・目視は全数実施する。  ・特に必要と認められたものに対してのみ詳細外観検査を行う。</p>	<p>熱間押抜法以外の場合  ・規格値を外れた場合は以下による。いずれの場合も監督職員の承諾を得るものとし，処置後は外観検査及び超音波探傷検査を行う。  ・①は，圧接部を切り取って再圧接する。  ・②③は，再加熱し，圧力を加えて所定のふくらみに修正する。  ・④は，圧接部を切り取って再圧接する。  ・⑤は，再加熱して修正する。  ⑥は，圧接部を切り取って再圧接する。</p>	
	<p>熱間押抜法の場合  ・規格値を外れた場合は以下による。いずれの場合も監督職員の承諾を得る。  ・①②③は，再加熱，再加圧，押抜きを行って修正し，修正後外観検査を行う。  ・④は，再加熱して修正し，修正後外観検査を行う。</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			超音波探傷検査	JIS Z 3062	・各検査ロットごとに30ヶ所のランダムサンプリングを行い、超音波探傷検査を行った結果、不合格箇所数が1ヶ所以下の時はロットを合格とし、2ヶ所以上の時はロットを不合格とする。 ただし、合否判定レベルは基準レベルより-24db感度を高めたレベルとする。
6 既製杭工	材料	必須	外観検査（鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭）	目視	目視により使用上有害な欠陥（鋼管杭は変形など、コンクリート杭はひび割れや損傷など）がないこと。
		施工	必須	外観検査（鋼管杭）	JIS A 5525
			鋼管杭・コンクリート杭・H鋼杭の現場溶接浸透深傷試験（溶剤除去性染色浸透探傷試験）	JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6	割れ及び有害な欠陥がないこと。
			鋼管杭・H鋼杭の現場溶接放射線透過試験	JIS Z 3104	JIS Z 3104の1類から3類であること
		その他	鋼管杭の現場溶接超音波探傷試験	JIS Z 3060	JIS Z 3060の1類から3類であること
			鋼管杭・コンクリート杭（根固め）水セメント比	比重の測定による水セメント比の推定	設計図書による。 また、設計図書に記載されていない場合は60%～70%（中堀り杭工法）、60%（プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法）とする。

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
超音波探傷検査は抜取検査を原則とする。 抜取検査の場合は、各ロットの30ヶ所とし、1ロットの大きさは200ヶ所程度を標準とする。ただし、1作業班が1日に施工した箇所を1ロットとし、自動と手動は別ロットとする。	規格値を外れた場合は、以下による。 ・不合格ロットの全数について超音波深傷検査を実施し、その結果不合格となった箇所は、監督職員の承認を得て、圧接部を切り取って再圧接し、外観検査及び超音波探傷検査を行う。	
設計図書による。		○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外径700mm未満：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を<math>2\text{mm} \times \pi</math>以下とする</li> <li>・外径700mm以上1,016mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を<math>3\text{mm} \times \pi</math>以下とする。</li> <li>・外径1,016mmを超え2,000mm以下：上ぐいと下ぐいの外周長の差で表し、その差を<math>4\text{mm} \times \pi</math>以下とする。</li> </ul>	
原則として全溶接箇所で行う。 ただし、施工方法や施工順序等から全数量の実施が困難な場合は監督職員との協議により、現場状況に応じた数量とすることができる。なお、全溶接箇所の10%以上は、JIS Z 2343-1, 2, 3, 4, 5, 6により定められた認定技術者が行うものとする。 試験箇所は杭の全周とする。		
原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から透過し、その撮影長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)		
原則として溶接20ヶ所毎に1ヶ所とするが、施工方法や施工順序等から実施が困難な場合は現場状況に応じた数量とする。なお、対象箇所では鋼管杭を4方向から深傷し、その深傷長は30cm/1方向とする。 (20ヶ所毎に1ヶ所とは、溶接を20ヶ所施工した毎にその20ヶ所から任意の1ヶ所を試験することである。)	中掘り杭工法等で、放射線透過試験が不可能な場合は、放射線透過試験に替えて超音波深傷試験とすることができる。	
試料の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とする。		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			鋼管杭・コンクリート杭 (根固め) セメントミルクの 圧縮強度試験	セメントミルク工法に 用いる根固め液及びびく い周固定液の圧縮強度 試験 JIS A 1108	設計図書による。
7 下層路盤	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	粒状路盤：修正CBR20%以上（クラッシュラン 鉄鋼スラグは修正CBR30%以上） アスファルトコンクリート再生骨材を含む再 生クラッシュランを用いる場合で、上層路 盤、基層、表層の合計厚が次に示す数値より 小さい場合は30%以上とする。 北海道地方・・・・・・・・20cm 東北地方・・・・・・・・30cm その他の地方・・・・・・・・40cm
			骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照
			土の液性限界・塑 性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下
			鉄鋼スラグの水浸 膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -16	1.5%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>供試体の採取回数は一般に単杭では30本に1回、継杭では20本に1回とし、採取本数は1回につき3本とすることが多い。          なお、供試体はセメントミルクの供試体の作成方法に従って作成したφ5×10cmの円柱供試体によって求めるものとする。</p>	<p>参考値：20N/mm<sup>2</sup></p>	
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時          ・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。          ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。          ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満          ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)          ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。          1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p>
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時          ・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・鉄鋼スラグには適用しない。          ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。          ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。          ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満          ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)          ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。          1) 路盤：施工面積が1,000㎡を超えるもの          2) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p>
	<p>・CS：クラッシュラン鉄鋼スラグに適用する。          ・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。          ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。          ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満          ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)          ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。          1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p>

品質管理基準及び規格値

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			道路用スラグの呈色判定試験	JIS A 5015	呈色なし
		その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	再生クラッシュランに用いるセメントコンクリート再生骨材は、すり減り量が50%以下とする。
施工	必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185 砂置換法 (JIS A 1214) 砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	最大乾燥密度の93%以上 X10 95%以上 X6 96%以上 X3 97%以上 歩道箇所：設計図書に定めのない場合、個々の試験結果が最大乾燥密度の90%以上とする。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時  ・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・再生クラッシュランに適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）  ①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。  ②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>	/	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：6以下
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
8	上層路盤	材料 必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	修正CBR 80%以上 アスファルトコンクリート再生骨材含む場合 90%以上 40℃で行った場合80%以上
			鉄鋼スラグの修正 CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	修正CBR 80%以上



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> <li>全幅，全区間で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷重車については，施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>1,000㎡につき2回の割で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セメントコンクリートの路盤に適用する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中規模以上の工事：異常が認められたとき。</li> </ul>	<p>中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中規模以上の工事：異常が認められたとき。</li> </ul>	<p>中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<p>中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満) ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<p>MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。</p> <p>中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満) ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：4以下
			鉄鋼スラグの呈色判定試験	JIS A 5015 舗装調査・試験法便覧 [4] -10	呈色なし
			鉄鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -16	1.5%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時  ・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・ただし、鉄鋼スラグには適用しない。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<p>・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
		○

品質管理基準及び規格値

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			鉄鋼スラグの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -12	1. 2Mpa以上(14日)
			鉄鋼スラグの単位容積質量試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -106	1. 50kg/L以上
		その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	50%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	20%以下

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。</li> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)</li> <li>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</li> <li>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MS：粒度調整鉄鋼スラグ及びHMS：水硬性粒度調整鉄鋼スラグに適用する。</li> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)</li> <li>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</li> <li>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	<p>○</p> <p>○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粒度調整及びセメントコンクリート再生骨材を使用した再生粒度調整に適用する。</li> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)</li> <li>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</li> <li>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</li> <li>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</li> <li>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	<p>○</p> <p>○</p>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
9 アスファルト安定処理路盤	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185  砂置換法 (JIS A 1214)  砂置換法は、最大粒径が53mm以下の場合のみ適用できる	最大乾燥密度の93%以上 X <sub>10</sub> 95%以上 X <sub>6</sub> 95.5%以上 X <sub>3</sub> 96.5%以上
			粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±15%以内
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±6%以内
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：4以下
			含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
				アスファルト舗装に準じる	

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>		
<p>・中規模以上の工事：定期的または随時（1回～2回／日）</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p>	
<p>1,000㎡につき2回の割合で行う。</p>	<p>セメントコンクリートの路盤に適用する。</p>	
<p>観察により異常が認められたとき。</p>		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
10 セメント安定処理路盤	材料	必須	一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -38	下層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 0.98Mpa 上層路盤：一軸圧縮強さ [7日間] 2.9Mpa (アスファルト舗装), 2.0Mpa (セメントコンクリート舗装)。
			骨材の修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -5	下層路盤：10%以上 上層路盤：20%以上
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205 舗装調査・試験法便覧 [4] -103	下層路盤 塑性指数PI：9以下 上層路盤 塑性指数PI：9以下
施工	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	JIS A 1102	2.36mmふるい：±15%以内	
		粒度 (75μmフルイ)	JIS A 1102	75μmふるい：±6%以内	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定処理材に適用する。</li> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</li> </ul> </li> </ul> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</li> </ul> </li> </ul> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</li> </ul> </li> </ul> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：定期的または随時（1回～2回／日）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：異常が認められたとき。</li> </ul>		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185  砂置換法 (JIS A 1214)  砂置換法は、最大粒径 が53mm以下の場合のみ 適用できる	最大乾燥密度の93%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上  歩道箇所：設計図書に定めのない場合、個々の試験結果が最大乾燥密度の90%以上
		その他	含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			セメント量試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -213, [4] -218	±1.2%以内
11 アス ファルト舗 装	材 料	必 須	骨材のふるい分け 試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照
			骨材の密度及び吸 水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm <sup>3</sup> 以上 吸水率：3.0%以下
			骨材中の粘土塊量 の試験	JIS A 1137	粘土，粘土塊量：0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -45	細長，あるいは扁平な石片：10%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が最大乾燥密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>		
<p>観察により異常が認められたとき。</p>		
<p>・中規模以上の工事：異常が認められたとき（1～2回/日）</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p>	
<p>・中規模以上の工事：施工前、材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満）。ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧 表3.3.17による。
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下
		その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4以下
			フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -65	50%以下
			フィラーの水浸膨張試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -59	3%以下
			フィラーの剥離抵抗性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -61	1/4以下
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -77	水浸膨張比：2.0%以下
			製鋼スラグの密度及び吸水率試験	JIS A 1110	SS 表乾密度：2.45g/cm <sup>3</sup> 以上 吸水率：3.0%以下
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	すり減り量 碎石：30%以下 CSS：50%以下 SS：30%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下
			針入度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
		○
		○
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・火成岩類を粉砕した石粉を用いる場合に適用する。</p> <p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
	<p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			軟化点試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3
			伸度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3
			トルエン可溶分試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4
			薄膜加熱試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4
			蒸発後の針入度比試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1
			密度試験	JIS K 2207	舗装施工便覧参照 ・舗装用石油アスファルト：表3.3.1 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4
			高温動粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -180	舗装施工便覧参照 ・セミブローンアスファルト：表3.3.4
			60℃粘度試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -192	
			タフネス・テナン ティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -244	舗装施工便覧参照 ・ポリマー改質アスファルト：表3.3.3

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>れかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
		○
		○
		○
		○
		○
	<p>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</p>	○
	<p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	○
		○
		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	プラント	必須	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内基準粒度
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による	配合設計で決定した混合温度。
	その他		水浸ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -17	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・中規模以上の工事：定期的または随時。  ・小規模以下の工事：異常が認められたとき。  印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。  ・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。  ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満  ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。  ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。  1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p>
随時		○
設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	○
	アスファルト混合物の耐流動性の確認	○
	アスファルト混合物の耐摩耗性の確認	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	舗設現場	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -91	基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上  歩道箇所：設計図書に定めのない場合、個々の試験結果が基準密度の90%以上とする。
			温度測定（初転圧前）	温度計による	110℃以上
			外観検査（混合物）	目視	
		その他	すべり抵抗試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -84	設計図書による
12 転圧コンクリート	材料（JISマークに表示されたレネ	必須	コンシステンシーVC試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 修正VC値：50秒
			マーシャル突き固め試験	転圧コンクリート舗装技術指針（案） ※いずれか1方法	舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率：96%
			ランマー突き固め試験		舗装施工便覧8-3-3による。 目標値 締固め率：97%

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>	<p>・橋面舗装は、コア採取しないでAs合材量（プラント出荷数量）と舗設面積及び厚さでの密度管理、または転圧回数による管理を行う。</p>	
<p>随時</p>	<p>測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）。</p>	
<p>舗設車線毎200m毎に1回</p>		
<p>当初</p>		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	ノ、イミクストコンクリートを使用する場合を除く		含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	設計図書による。
			その他 骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	舗装施工便覧 細骨材表-3.3.20 粗骨材表-3.3.22
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	設計図書による。
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	35%以下 積雪寒冷地25%以下
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂, スラグ細骨材 5.0%以下 それ以外 (砂等) 3.0%以下 (ただし、砕砂で粘土, シルト等を含まない場合は5.0%以下)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
	含水比は、品質管理試験としてコンシステンシー試験がやむえずおこなえない場合に適用する。なお測定方法は試験の迅速性から直火法によるのが臨ましい。	
2回／日（午前・午後）で、3本1組／回。		
細骨材300m <sup>3</sup> 、粗骨材500m <sup>3</sup> ごとに1回、あるいは1回／日。		○
工事開始前，材料の変更時		○
	ホワイトベースに使用する場合：40%以下	○
		○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
工事開始前，材料の変更時	観察で問題なければ省略できる。	○
	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)	
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5215 (エコセメント)	
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上	
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上	
	製造（ブランド）（JISマークに表示されたレター・イミクス・ストローク・コンクリートを使用する場合を除く）	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内	
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート中のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート中の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート中の空気量の偏差率：10% 以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率： 15%以下	
				連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5% 以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランプ差：3cm以下	
				細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による
				粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125	設計図書による

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
工事開始前, 工事中1回/月以上		○
工事開始前, 工事中2回/月以上		○
工事開始前, 工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	<p>上水道を使用している場合は試験に換え, 上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。</p> <p>・その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。</p>	○
工事開始前, 工事中1回/6ヶ月以上	<p>・レディーミクストコンクリートの場合, 印字記録により確認を行う。</p>	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。	<p>総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1回以上の試験, またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p>	○
2回/日以上	レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上	レディーミクスコンクリート以外の場合に適用する。	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
12 転圧コンクリート	施工	必須	コンシステンシーVC試験		修正VC値の±10秒
			マーシャル突き固め試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -290 ※いずれか1方法	目標値の±1.5%
			ランマー突き固め試験		
			コンクリートの曲げ強度試験	JIS A 1106	<ul style="list-style-type: none"> <li>試験回数が7回以上（1回は3個以上の供試体の平均値）の場合は、全部の試験値の平均値が所定の合格判断強度を上まわるものとする。</li> <li>試験回数が7回未満となる場合は、                             <ul style="list-style-type: none"> <li>①1回の試験結果は配合基準強度の85%以上</li> <li>②3回の試験結果の平均値は配合基準強度以上</li> </ul> </li> </ul>
			温度測定（コンクリート）	温度計による	
			現場密度の測定	RI水分密度計	基準密度の95.5%以上。
			コアによる密度測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -300	
13 グースアスファルト舗装	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	JIS A 5001 表2参照
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表層・基層 表乾密度：2.45g/cm <sup>3</sup> 以上 吸水率：3.0%以下
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土，粘土塊量：0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -45	細長，あるいは扁平な石片：10%以下



試験基準	摘 要	試験成績等による確認
1日2回（午前・午後）以上，その他コンシステンシーの変動が認められる場合などに随時実施する。ただし運搬車ごとに目視観察を行う。		
2回／日（午前・午後）で，3本1組／回（材齢28日）。		
2回／日（午前・午後）以上		
40mに1回（横断方向に3ヶ所）		
1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満（コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満）。ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のい</li> </ul>	○

## 品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	便覧 表3.3.17による。
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下
		その他	粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	30%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下
			針入度試験	JIS K 2207	15～30 (1/10mm)
			軟化点試験	JIS K 2207	58～68℃
			伸度試験	JIS K 2207	10cm以上 (25℃)
			トルエン可溶分試験	JIS K 2207	86～91%
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	240℃以上
			蒸発質量変化率試験	JIS K 2207	0.5%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
	<p>れかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p>
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</p> <p>・小規模以下の工事：施工前</p>	<p>・規格値は、石油アスファルト（針入度20～40）にトリニダットレイクアスファルトを混合したものの性状値である。</p> <p>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</p> <p>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</p> <p>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</p> <p>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</p> <p>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			密度試験	JIS K 2207	1.07~1.13g/cm <sup>3</sup>
	プラント	必須	貫入試験40℃	舗装調査・試験法便覧 [3] -315	貫入量 (40℃) 目標値 表層：1~4mm 基層：1~6mm
			リュエル流動性試験240℃	舗装調査・試験法便覧 [3] -320	3~20秒 (目標値)
			ホイールトラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	300以上
			曲げ試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -69	破断ひずみ (-10℃, 50mm/min) 8.0×10 <sup>-3</sup> 以上
			粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度
			粒度 (75μmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内基準粒度
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内
			温度測定 (アスファルト・骨材・混合物)	温度計による。	アスファルト：220℃以下 石 粉：常温~150℃
	舗設現場	必須	温度測定 (初転圧前)	温度計による。	
14 路床安定処理工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
			CBR試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -155, [4] -158	設計図書による。
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径≤53mm： 砂置換法 (JIS A 1214)  最大粒径>53mm： 舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	設計図書による。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
		○
配合毎に各1回。ただし、同一配合の合材100t未満の場合も実施する。		○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：定期的または随時。</li> <li>・小規模以下の工事：異常が認められたとき。</li> <li>印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上1,000㎡未満)。</li> <li>ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</li> <li>1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	○
随時		○
随時	測定値の記録は、1日4回(午前・午後各2回)	
当初及び土質の変化したとき。		
500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
				または、 RI計器を用いた盛土の 締固め管理要領（案）	設計図書による。
				または、 「TS・GNSSを用いた盛 土の締固め管理要領」 による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが 規定回数だけ締め固められたことを確認す る。ただし、路肩から1 m以内と締固め機械 が近寄れない構造物周辺は除く。
			ブルーフローリン グ	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	
		そ の 他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。
			含水比試験	JIS A 1203	
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ベンゲルマンビーム)	
15 表層安定処理工 (表層混合 処理)	材 料	そ の 他	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。
	施 工	必 須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいづ れかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm : 砂置換法 (JIS A 1214)  最大粒径 > 53mm : 舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	設計図書による。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・500㎡未満：5点</li> <li>・500㎡以上1,000未満：10点</li> <li>・1,000㎡以上2,000㎡未満：15点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大粒径&lt;100mmの場合に適用する。</li> <li>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</li> </ul>	
<p>1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。 3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</p>		
<p>路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</li> </ul>	
<p>延長40mにつき1ヶ所の割で行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セメントコンクリートの路盤に適用する。</li> </ul>	
<p>各車線ごとに延長40mにつき1回の割で行う。</p>		
<p>500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。</p>		
<p>ブルーフローリングでの不良個所について実施</p>		
<p>当初及び土質の変化したとき。</p>	<p>配合を定めるための試験である。</p>	
<p>500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。 1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。</p>		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	
				または、 RI計器を用いた盛土の 締固め管理要領（案）	設計図書による。	
				または、 「TS・GNSSを用いた盛土の 締固め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが 規定回数だけ締め固められたことを確認する。 ただし、路肩から1m以内と締固め機械が 近寄れない構造物周辺は除く。	
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210		
			その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
				現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。
				含水比試験	JIS A 1203	
				たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ハンゲルマンビーム)	
16 固結工	材料	必須	土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	設計図書による。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の 平均値で表したもの	
			ゲルタイム試験			



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・500㎡未満：5点</li> <li>・500㎡以上1,000㎡未満：10点</li> <li>・1,000㎡以上2,000㎡未満：15点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大粒径&lt;100mmの場合に適用する。</li> <li>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員との協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</li> </ul>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。</li> <li>2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。</li> <li>3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</li> <li>4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</li> </ol>	/	
<p>路床仕上げ後、全幅、全区間で実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</li> </ul>	
<p>各車線ごとに延長40mにつき1回の割合で行う。</p>	/	
<p>500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。</p>	/	
<p>ブルーフローリングでの不良個所について実施。</p>	/	
<p>当初及び土質の変化したとき。</p>	<p>配合を定めるための試験である。 ボーリング等により供試体を採取する。</p>	
<p>当初及び土質の変化したとき。</p>	<p>配合を定めるための試験である。</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	
	施工	必須	改良体全長の連続性確認	ボーリングコアの目視確認	/	
			土の一軸圧縮試験 (改良体の強度)	JIS A 1216		①各供試体の試験結果は改良地盤設計強度の85%以上。 ②1回の試験結果は改良地盤設計強度以上。 なお、1回の試験とは3個の供試体の試験値の平均値で表したものの
17 アンカー工	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201		
			適性試験 (多サイクル確認試験)	グラウンドアンカー設計・施工基準, 同解説 (JGS4101-2012)		設計アンカー力に対して十分に安全であること。
			確認試験 (1サイクル確認試験)	グラウンドアンカー設計・施工基準, 同解説 (JGS4101-2012)		
		その他	その他の確認試験 グラウンドアンカー設計・施工基準, 同解説 (JGS4101-2012)	所定の緊張力が導入されていること。		
18 補強土壁工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。	
			外観検査 (ストリップ, 鋼製壁面材, コンクリート製壁面材等)	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左	
			コンクリート製壁面材のコンクリート強度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。		

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
<p>改良体の上端から下端までの全長をボーリングにより採取し、全長において連続して改良されていることを目視確認する。</p> <p>改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。</p> <p>現状の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボーリング等により供試体採取する。</li> <li>・改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認したボーリングコアを利用してもよい。</li> </ul>	
<p>改良体500本未満は3本、500本以上は250本増えるごとに1本追加する。試験は1本の改良体について、上、中、下それぞれ1回、計3回とする。ただし、1本の改良体で設計強度を変えている場合は、各設計強度毎に3回とする。</p> <p>現場の条件、規模等により上記によりがたい場合は監督職員の指示による。</p>	<p>改良体の強度確認には、改良体全長の連続性を確認したボーリングコアを利用してもよい。</p>	
<p>2回（午前・午後）／日</p>		
<p>練りませ開始前に試験は2回行い、その平均値をフロー値とする。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施工数量の5%かつ3本以上。</li> <li>・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、引き抜き試験に準じた方法で載荷と除荷を繰り返す。</li> </ul>	<p>ただし、モルタルの必要強度の確認後に実施すること。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多サイクル確認試験に用いたアンカーを除くすべて。</li> <li>・初期荷重は計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。</li> </ul>		
<p>当初及び土質の変化時。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定着時緊張力確認試験</li> <li>・残存引張力確認試験</li> <li>・リフトオフ試験</li> </ul> <p>等があり、多サイクル確認試験、1サイクル確認試験の試験結果をもとに、監督職員と協議し行う必要性の有無を判断する。</p>	
<p>同左</p>		
		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
		その他	土の粒度試験	補強土壁工法各設計・施工マニュアルによる。	同左
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	<p>最大粒径 ≤ 53mm : 砂置換法 (JIS A 1214)</p> <p>最大粒径 &gt; 53mm : 舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法</p> <p>または, 「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領 (案)」</p> <p>または, 「TS・GNSSを用いた盛土の締固め管理要領」による</p>	<p>次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは90%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法)。</p> <p>ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法 (例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上がり厚を薄くする場合) に適用する。または、設計図書による。</p> <p>次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) A・B法) もしくは92%以上 (締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法)。</p> <p>ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法 (例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上がり厚を薄くする場合) に適用する。または、設計図書による。</p> <p>施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。ただし、路肩から1m以内と締固め機械が近寄れない構造物周辺は除く。</p>

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
設計図書による。	/	
500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記のとおりとする。(締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法)</li> <li>【一般の橋台背面】 平均92%以上, かつ最小90%以上</li> <li>【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上, かつ最小95%以上</li> </ul>	
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 500㎡未満：5点</li> <li>・ 500㎡以上1,000㎡未満：10点</li> <li>・ 1,000㎡以上2,000㎡未満：15点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大粒径&lt;100mmの場合に適用する。</li> <li>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</li> <li>・橋台背面アプローチ部における規格値は、下記のとおりとする。(締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法)</li> <li>【一般の橋台背面】 平均92%以上, かつ最小90%以上</li> <li>【インテグラルアバット構造の橋台背面】 平均97%以上, かつ最小95%以上</li> </ul>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。</li> <li>2. 管理単位は築堤、路体路床とも1日の1層当たりの施工面積は1,500㎡を標準とする。また、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。</li> <li>3. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。</li> <li>4. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。</li> </ol>	/	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
19 吹付工	材料	必須  その他 (JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを使用する場合は除く)	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成15年3月5日付け技管第261号)	同左
			骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・砕石，高炉スラグ骨材，フェロニッケルスラグ細骨材，銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下 (ただし，粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用碎石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材—第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材—第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材—第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材—第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○
工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	・濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
砂，砂利： 工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂，碎石： 工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前、工事中1回/月以上		○
		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上	
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上	
	製造 (プラント) (JIS マーク表示されたレ ディミクストコン クリートを 使用する 場合は 除く)	必須		細骨材の表面水率 試験	JIS A 1111	設計図書による
				粗骨材の表面水率 試験	JIS A 1125	
		その他		計量設備の計量精 度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
				ミキサの練混ぜ性 能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランブ）の偏差率： 15%以下
				連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5% 以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
工事開始前, 工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え, 上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
	その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	
1回/日以上		
工事開始前, 工事中1回/6ヶ月以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レディーミクストコンクリートの場合, 印字記録により確認を行う。</li> <li>・急結剤は適用外</li> </ul>	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験, またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合は, 50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種とは, 以下の工種を除く工種とする。(橋台, 橋脚, 杭類(場所打杭, 井筒基礎等), 橋梁上部工(桁, 床版, 高欄等), 擁壁工(高さ1m以上), 函渠工, 樋門, 樋管, 水門, 水路(内幅2.0m以上), 護岸, ダム及び堰, トンネル, 舗装, その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○
		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	施工	その他	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下
		その他	スランプ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランプ5cm以上8cm未満 : 許容差±1.5cm スランプ8cm以上18cm以下 : 許容差±2.5cm
		必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2013	3本の強度の平均値が材齢28日で設計強度以上とする。
		その他	空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回とする)試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> <li>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-502-2013, 503-2007)または設計図書の規定により行う。</li> <li>・用心鉄筋等を有さない無筋構造物の場合は省略できる。</li> </ul> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m<sup>3</sup>~150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> </ul> <p>※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	
<p>吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で28日養生し、直径50mmのコアを切り取りキャッピングを行う。原則として1回に3本とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> </ul> <p>※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m<sup>3</sup>~150m<sup>3</sup>ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>以上の場合、50m<sup>3</sup>ごとに1回の試験を行う。</li> </ul> <p>※小規模工種については、塩化物総量規制の項目を参照</p>	
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
20 現場吹付法砕工	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成 15年3月5日付け技管第261号)	同左
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。
		JISマーク表示されたレディミクストコンクリートを	骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・碎石，高炉スラグ骨材，フェロニッケルスラグ細骨材，銅スラグ細骨材の規格値については摘要を参照)
		骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下 (ただし，粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし，すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)	
		砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。	
		モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上	
		骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下	
		硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部:高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部:フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部:銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部:電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)		○
工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
砂，砂利： 工事開始前，工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂，砕石： 工事開始前，工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
	合製は造 除く (JISマ ーク表 示され たレテ 、イミ クスト コンク リ	必須	細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による
		粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		
		その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
			ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率： 15%以下

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
工事開始前, 工事中1回/月以上	/	○
工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え, 上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上		○
工事開始前, 工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合, 印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50m<sup>3</sup>未満の場合は1工種1回以上の試験, またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。</p> <p>※小規模工種とは, 以下の工種を除く工種とする。(橋台, 橋脚, 杭類(場所打杭, 井筒基礎等), 橋梁上部工(桁, 床版, 高欄等), 擁壁工(高さ1m以上), 函渠工, 樋門, 樋管, 水門, 水路(内幅2.0m以上), 護岸, ダム及び堰, トンネル, 舗装, その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
				連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下
	施工	その他	スランブ試験 (モルタル除く)	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm
		必須	コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1107 JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2013	設計図書による
		その他	塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
		○
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種とは、以下の工種を除く工種とする。(橋台、橋脚、杭類(場所打杭、井筒基礎等)、橋梁上部工(桁、床版、高欄等)、擁壁工(高さ1m以上)、函渠工、樋門、樋管、水門、水路(内幅2.0m以上)、護岸、ダム及び堰、トンネル、舗装、その他これらに類する工種及び特記仕様書で指定された工種)</p>	
<p>1回6本 吹付1日につき1回行う。 なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリート(モルタル)を吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6本(σ7・3本、σ28・3本、)とする。</p>	<p>・参考値：18N/mm以上(材齢28日)</p> <p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照</p>	
<p>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合、午後の試験を省略することができる。(1試験の測定回数は3回)試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。</p> <p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」(JSCE-502-2013, 503-2007)または設計図書の規定により行う。</p> <p>※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>	<p>・小規模工種※で1工種当りの総使用量が50㎡未満の場合は1工種1回以上の試験、またはレディーミクストコンクリート工場の品質証明書等のみとすることができる。1工種当たりの総使用量が50㎡以上の場合は、50㎡ごとに1回の試験を行う。</p> <p>※小規模工種については、スランブ試験の項目を参照</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	引抜き耐力の80%程度以上。
			コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
21 河川土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
			土の含水比試験	JIS A 1203	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の圧密試験	JIS A 1217	
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の透水試験	JIS A 1218	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
設計図書による。		
品質に異常が認められた場合に行う。		
当初及び土質の変化した時。		
当初及び土質の変化した時。		
必要に応じて。		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 $\leq 53\text{mm}$ : 砂置換法 (JIS A 1214)	最大乾燥密度の90%以上。 ただし、上記により難しい場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。 【砂質土 (25% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分 $< 50\%$ )】 空気間隙率 $V_a$ が $V_a \leq 15\%$ 【粘性土 (50% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分)】 飽和度 $S_r$ が $85\% \leq S_r \leq 95\%$ または空気間隙率 $V_a$ が $2\% \leq V_a \leq 10\%$  または、設計図書による。
				最大粒径 $> 53\text{mm}$ : 舗装調査・試験法便覧 [4] -185 突砂法	1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の92%以上。 ただし、上記により難しい場合は、飽和度または空気間隙率の規定によることができる。 【砂質土 (25% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分 $< 50\%$ )】 空気間隙率 $V_a$ が $V_a \leq 15\%$ 【粘性土 (50% $\leq 75\mu\text{m}$ ふるい通過分)】 飽和度 $S_r$ が $85\% \leq S_r \leq 95\%$ または空気間隙率 $V_a$ が $2\% \leq V_a \leq 10\%$  または、設計図書による。
				または、 「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領(案)」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。
		その他	土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -216	
22 道路土工	材料	必須	土の締固め試験	JIS A 1210	設計図書による。
			CBR試験 (路床)	JIS A 1211	
		その他	土の粒度試験	JIS A 1204	設計図書による。
			土粒子の密度試験	JIS A 1202	
			土の含水比試験	JIS A 1203	
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	
			土の一軸圧縮試験	JIS A 1216	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
築堤は、1,000㎡に1回の割合で実施する。  1回の試験につき3孔で測定し、3孔の平均値で判定を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</li> </ul>	
盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。 築堤は、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・500㎡未満：5点</li> <li>・500㎡以上1,000㎡未満：10点</li> <li>・1,000㎡以上2,000㎡未満：15点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大粒径&lt;100mmの場合に適用する。</li> <li>・左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、(再)転圧を行うものとする。</li> </ul>	
1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。	/	
含水比の変化が認められたとき。	/	
トラフィカビリティが悪いとき。	/	
当初及び土質の変化した時（材料が岩砕の場合は除く）。 ただし、法面、路肩部の土量は除く。	/	
当初及び土質の変化した時。 （材料が岩砕の場合は除く）	/	
当初及び土質の変化した時。	/	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			土の三軸圧縮試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の圧密試験	JIS A 1217	
			土のせん断試験	地盤材料試験の方法と解説	
			土の透水試験	JIS A 1218	
施工	必須	現場密度の測定 ※右記試験方法 (3種類)のいずれかを実施する。	最大粒径 ≤ 53mm : 砂置換法 (JIS A 1214)  最大粒径 > 53mm : 舗装調査・試験法便覧 [4]-185 突砂法	【砂質土】 ・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）。 ・路床及び構造物取り付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、最大乾燥密度の95%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）もしくは90%以上（締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法）。 ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上がり厚を薄くする場合）に適用する。  【粘性土】 ・路体：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2% ≤ Va ≤ 10%または飽和度Srが85% ≤ Sr ≤ 95%。 ・路床及び構造物取り付け部：トラフィカビリティーが確保できる含水比において、空気間隙率Vaが2% ≤ Va ≤ 8% ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。  その他、設計図書による。	
			または、 「RI計器を用いた盛土の締固め管理要領（案）」	【砂質土】 ・路体：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の92%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）。 ・路床及び構造物取り付け部：次の密度への締固めが可能な範囲の含水比において、1管理単位の現場乾燥密度の平均値が最大乾燥密度の97%以上（締固め試験 (JIS A 1210) A・B法）もしくは92%以上（締固め試験 (JIS A 1210) C・D・E法）。 ただし、JIS A 1210 C・D・E法での管理は、標準の施工仕様よりも締固めエネルギーの大きな転圧方法（例えば、標準よりも転圧力の大きな機械を使用する場合や1層あたりの仕上がり厚を薄くする場合）に適用する。  【粘性土】 ・路体、路床及び構造物取り付け部：自然含水比またはトラフィカビリティーが確保できる含水比において、1管理単位の現場空気間隙率の平均値が8%以下。ただし、締固め管理が可能な場合は、砂質土の基準を適用することができる。  または、設計図書による。	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>路体の場合、1,000㎡につき1回の割合で行う。ただし、5,000㎡未満の工事は、1工事当たり3回以上。</p> <p>路床及び構造物取付け部の場合、500㎡につき1回の割合で行う。ただし、1,500㎡未満の工事は1工事当たり3回以上。</p> <p>1回の試験につき3孔で測定し、3孔の最低値で判定を行う。</p>		
<p>盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位ごとに管理を行うものとする。</p> <p>路体・路床とも、1日の1層あたりの施工面積を基準とする。管理単位の面積は1,500㎡を標準とし、1日の施工面積が2,000㎡以上の場合、その施工面積を2管理単位以上に分割するものとする。1管理単位あたりの測定点数の目安を以下に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 500㎡未満：5点</li> <li>・ 500㎡以上1,000㎡未満：10点</li> <li>・ 1,000㎡以上2,000㎡未満：15点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最大粒径&lt;100mmの場合に適用する。</li> <li>・ 左記の規格値を満たしていても、規格値を著しく下回っている点が存在した場合は、監督職員と協議の上で、（再）転圧を行うものとする。</li> </ul>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
				または、 「TS・GNSSを用いた盛土の締め管理要領」による	施工範囲を小分割した管理ブロックの全てが規定回数だけ締め固められたことを確認する。
			ブルーフローリング	舗装調査・試験法便覧 [4] -210	
		その他	平板載荷試験	JIS A 1215	
			現場CBR試験	JIS A 1222	設計図書による。
			含水比試験	JIS A 1203	
			コーン指数の測定	舗装調査・試験法便覧 [1] -216	
			たわみ量	舗装調査・試験法便覧 [1] -227 (ベンゲルマンビーム)	
23 捨石工	施工	必須	岩石の見掛比重	JIS A 5006	設計図書による。
			岩石の吸水率	JIS A 5006	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
1. 盛土を管理する単位（以下「管理単位」）に分割して管理単位毎に管理を行う。 2. 1日の施工が複数層に及ぶ場合でも1管理単位を複数層にまたがらせることはしないものとする。 3. 土取り場の状況や土質状況が変わる場合には、新規の管理単位として取り扱うものとする。		
路床仕上げ後全幅、全区間について実施する。ただし、現道打換工事、仮設用道路維持工事は除く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>荷重車については、施工時に用いた転圧機械と同等以上の締固め効果を持つローラやトラック等を用いるものとする。</li> </ul>	
各車線ごとに延長40mについて1ヶ所の割で行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>セメントコンクリートの路盤に適用する。</li> </ul>	
各車線ごとに延長40mについて1回の割で行う。		
路体の場合、1,000m <sup>3</sup> につき1回の割合で行う。ただし、5,000m <sup>3</sup> 未満の工事は、1工事当たり3回以上。 路床の場合、500m <sup>3</sup> につき1回の割合で行う。ただし、1,500m <sup>3</sup> 未満の工事は、1工事当たり3回以上。		
必要に応じて実施。 （例）トラフィカビリティが悪い時。		
ブルーフローリングでの不良個所について実施		
原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	<ul style="list-style-type: none"> <li>500m<sup>3</sup>以下は監督職員承諾を得て省略できる。</li> <li>参考値：               <ul style="list-style-type: none"> <li>硬石：約2.7g/cm<sup>3</sup>～2.5g/cm<sup>3</sup></li> <li>準硬石：約2.5g/cm<sup>3</sup>～2g/cm<sup>3</sup></li> <li>軟石：約2g/cm<sup>3</sup>未満</li> </ul> </li> </ul>	○
	<ul style="list-style-type: none"> <li>500m<sup>3</sup>以下は監督職員承諾を得て省略できる。</li> <li>参考値：               <ul style="list-style-type: none"> <li>硬石：5%未満</li> <li>準硬石：5%以上15%未満</li> <li>軟石：15%以上</li> </ul> </li> </ul>	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			岩石の圧縮強さ	JIS A 5006	設計図書による。
		その他	岩石の形状	JIS A 5006	うすっぺらなもの、細長いものであってはならない。
24 覆工コンクリート (NATM)	材料 (JIS マーク表示されたレタ、イミクストコンクリートを使用する場合は除く)	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成 15年3月5日付け技管第261号)	同左
		その他	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	設計図書による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110 JIS A 5005 JIS A 5011-1~4 JIS A 5021	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下 (砕砂・碎石、高炉スラグ骨材、フェロニッケルスラグ細骨材、銅スラグ細骨材の規格値については適用を参照)
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121 JIS A 5005	碎石 40%以下 砂利 35%以下
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 碎石 3.0%以下 (ただし、粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外 (砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外 (砂等) 5.0%以下 (ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
原則として産地毎に当初及び岩質の変化時。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 500m<sup>3</sup>以下は監督職員承諾を得て省略できる。</li> <li>・ 参考値： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 硬石：4903N/cm<sup>2</sup>以上</li> <li>・ 準硬石：980.66N/cm<sup>2</sup>以上4903N/cm<sup>2</sup>未満</li> <li>・ 軟石：980.66N/cm<sup>2</sup>未満</li> </ul> </li> </ul>	○
5,000m <sup>3</sup> につき1回の割で行う。ただし、5,000m <sup>3</sup> 以下のものは1工事2回実施する。	500m <sup>3</sup> 以下は監督職員承諾を得て省略できる。	○
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	JIS A 5005 (コンクリート用砕石及び砕砂) JIS A 5011-1 (コンクリート用スラグ骨材-第1部：高炉スラグ骨材) JIS A 5011-2 (コンクリート用スラグ骨材-第2部：フェロニッケルスラグ骨材) JIS A 5011-3 (コンクリート用スラグ骨材-第3部：銅スラグ骨材) JIS A 5011-4 (コンクリート用スラグ骨材-第4部：電気炉酸化スラグ骨材) JIS A 5021 (コンクリート用再生骨材H)	○
工事開始前、工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。ただし、砂利の場合は、工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。	/	○
工事開始前、工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。 (山砂の場合は、工事中1回/週以上)	/	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。		
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上		
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下		
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122 JIS A 5005	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下		
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント)		
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5213 (フライアッシュセメント) JIS R 5214 (エコセメント)		
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上		
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上		
			製造 (プラント)	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 (高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内) 混和剤：±3%以内
					ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランブ）の偏差率： 15%以下
連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5% 以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下						

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
工事開始前，工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	濃い場合は，JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○
工事開始前，工事中1回/月以上及び産地が変わった場合。		○
砂，砂利： 工事開始前，工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。 砕砂，砕石： 工事開始前，工事中1回/年以上及び産地が変わった場合。	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
工事開始前，工事中1回/月以上		○
		○
工事開始前，工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え，上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
	その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○
工事開始前，工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合，印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。		○
工事開始前及び工事中1回/年以上。		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		
	ノ スト コン ク リ ー ト		細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による		
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125			
	施 工	必 須		スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm	
				単位水量測定	「レディミクストコンクリートの品質確保について」	1) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合はそのまま施工してよい。 2) 測定した単位水量が、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> を超え±20kg/m <sup>3</sup> の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査し、生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、配合設計±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 配合設計±20kg/m <sup>3</sup> の指示値を越える場合は、生コンを打込まずに、持ち帰らせ、水量変動の原因を調査し、生コン製造業者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、配合設計±20kg/m <sup>3</sup> 以内になることを確認する。更に配合設計±15kg/m <sup>3</sup> 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 なお、管理値または指示値を超える場合は1回に限り試験を実施することができる。再試験を実施したい場合は、2回の測定結果のうち、配合設計との差の絶対値の小さい方で評価してよい。	
				コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)	
				塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下	
				空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5% (許容差)	
			そ の 他		コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。
					コンクリートの洗い分析試験	JIS A 1112	

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上		○
<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷卸し時</li> </ul> 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20m <sup>3</sup> ～150m <sup>3</sup> ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。	/	
100m <sup>3</sup> /日以上の場合； 2回/日（午前1回，午後1回）以上，重要構造物の場合は重要度に応じて100m <sup>3</sup> ～150m <sup>3</sup> ごとに1回，及び荷卸し時に品質変化が認められたときとし，測定回数は多い方を採用する。	示方配合の単位水量の上限値は粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m <sup>3</sup> ，40mmの場合は165kg/を基本とする。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷卸し時</li> </ul> 1回/日以上，構造物の重要度と工事の規模に応じて20m <sup>3</sup> ～150m <sup>3</sup> ごとに1回，及び荷卸し時に品質変化が認められた時。なお，テストピースは打設場所で採取し，1回につき6個（σ7・・・3個，σ28・・・3個）とする。	示方配合の単位水量の上限値は粗骨材の最大寸法が20mm～25mmの場合は175kg/m <sup>3</sup> ，40mmの場合は165kg/を基本とする。	
コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は，午前に1回コンクリート打設前に行い，その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は，午後の試験を省略することができる。（1試験の測定回数は3回とする）試験の判定は3回の測定値の平均値。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨材に海砂を使用する場合は，「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」（JSCE-C502-2013, 503-2007）または設計図書の規定により行う。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・荷卸し時</li> </ul> 1回/日以上，構造物の重要度と工事の規模に応じて20m <sup>3</sup> ～150m <sup>3</sup> ごとに1回，及び荷卸し時に品質変化が認められた時。		
品質に異常が認められた場合に行う。	/	
1回 品質に異常が認められた場合に行う。	/	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	施工後試験	必須	ひび割れ調査	スケールによる測定	0.2mm
			テストハンマーによる強度推定調査	JSCE-G 504-2013	設計基準強度
		その他	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計基準強度
25 吹付け コンクリート (NATM)	材料	必須	アルカリ骨材反応対策	「アルカリ骨材反応抑制対策について」(平成15年3月5日付け技管第261号)	同左
		その他 コンクリート(JIS)を使用する場合は除く(レテ、イミクスト)	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	設計図書による。
			骨材の単位容積質量試験	JIS A 1104	
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	絶乾密度：2.5以上 細骨材の吸水率：3.5%以下 粗骨材の吸水率：3.0%以下
			骨材の微粒分量試験	JIS A 1103 JIS A 5005 JIS A 5308	粗骨材 砕石 3.0%以下(ただし、粒形判定実積率が58%以上の場合は5.0%以下) スラグ粗骨材 5.0%以下 それ以外(砂利等) 1.0%以下 細骨材 砕砂 9.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) スラグ細骨材 7.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は5.0%以下) それ以外(砂等) 5.0%以下(ただし、すりへり作用を受ける場合は3.0%以下)
			砂の有機不純物試験	JIS A 1105	標準色より淡いこと。濃い場合でも圧縮強度が90%以上の場合は使用できる。
			モルタルの圧縮強度による砂の試験	JIS A 1142	圧縮強度の90%以上



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
本数 総延長 最大ひび割れ幅等		
強度が同じブロックを1構造物の単位とし、各単位につき3ヶ所の調査を実施。また、調査の結果、平均値が設計基準強度を下回った場合と、1回の試験結果が設計基準強度の85%以下となった場合は、その箇所の周辺において、再調査を5ヶ所実施。材齢28日～91日の間に試験を行う。	再調査の平均強度が、所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、コアによる強度試験を行う。 工期等により、基準期間内に調査を行えない場合は監督職員と協議するものとする。	
所定の強度が得られない箇所付近において、原位置のコアを採取。	コア採取位置、供試体の抜き取り寸法等の決定に際しては、設置された鉄筋を損傷させないよう十分な検討を行う。 圧縮強度試験の平均強度が所定の強度が得られない場合、もしくは1ヶ所の強度が設計強度の85%を下回った場合は、監督職員と協議するものとする。	
骨材試験を行う場合は、工事開始前、工事中1回/6ヶ月以上及び産地が変わった場合。		○
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。		○
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。		○
		○
	濃い場合は、JIS A 1142「有機不純物を含む細骨材のモルタル圧縮強度による試験方法」による。	○
試料となる砂の上部における溶液の色が標準色液の色より濃い場合。		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	細骨材：1.0%以下 粗骨材：0.25%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	細骨材：10%以下 粗骨材：12%以下
			粗骨材の粒形判定実績率試験	JIS A 5005	55%以上
			セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5214 (エコセメント)
			練混ぜ水の水質試験	上水道水及び上水道水以外の水の場合： JIS A 5308附属書C	懸濁物質の量：2g/L以下 溶解性蒸発残留物の量：1g/L以下 塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
				回収水の場合： JIS A 5308附属書C	塩化物イオン量：200ppm以下 セメントの凝結時間の差：始発は30分以内、 終結は60分以内 モルタルの圧縮強度比：材齢7及び28日で 90%以上
	製造（ブランド）	その他	計量設備の計量精度		水：±1%以内 セメント：±1%以内 骨材：±3%以内 混和材：±2%以内 （高炉スラグ微粉末の場合は±1%以内） 混和剤：±3%以内
	（JISマーク表示される場合）		ミキサの練混ぜ性能試験	バッチミキサの場合： JIS A 1119 JIS A 8603-1 JIS A 8603-2	コンクリートの練混ぜ量 公称容量の場合： コンクリート内のモルタル量の偏差率： 0.8%以下 コンクリート内の粗骨材量の偏差率：5% 以下 圧縮強度の偏差率：7.5%以下 コンクリート内空気量の偏差率：10%以下 コンシステンシー（スランプ）の偏差率： 15%以下

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
細骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。 ただし、覆工コンクリートと同一材料の場合は省略できる。粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	/	○
	寒冷地で凍結のおそれのある地点に適用する。	○
粗骨材は採取箇所または、品質の変更があるごとに1回。	/	○
工事開始前，工事中1回/月以上	/	○
	/	○
工事開始前，工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	上水道を使用している場合は試験に換え，上水道を使用していることを示す資料による確認を行う。	○
工事開始前，工事中1回/年以上及び水質が変わった場合。	その原水は上水道水及び上水道水以外の水の規定に適合するものとする。	○
工事開始前，工事中1回/6ヶ月以上	・レディーミクストコンクリートの場合，印字記録により確認を行う。	○
工事開始前及び工事中1回/年以上。	/	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	
	これは除く レテ、イミクストコンク			連続ミキサの場合： 土木学会規準JSCE-I 502-2013	コンクリート中のモルタル単位容積質量差： 0.8%以下 コンクリート中の単位粗骨材量の差：5%以下 圧縮強度差：7.5%以下 空気量差：1%以下 スランブ差：3cm以下	
			細骨材の表面水率試験	JIS A 1111	設計図書による	
			粗骨材の表面水率試験	JIS A 1125		
	施工	必須		塩化物総量規制	「コンクリートの耐久性向上」	原則0.3kg/m <sup>3</sup> 以下
				コンクリートの圧縮強度試験	JIS A 1108 土木学会規準JSCE F561-2013	1回の試験結果は指定した呼び強度の85%以上であること。 3回の試験結果の平均値は、指定した呼び強度以上であること。 (1回の試験結果は、3個の供試体の試験値の平均値)
				吹付けコンクリートの初期強度（引抜きせん断強度）	(JSCE-F561-2013) 引抜き方法による吹付けコンクリートの初期強度試験方法 (JSCE-G561-2010)	1日強度で5N/mm <sup>2</sup> 以上
				スランブ試験	JIS A 1101	スランブ5cm以上8cm未満：許容差±1.5cm スランブ8cm以上18cm以下：許容差±2.5cm
			空気量測定	JIS A 1116 JIS A 1118 JIS A 1128	±1.5%（許容差）	
	コアによる強度試験	JIS A 1107	設計図書による。			
26 ロックボルト(NATM)	材料	その他	外観検査（ロックボルト）	・目視 ・寸法計測	設計図書による。	
	施工	必須	モルタルの圧縮強度試験	JIS A 1108	設計図書による。	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
	/	○
2回/日以上	レディーミクストコンクリート以外の場合に適用する。	○
1回/日以上。		○
<p>コンクリートの打設が午前と午後にまたがる場合は、午前に1回コンクリート打設前に行い、その試験結果が塩化物総量の規制値の1/2以下の場合は、午後の試験を省略することができる。（1試験の測定回数は3回とする）試験の判定は3回の測定値の平均値。</p>	<p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」（JSCE-C502-2013, 503-2007）または設計図書の規定により行う。</p>	
<p>トンネル施工長40m毎に1回 材齢7日, 28日 (2×3=6供試体) なお、テストピースは現場に配置された型枠に工事で使用するのと同じコンクリートを吹付け、現場で7日間及び28日間放置後、φ5cmのコアを切り取りキャッピングを行う。1回に6個 (σ7…3個, σ28…3個) とする。</p>		
<p>トンネル施工長40mごとに1回</p>	<p>・骨材に海砂を使用する場合は、「海砂の塩化物イオン含有率試験方法」（JSCE-C502-2013, 503-2007）または設計図書の規定により行う。</p>	
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>・荷卸し時 1回/日以上、構造物の重要度と工事の規模に応じて20㎡～150㎡ごとに1回、及び荷卸し時に品質変化が認められた時。</p>		
<p>品質に異常が認められた場合に行う。</p>	/	
<p>材質は製造会社の試験による。</p>	/	○
<p>1) 施工開始前に1回 2) 施工中は、トンネル施工延長50mごとに1回 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回</p>	/	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			モルタルのフロー値試験	JIS R 5201	
			ロックボルトの引抜き試験	参考資料「ロックボルトの引抜き試験」による	設計図書による。
27 路上再生路盤工	材料	必須	修正CBR試験	舗装調査・試験法便覧[4] -5	修正CBR20%以上
			土の粒度試験	JIS A 1204	舗装再生便覧参照表-3.2.8 路上再生路盤骨材の望ましい粒度範囲による
			土の含水比試験	JIS A 1203	設計図書による。
			土の液性限界・塑性限界試験	JIS A 1205	塑性指数PI：9以下
		その他	セメントの物理試験	JIS R 5201	JIS R 5210 (ポルトランドセメント) JIS R 5211 (高炉セメント) JIS R 5212 (シリカセメント) JIS R 5213 (フライアッシュセメント)
			ポルトランドセメントの化学分析	JIS R 5202	JIS R 5214 (エコセメント)

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
1) 施工開始前に1回 2) 施工中または必要の都度 3) 製造工場または品質の変更があるごとに1回		
掘削の初期段階は20mごとに、その後は50mごとに実施、1断面当たり3本均等に行う（ただし、坑口部では両側壁各1本）。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・ 小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中規模以上の工事とは、管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・ 小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、以下のいずれかに該当するものをいう。               <ul style="list-style-type: none"> <li>① 施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>② 使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上、3,000t未満（コンクリートでは400㎡以上、1,000㎡未満）。</li> </ul>               ただし、以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。               <ul style="list-style-type: none"> <li>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul> </li> </ul>	
当初及び材料の変化時		
工事開始前，工事中1回/月以上		<input type="radio"/>  <input type="radio"/>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	施工	必須	現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [4] -185  砂置換法 (JIS A 1214)  砂置換法は、最大粒径 が53mm以下の場合のみ 適用できる	基準密度の93%以上。  X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上
			土の一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -68	設計図書による。
			CAEの一軸圧縮試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -69	
			含水比試験	JIS A 1203	
28 路上表層再生工	材料	必須	旧アスファルト針入度	JIS K 2207	
			旧アスファルトの軟化点		
			既設表層混合物の密度試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -91	
			既設表層混合物の最大比重試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -229	



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の93%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>		
当初及び材料の変化時	CAEの一軸圧縮試験とは、路上再生アスファルト乳剤安定処理路盤材料の一軸圧縮試験を指す。	
1～2回／日		
当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			既設表層混合物のアスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	/
			既設表層混合物のふるい分け試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	
			新規アスファルト混合物	「アスファルト舗装」に準じる。	
施工	必須		現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -91	基準密度の96%以上。 X10 98%以上 X6 98%以上 X3 98.5%以上
			温度測定	温度計による	110℃以上
			かきほぐし深さ	「舗装再生便覧」付録-8に準ずる	-0.7cm以内

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
当初及び材料の変化時	十分なデータがある場合や事前調査時のデータが利用できる場合にはそれらを用いてもよい。	○
<p>・ 締固め度は、個々の測定値が基準密度の96%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・ 締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・ 1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>	空隙率による管理でもよい。	
随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	
1,000㎡毎		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
		その他	粒度 (2.36mmフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内
			粒度 (75 $\mu$ mフルイ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75 $\mu$ mふるい：±5%以内
			アスファルト量抽出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内
29 排水性舗装工・透水性舗装工	材料	必須	骨材のふるい分け試験	JIS A 1102	「舗装施工便覧」3-3-2(3)による。
			骨材の密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	碎石・玉砕，製鋼スラグ (SS) 表乾比重：2.45以上 吸水率：3.0%以下
			骨材中の粘土塊量の試験	JIS A 1137	粘土，粘土塊量：0.25%以下
			粗骨材の形状試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -45	細長，あるいは扁平な石片：10%以下
			フィラーの粒度試験	JIS A 5008	「舗装施工便覧」3-3-2(4)による。
			フィラーの水分試験	JIS A 5008	1%以下
		その他	フィラーの塑性指数試験	JIS A 1205	4以下
			フィラーのフロー試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -65	50%以下
			製鋼スラグの水浸膨張性試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -77	水浸膨張比：2.0%以下
			粗骨材のすりへり試験	JIS A 1121	碎石・玉砕，製鋼スラグ (SS)：30%以下
			硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験	JIS A 1122	損失量：12%以下
			針入度試験	JIS K 2207	40(1/10mm)以上
			軟化点試験	JIS K 2207	80.0℃以上
			伸度試験	JIS K 2207	50cm以上 (15℃)

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
適宜	目標値を設定した場合のみ実施する。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上，3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上，1,000㎡未満)。</li> </ul> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。</li> <li>①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満</li> <li>②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上，3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上，1,000㎡未満)。</li> </ul> <p>ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。</p> <p>1) アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</p>	<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値		
			引火点試験	JIS K 2265-1 JIS K 2265-2 JIS K 2265-3 JIS K 2265-4	260℃以上		
			薄膜加熱質量変化率	JIS K 2207	0.6%以下		
			薄膜加熱針入度残留率	JIS K 2207	65%以上		
			タフネス・テナシ ティ試験	舗装調査・試験法便覧 [2] -244	タフネス：20N・m		
			密度試験	JIS K 2207			
プラ ント	必 須		粒度（2.36mmフル イ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内基準粒度		
			粒度（75μmフル イ）	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	75μmふるい：±5%以内基準粒度		
			アスファルト量抽 出粒度分析試験	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	アスファルト量：±0.9%以内		
			温度測定（アス ファルト・骨材・ 混合物）	温度計による	配合設計で決定した混合温度。		
			そ の 他		水浸ホイールト ラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。
					ホイールトラッキ ング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	
					ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -17	
					カンタプロ試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -111	

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：施工前，材料変更時</li> <li>・小規模以下の工事：施工前</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上，3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上，1,000㎡未満)。 ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	<input type="radio"/>  <input type="radio"/>  <input type="radio"/>  <input type="radio"/>  <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：定期的または随時。</li> <li>・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上，3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上，1,000㎡未満)。 ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	<input type="radio"/>  <input type="radio"/>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事：定期的または随時。</li> <li>・小規模以下の工事：異常が認められたとき。 印字記録の場合：全数または抽出・ふるい分け試験 1～2回/日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中規模以上の工事とは，管理図を描いた上での管理が可能な工事をいい，舗装施工面積が10,000㎡あるいは使用する基層及び表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。</li> <li>・小規模工事は管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい，同一工種の施工が数日連続する場合で，以下のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で1,000㎡以上10,000㎡未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上，3,000t未満(コンクリートでは400㎡以上，1,000㎡未満)。 ただし，以下に該当するものについても小規模工事として取り扱うものとする。 1)アスファルト舗装：同一配合の合材が100t以上のもの</li> </ul>	<input type="radio"/>  <input type="radio"/>
随時		<input type="radio"/>
設計図書による。	アスファルト混合物の耐剥離性の確認	<input type="radio"/>
	アスファルト混合物の耐流動性の確認	<input type="radio"/>
	アスファルト混合物の耐磨耗性の確認	<input type="radio"/>
	アスファルト混合物の骨材飛散抵抗性の確認	<input type="radio"/>

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
	舗設現場	必須	温度測定（初転圧前）	温度計による	
			現場透水試験	舗装調査・試験法便覧 [1] -122	X10 1,000mL/15sec以上 X10 300mL/15sec以上（歩道箇所）
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -97	車道については、個々の試験結果が基準密度の94%以上とし次のとおりとする。 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上  歩道については、設計図書に定めがない場合、個々の試験結果が基準密度の90%以上とする。
			外観検査（混合物）	目視	
30 プラント再生舗装工	材料	必須	再生骨材 アスファルト抽出後の骨材粒度	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	
			再生骨材 旧アスファルト含有量	舗装調査・試験法便覧 [4] -238	3.8%以上
			再生骨材 旧アスファルト針入度	マーシャル安定度試験による再生骨材の旧アスファルト性状判定方法	20(1/10mm)以上 (25℃)



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
随時	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	
1,000㎡ごと。		
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>		
随時		
再生骨材使用量500 t ごとに1回。		○
再生混合物製造日ごとに1回。 1日の再生骨材使用量が500 t を超える場合は2回。 1日の再生骨材使用量が100 t 未満の場合は、再生骨材を使用しない日を除いて2日に1回とする。		○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			再生骨材 洗い試験で失われる量	舗装再生便覧	5%以下
			再生アスファルト 混合物	JIS K 2207	JIS K 2207石油アスファルト規格
	プ ラ ン ト	必 須	粒度 (2.36mmフル イ)	舗装調査・試験法便覧 [2] -14	2.36mmふるい：±12%以内 再アス処理の場合、2.36mm：±15%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表- 2.9.5による。
粒度 (75 $\mu$ mフル イ)			75 $\mu$ mふるい：±5%以内 再アス処理の場合、75 $\mu$ m：±6%以内 印字記録による場合は、舗装再生便覧表- 2.9.5による。		
再生アスファルト 量			舗装調査・試験法便覧 [4] -238		アスファルト量：±0.9%以内 再アス処理の場合、アスファルト量：± 1.2%以内 印字記録による場合は舗装再生便覧表-2.8.5 による。
	そ の 他		水浸ホイールト ラッキング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -57	設計図書による。
			ホイールトラッキ ング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -39	
			ラベリング試験	舗装調査・試験法便覧 [3] -17	
	舗 設 現 場	必 須	外観検査 (混合 物)	目視	
				温度測定 (初転圧 前)	温度計による

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
再生骨材使用量500 t ごとに1回。	洗い試験で失われる量とは、試料のアスファルトコンクリート再生骨材の水洗前の75 $\mu$ mふるいにとどまるものと、水洗後の75 $\mu$ mふるいにとどまるものを気乾もしくは60 $^{\circ}$ C以下の炉乾燥し、その質量の差からもとめる。	○
2回以上及び材料の変化		○
抽出ふるい分け試験の場合：1~2回/日 ・中規模以上の工事：定期的または随時。 ・小規模以下の工事：異常が認められるとき。 印字記録の場合：全数		○
		○
		○
同左	耐水性の確認	○
	耐流動性の確認	○
	耐磨耗性の確認	○
随時		
	測定値の記録は、1日4回（午前・午後各2回）	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			現場密度の測定	舗装調査・試験法便覧 [3] -91	基準密度の94%以上。 X10 96%以上 X6 96%以上 X3 96.5%以上  再アス処理の場合，基準密度の93%以上。 基準密度の94%以上。 X10 95%以上 X6 95.5%以上 X3 96.5%以上
31 工場製作工 (鋼橋用鋼材)	材料	必須	外観・規格（主部材）	現物照合，帳票確認	
			機械試験（JISマーク表示品以外かつミルシート照合不可能な主部材）	JISによる	JISによる
			外観検査（付属部材）	目視及び計測	
32 ガス切断工	施工	必須	表面粗さ	目視	主要部材の最大表面粗さ：50 $\mu$ m以下 二次部材の最大表面粗さ：100 $\mu$ m以下 (ただし，切削による場合は50 $\mu$ m以下)
			ノッチ深さ	・目視 ・計測	主要部材：ノッチがあつてはならない 二次部材：1mm以下
			スラグ	目視	塊状のスラグが点在し，附着しているが，塊跡を残さず容易にはく離するもの。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>・締固め度は、個々の測定値が基準密度の94%以上（再アス処理の場合は基準密度の93%以上）を満足するものとし、かつ平均値について以下を満足するものとする。</p> <p>・締固め度は、10個の測定値の平均値X10が規格値を満足するものとする。また、10個の測定値が得がたい場合は3個の測定値の平均値X3が規格値を満足するものとするが、X3が規格値をはずれた場合は、さらに3個のデータを加えた平均値X6が規格値を満足していればよい。</p> <p>・1工事あたり3,000㎡を超える場合は、10,000㎡以下を1ロットとし、1ロットあたり10個（10孔）で測定することを原則とするが、10,000㎡以下の場合は次の（例）のとおりでも良い。</p> <p>（例）</p> <p>①3,000㎡以上～6,000㎡未満の工事は、1工事あたり3個（3孔）で測定する。</p> <p>②6,000㎡以上の工事は、1ロットとして10個（10孔）で測定するか、又は2ロット（1ロットは面積の1/2とし、測定箇所が偏らないようにする）として1ロット毎に3個（3孔）で測定する。</p> <p>なお、1工事あたり3,000㎡未満の工事（ただし、維持工事を除く）は、1工事あたり3個（3孔）で測定し、1,000㎡未満については異常がなければ省略してもよい。</p>		
<p>現物とミルシートの整合性が確認できること。規格、品質がミルシートで確認できること。</p>		○
<p>JISによる</p>	<p>試験対象とする材料は監督職員と協議のうえ選定する。</p>	
	<p>最大表面粗さとは、JIS B 0601（2013）に規定する最大高さ粗さRZとする。</p>	
	<p>ノッチ深さとは、ノッチ上縁から谷までの深さを示す。</p>	

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			上縁の溶け		わずかに丸みをおびているが、滑らかな状態のもの。
		その他	平面度	目視	設計図書による（日本溶接協会規格「ガス切断面の品質基準」に基づく）
			ベベル精度	計測器による計測	
			真直度		
33 溶接工	施工	必須	引張試験：開先溶接	JIS Z 2241	引張強さが母材の規格値以上。
			型曲げ試験（19mm未満裏曲げ） （19mm以上側曲げ）：開先溶接	JIS Z 3122	亀裂が生じてはならない。ただし、亀裂の発生原因がブローホールまたはスラグ巻き込みであることが確認され、かつ、亀裂の長さが3mm以下の場合は許容するものとする。
			衝撃試験：開先溶接	JIS Z 2242	溶接金属及び溶接熱影響部で母材の規格値以上（それぞれの3個の平均値）。
			マクロ試験：開先溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があつてはならない。
			非破壊試験：開先溶接	「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編 18.4.6外部きず検査 18.4.7内部きず検査の規定による	同左
			マクロ試験：すみ肉溶接	JIS G 0553に準じる。	欠陥があつてはならない。

試験基準	摘 要	試験成績等による確認
試験片の形状：JIS Z 3121 1号 試験片の個数：2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.1開先溶接試験溶接方法による。</li> <li>・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。</li> </ul>	○
試験片の形状：JIS Z 3122 試験片の個数：2		○
試験片の形状：JIS Z 2242 Vノッチ 試験片の採取位置：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.2衝撃試験片 試験片の個数：各部位につき3		○
試験片の個数：1		○
試験片の個数：試験片継手全長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.1開先溶接試験溶接方法による。</li> <li>・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。</li> </ul>	
	(非破壊試験を行う者の資格) <ul style="list-style-type: none"> <li>・磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応したJIS Z 2305（非破壊試験—技術者の資格及び認証）に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。</li> <li>・放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験におけるレベル2以上の資格とする。</li> <li>・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル3以上の資格とする。</li> <li>・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。</li> </ul>	○
試験片の形状：「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接 図-18.4.3すみ肉溶接試験（マクロ試験）溶接方法及び試験片の形状 試験片の個数：1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.4溶接施工法 図-18.4.3すみ肉溶接試験（マクロ試験）溶接方法及び試験片の形状による。</li> <li>・なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し、溶接施工試験を省略することができる。</li> </ul>	○

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			引張試験：スタッド溶接	JIS Z 2241	降伏点は 235N/mm <sup>2</sup> 以上、引張強さは 400N/mm <sup>2</sup> ～550N/mm <sup>2</sup> 、伸びは20%以上とする。ただし溶接で切れてはいけない。
			曲げ試験：スタッド溶接	JIS Z 3145	溶接部に亀裂を生じてはならない。
			突合せ継手の内部欠陥に対する検査	JIS Z 3104 JIS Z 3060	試験で検出されたきず寸法は、設計上許容される寸法以下でなければならない。ただし、寸法によらず表面に開口した割れ等の面状きずはあってはならない。 なお、放射線透過試験による場合において、板厚が25mm以下の試験の結果については、以下を満たす場合には合格としてよい。 ・引張応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104附属所4（透過写真によるきずの像の分類方法）に示す2種類以上とする。 ・圧縮応力を受ける溶接部は、JIS Z 3104附属所4（透過写真によるきずの像の分類方法）に示す3種類以上とする。 なお、板厚が25mmを超える場合は、内部きず寸法の許容値を板厚の1/3とする。ただし、疲労の影響が考えられる継手では、所定の強度等級を満たす上で許容できるきず寸法はこの値より小さい場合があるので注意する。
			外観検査（割れ）	・目視	割れがあってはならない。
			外観検査（ビード表面のピット）	・目視及びノギス等による計測	主要部材の突合せ継手及び断面を構成するT継手、角継手には、ビード表面にピットがあってはならない。その他のすみ肉溶接及び部分溶込み開先溶接には、1継手につき3個または継手長さ1mにつき3個までを許容する。ただし、ピットの大きさが1mm以下の場合、3個を1個として計算する。
			外観検査（ビード表面の凸凹）		ビード表面の凹凸は、ビード長さ25mmの範囲で3mm以下。
			外観検査（アンダーカット）		「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編18.4.6外部きず検査の規定による
			外観検査（オーバーラップ）	・目視	オーバーラップがあってはならない。



試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
試験片の形状：JIS B 1198 試験片の個数：3	なお、過去に同等もしくはそれ以上の条件で溶接施工試験を行い、かつ施工経験をもつ工場では、その時の試験報告書によって判断し溶接施工試験を省略することができる。	○
試験片の形状：JIS Z 3145 試験片の個数：3		○
放射線透過試験の場合はJIS Z 3104による。 超音波探傷試験（手探傷）の場合はJIS Z 3060による。	<p>・溶接方法は「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編 表-解18.4.5に各継手の強度等級を満たす上での内部きず寸法の許容値が示されている。なお、表-解18.4.5に示されていない継手の内部きず寸法の許容値は、「鋼道路橋の疲労設計指針H14.3」が参考にできる。</p> <p>（非破壊試験を行う者の資格）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線透過試験を行う場合は、放射線透過試験におけるレベル2以上の資格とする。</li> <li>・超音波自動探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル3以上の資格とする。</li> <li>・手探傷による超音波探傷試験を行う場合は、超音波探傷試験におけるレベル2以上の資格とする。</li> </ul>	○
検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。目視は全延長実施する。ただし、疑わしい場合は、磁粉探傷試験または浸透探傷試験を用いる。	磁粉探傷試験または浸透探傷試験を行う者は、それぞれの試験の種類に対応したJIS Z 2305（非破壊試験－技術者の資格及び認証）に規定するレベル2以上の資格を有していなければならない。	
検査体制、検査方法を明確にした上で、目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。		
	「日本道路協会道路橋示方書・同解説」Ⅱ鋼橋編 表-解18.4.4に各継手の強度等級を満たす上でのアンダーカットの許容値が示されている。表-解18.4.4に示されていない継手のアンダーカット許容値は、「鋼道路橋の疲労設計指針	
検査体制、検査方法を明確にした上で目視検査する。		

品質管理基準及び規格値

工 種	種 別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値
			外観形状検査 (すみ肉溶接サイズ)	・目視及びノギス等による計測	すみ肉溶接のサイズ及びのど厚は、指定すみ肉サイズ及びのど厚を下回ってはならない。ただし、1溶接線の両端各50mmを除く部分では、溶接長さの10%までの範囲で、サイズ及びのど厚ともに-1.0mmの誤差を認める。
			外観形状検査 (余盛高さ)		設計図書による。 設計図書に特に仕上げの指定のない開先溶接は、以下に示す範囲内の余盛りは仕上げなくてよい。余盛高さが以下に示す値を超える場合は、ビート形状、特に止端部を滑らかに仕上げるものとする。  ビート幅 (B[mm]) 余盛高さ (h[mm]) $B < 15 \quad : \quad h \leq 3$ $15 \leq B < 25 \quad : \quad h \leq 4$ $25 \leq B \quad : \quad h \leq (4/25) \cdot B$
			外観形状検査 (アークスタッド)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・余盛り形状の不整：余盛りは全周にわたり包囲していなければならない。なお、余盛りは高さ1mm、幅0.5mm以上</li> <li>・クラック及びスラグ巻込み：あってはならない。</li> <li>・アンダーカット：鋭い切欠状のアンダーカットがあってはならない。ただし、グライNDER仕上げ量が0.5mm以内に納まるものは仕上げて合格とする。</li> <li>・スタッドジベルの仕上り高さ：(設計値±2mm) を超えてはならない。</li> </ul>
		その他	ハンマー打撃試験	ハンマー打撃	割れ等の欠陥を生じないものを合格。

試験基準	摘 要	試験成績表等による確認
<p>検査体制，検査方法を明確にした上で，目視確認により疑わしい箇所を測定する。目視は全延長実施する。</p>	<p>（このセルは対角線が引かれており、内容が空白です）</p>	<p>（このセルは対角線が引かれており、内容が空白です）</p>
<p>外観検査の結果が不合格となったスタッドジベルについて全数。 外観検査の結果が合格のスタッドジベルの中から1%について抜取り曲げ検査を行なうものとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・余盛が包囲していないスタッドジベルは，その方向と反対の15°の角度まで曲げるものとする。</li> <li>・15°曲げても欠陥の生じないものは，元に戻すことなく，曲げたままにしておくものとする。</li> </ul>	<p>（このセルは対角線が引かれており、内容が空白です）</p>

# 建築・設備工事施工管理

## 工種別施工管理報告書

### (1) 趣旨

この施工管理報告書は、宇都宮市建設工事共通仕様書第9編建築工事編，第10編機械設備工事編，第11編電気設備工事編により提出しなければならない。又，次表は報告に際し現場に整備しておかなければならない。施工管理の記録を工種別にまとめたものである。

### (2) 適用

この工種別施工管理報告書は，宇都宮市が施工する建築・設備工事に適用する。ただし，この工種別施工管理報告書に定めてないものは，監督員と協議するものとする。

## 建築工事提出書類一覧表

種別	項目	内容等	様式
工 程 管 理	1. 施工管理報告書	表 紙	
	2. 実施工程表 (工種別工程表)	工事全体の工程表 工種別工定表, 週間又は月間工程表等	様式 1・2
	3. 施工計画書 (工種別施工計画書)	仮設工事を含む工事全般の施工計画書と工種別に材料, 工法, 品質管理等を具体的に定めた施工計画書	
	4. 工事実施状況報告書	工事の一工程が完了したとき等実施状況を図示する等して計測確認事項等を添えて報告する。	
	5. 工事進捗月報等	工事の一般的な経過を記載した文書で工事規模により, 週報, 日報等	様式 3 様式 4 様式 5 様式 8
	6. その他必要な事項	監督員とそのつど協議する。	
品 質 管 理 出 来 形 管 理	1. 材料検収簿	搬入材料別に品質規格寸法を確認し又必要な検査をして一覧表にする。 必要に応じて資料を添えて提出する。	様式 6
	2. 施工図 (加工図)	施工に際し必要部分の詳細図	
	3. 使用材料メーカー選定届	施工に際し, 使用材料のメーカー選定届	様式 9
	4. 工事材料検査記録	材料検査結果の記録 (試験成績書, 規格証明書を含む。)	
	5. 工事打合書	工事打合会議事項の結果等の記録	様式 10, 共通様式 40
	6. 発生材等処理報告書	残土 (発生土), 舗装, コンクリート等産業廃棄物の処理を証明する資料 (処理先, 方法等の報告)	
	7. 下請業者選定届	下請業者選定届	様式 11
	8. 完成図等	完成図の他保守管理に必要な図書を含む。変更した部分については全て提出する。	
	9. その他必要な書類	監督員とそのつど協議する。	
工事写真 (カラー)	施工前, 施工中の工事状況, 工程, 検収, 品質, 出来形等仕上り精度を明らかにできるものでなければならない。なお, 完成後外部から明視することができない箇所, 又は重要な工事部分等図面と対照して出来形の状況, 寸法 (出来形管理と対比) が審査できるよう工程順に整理すること。「工事写真の撮り方 (建築編) 参照」		

## 機械設備工事提出書類一覧表

		提出書類	内 容 等	様 式
工程管理	1	実施工程表	工事全体の工程表（実施工程管理図記入，予定図 [点線]・実施図 [赤の実線]）	
	2	工事工程表	工種別工程表，週間及び月間工程表等	様式 1, 2
	3	工事進捗状況報告書	工事の全般的な経過を文書とグラフで作成	様式 8
施工管理 品質管理	1	現場代理人等届	建設業法による有資格者とし，これらを置くときはその資格を証明する資料を添付。	
	2	CORINS 受注時工事カルテ受領書	契約締結後 10 日以内に登録し，受領書を提出する。（写し）（変更時も同様）	
	3	CORINS 竣工時工事カルテ受領書	工事完成後 10 日以内に登録し，受領書を提出する。（写し）（変更時も同様）	
	4	保険契約書の写し	宇都宮市建設工事請負契約書第 52 条による保険契約証券を提出する。（写し）	
	5	建設業退職金共済証紙購入報告書	契約締結後 1 か月以内に共済証紙を購入し，掛金収納書を添付。	
	6	施工計画書 （変更計画書）	仮設工事を含む工事全般の施工計画書と工事種別に材料，工法，品質管理などを具体的に定めた施工計画書。 第 1 編共通編第 1 章総則第 1 節総則 1-1-4 のほか ・ 官公庁提出書類一覧表 ・ 機器搬入計画 ・ 品質管理（施工要領，写真管理，段階確認計画，社内検査計画など） ・ 発生材処分計画 ・ 施工図作成一覧表 ・ その他必要なもの	
	7	工事下請報告書	下請負業者選定届 工事一部下請通知書	様式 11, 11-2
	8	施工図（製作図）	施工に際し詳細な施工図。（製作図）	
	9	機器承諾図	施工に際し必要部品材料の品質，規格等を証明する資料（見本）をつけたもの，調合を要する材料は，調合表を監督員に提出すること。	様式 13
	10	工事使用材料等メーカー選定承諾書	施工に際し必要部品材料の使用メーカー，取扱店及び所在地，担当者等の選定	様式 12
	11	工事材料搬入検収簿	工事材料搬入毎に品質，規格，寸法，搬入数量等を確認する。	様式 6

施工管理 品質管理	12	配管試験成績結果報告書	材料検査結果の記録, 各種配管の試験成績の記録。(規格証明書を含む)	様式 7
	13	段階確認書	一工程の確認を行う。計画工程表に基づき受注者は監督員と確認内容を協議すること。	共通様式 57
	14	発生材等処分報告書	残土(発生土), 舗装, コンクリート等産業廃棄物の処理を証明する資料。(処理先, 方法等の報告)	様式 14
	15	建設副産物処理調書	処理承認申請書・処理調書の提出	共通様式 85
	16	建設副産物実態調査	計画書・実施書の提出。	
	17	官公庁申請書類写し	官公庁申請書類(届け出書類)等の副本又は写しの提出。	様式 15
	18	工事打合議事録	工事打合せ議事, 質疑, 結果等の記録。(分科会を含む)	様式 10、 共通様式 40
	19	工事週日報	工事事項, 労働者職種別人員, 搬入資材などの工事状況, 総括責任者による指示事項並びに監督員が連絡した事項又は監督員と協議した事項等について記録を作成する。	様式 5
	20	機器取扱説明書	主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したもの。	
完成図 その他	1	完成図書類	完成図(製本), 施工図, 保全に関する資料, 施工計画書等 (図面サイズ・部数等は特記仕様書による) 電子データ(ガイドライン参照)	
	2	工事写真, 完成写真	施工前, 施工中の工事状況, 工程, 検収, 品質, 出来形等仕上がり精度を明らかにするもの。完成後外部から明視することができない箇所又は重要な工事部分等図面と対照して出来形状況, 寸法(出来形管理と対比)が審査できるよう工程順に整理すること。「工事写真の撮り方(建築設備編)」を参照。 電子データ(ガイドライン参照)	
	3	設備機器台帳	各設備機器ごとに仕様, 製造者, 設置場所, 代理店, 施工業者等を記載したもの。	様式 16
	4	工事目的物引渡書		
	5	その他必要な書類	監督員とその都度協議の上作成提出すること。	

## 電気設備工事提出書類一覧表

種 別	提 出 書 類	内 容 等	様 式
工程管理	1. 実施工程表	工事全体の工程表(実施工程管理図記入, 予定図 [点線]・実施図 [赤の実線])	
	2. 工事工程表	工種別工程表, 週間又は月間工程表等	様式 1・2
	3. 工事進捗状況報告書	工事の全般的な経過を文書とグラフで作成。	様式 8
施工管理 品質管理	1. 現場代理人等届	建設業法による有資格者とし, これらを置くときはその資格を証明する資料を添付。	
	2. CORINS 受注時工事カルテ受領書	契約締結後 10 日以内に登録し, 受領書を提出する。(写し)(変更時も同様)	
	3. CORINS 竣工時工事カルテ受領書	工事完成後 10 日以内に登録し, 受領書を提出する。(写し)(変更時も同様)	
	4. 保険契約書の写し	宇都宮市建設工事請負契約書第 52 条による保険契約証券を提出する。(写し)	
	5. 建設業退職金共済証紙購入報告書	契約締結後 1 か月以内に共済証紙を購入し, 掛金収納書を添付。	
	6. 施工計画書 (変更計画書)	仮設工事を含む工事全般の施工計画書と工事種別に材料, 工法, 品質管理などを具体的に定めた施工計画書。 第 1 編共通編第 1 章総則第 1 節総則 1-1-4 によるほか, 工事内容に応じて下記の書類を提出する。 ・官公署提出書類一覧表 ・機器搬入計画 ・品質管理(施工要領, 写真管理, 段階確認計画, 社内検査計画等) ・発生材処分計画 ・施工図作成一覧表 ・電子納品事前協議チェックシート ・工事用電力設備保安責任者届 ・その他必要な書類	
	7. 工事下請報告書	下請業者選定届 工事一部下請通知書	様式 11-1 様式 11-2
	8. 施工図(製作図)	施工に際し詳細な施工図。(製作図)	
	9. 機器承諾図	施工に際し必要部品材料の品質, 規格等を証明する資料(見本)をつけたもの, 調合を要する材料は, 調合表を監督員に提出すること。	様式 13



施工管理 品質管理	10. 工事使用材料等メーカー選定承諾書	施工に際し必要部品材料の使用メーカー、取扱店及び所在地、担当者等の選定	様式 12
	11. 工事材料搬入検収簿	工事材料搬入毎に品質、規格、寸法、搬入数量等を確認する。	様式 6
	12. 各種試験成績結果報告書	材料検査結果の記録、各種絶縁、接地、照度等の試験成績の記録。(規格証明書を含む)	様式 7
	13. 発生材等処分報告書	残土(発生土)、舗装、コンクリート等産業廃棄物の処理を証明する資料。(処理先、方法等の報告)	様式 14
	14. 段階確認書	一工程の確認を行う。計画工程表に基づき監督員と確認内容を協議すること。	共通様式 57
	15. 建設副産物処理調書	処理承認申請書・処理調書の提出	共通様式 85
	16. 建設副産物実態調査	計画書・実施書の提出。	
	17. 官公庁申請書類写し	官公庁申請書類(届け出書類)等の副本又は写しの提出。	様式 15
	18. 工事打合議事録	工事打合せ議事、質疑、結果等の記録。(分科会を含む)	様式 10 共通様式 40
	19. 工事週日報	工事事項、労働者職種別人員、搬入資材などの工事状況、総括責任者による指示事項並びに監督員が連絡した事項又は監督員と協議した事項等について記録を作成する。	様式 5
	20. 機器取扱説明書	主要機器を含めた装置の取扱説明及び保守についての事項を記載したもの。	
完成図 その他	1. 完成図書類	(1)完成図、保全に関する資料等(図面サイズ、部数等は特記仕様書による) (2)電子データ(ガイドライン参照)	
	2. 工事写真、完成写真	施工前、施工中の工事状況、工程、検収、品質、出来形等仕上がり精度を明らかにするもの。完成後外部から明視することができない不可視部分の出来形状況、寸法等が審査できるよう工程順に整理すること。「工事写真の撮り方(建築設備編)最新版」を参照 電子データ(ガイドライン参照)	
	3. 設備機器台帳	各設備機器ごとに仕様、製造者、設置場所、代理店、施工業者等を記載したもの。	様式 16
	4. 工事目的物引渡書		
	5. その他必要な書類	監督員とそのつど協議の上作成提出すること。	

## 建築工事出来形基準

(1) 趣旨

この規格値は、品質及び出来形の規格値である。

(2) 適用

この規格値は、宇都宮市が施工する建築工事に適用する。ただし、この規格値に定めのないものは、監督員と協議する。

(3) 品質及び出来形の判定

(イ) 品質及び出来形は、すべて規格値を満足しなければならない。

(ロ) 規格値内にあっても片寄りすぎているもの又は、変動の大きいものであってはならない。

## 建築工事出来形基準

### 仮設工事

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
ベンチマーク	1か所当たり				
遣り方	出隅, 入隅箇所	全数			
基準墨	各交差点	全数			

### 土工事

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
根切底の深さ	総堀り	縦横 4m 毎 1 点	±30mm.		指針
	布堀り	2~3m 毎 1 点			指針
	つぼ堀り	周囲 4 点 中央 1 点			指針

### 地業工事

#### 1. オーガー併用打撃工法

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
オーガーの掘削 深さ及び倒れ	一日打込み本数	全数	傾斜 1/100 以内		指針
杭の傾斜		全数	傾斜 1/100 以内		指針
杭心ずれ	杭総本数	全数	D/4 かつ 10cm 以内 〔水平偏心〕 60mm 以内		指針
長期設計 支持力	杭総本数	全数		設計図	
杭頭処理後 の高さ			100mm.以下		指針

## 2. セメントミルク工法

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
オーガーの 建 入 れ	杭総本数	全 数	傾斜 1/100 以下		
掘削液の管理	1日の作業量	午前・午後 1回	粘性 21~27秒 下限値必要粘性 上限値作液粘性 の 130%		
支持層の確認	1日打込み本数	全 数	駆動用電動機の 電流値		
支持層の掘削		全 数			
杭の鉛直度		全 数	傾斜 1/100 以内		
根固め液の 注 入 量 管 理	1日打込み本数	全 数			
根固め液・杭 周囲固定液の 強 度 管 理	継手のない場合	30本ごと, 端数につき 1回		根固め 20 {N/mm <sup>2</sup> } 以上 根周囲固定液 0.5 {N/mm <sup>2</sup> } 以上	
	継手のある場合	20本ごと, 端数につき 1回			
杭の高止り	1日打込み本数	全 数			

### 3. 割り石・砂利地業

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
天端高さ	総堀り				
	布堀り				
	つぼ堀り				
厚さ	天端高さ測定箇所				

### 4. 捨てコンクリート地業

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
天端高さ	総堀り				
	布堀り				
	つぼ堀り				

## 鉄筋工事

### 1. 加工・組立て

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
加工方法	加工鉄筋搬入時又は 加工後 加工形状ごと	全数			
鉄筋相互の あき	部位別・コンクリート 打設ごと	全数		25mm・粗骨材の最大 寸法の1.25倍かつ 鉄筋径の1.5倍	標仕
かぶり厚さ (色別)	部位別・コンクリート 打設ごと	全数	設計かぶり厚さ		

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
スペーサー などの 配置・数量	部位別・種別毎	全 数	スラブ上下筋それぞれ 1.2 個/m <sup>2</sup> はり間隔 端部 2m 以下 柱上段 1 段目の帯筋 中断 柱の中間 柱幅 1m まで 2 個 幅 1m 以上 3 個 基礎面積 4 m <sup>2</sup> 程度 8 個 16 m <sup>2</sup> 程度 20 個 基礎梁 間隔 2m 端部 2m 以下 壁上段 1 段目の壁筋 中段 上段より 1.2m 以下 横間隔は 1.2m 端部は 1.2m 以内	スラブ上筋肩筋 端部 0.75m 以下 下筋 2 個/m <sup>2</sup> (はり, 1.5m 程度) (端部 1.5m 以内) (布基礎 1.5m 程度) 基礎梁 1.5m 程度 端部 1.5m 以内 壁上第 1 横筋 端部第 1 縦筋 間隔 1.5m	指 針

## 2. ガス圧接

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
圧 接 面	1組の作業班が1日 に行った圧接箇所	目 視 全 数 計 測 目視検査の 結果により	隙間 3 mm.		標 仕
圧 接 部			ふくらみの径 母材径の 1.4倍以上 軸心の食違い 母材径の 1/5 以下 $l=1.1d$		標 仕
引 張 り 試 験		3 本		圧接部 母材の規格 強度以上 かつ圧接面破断	標 仕
再 引 張 り 試 験		5 %		母材の規格 強度以上	標 仕
超 音 波 探 傷 試 験				ランプが点滅 しないこと	標 仕
再 超 音 波 探 傷 試 験		全 数			

## コンクリート工事

### 1. コンクリート

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
コンクリート	打設日ごと	1日1回 かつ 150 cm <sup>2</sup> ごとに 1回		塩化物量 0.30kg/m <sup>2</sup> 以下 スラブ 18cm. 以下 ±2.5cm 空気量 ±1.5% 強度 $x \geq 1.05F_7$ $x \geq 1.05F_{2.8}$	標 仕

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
湿潤状態		5日間		毎日適宜	標仕
寒冷期の保温				+2℃以上	
床コンクリート こて仕上げ	各室ごと				
コンクリート 表面の 凹凸の差		通り心・スパン の中央の上中下	化粧打放し仕上げ 3mにつき 7mm.以下, 仕上げ のある場合3m につき10mm.以 下及び1mにつ き10mm以下		標仕
目違い					
コンクリート の補修					



## 2. 型枠工事

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
主要墨	打設区画毎に	各交差点			
緊張材	搬入毎に・種類別	1本/50本	各材断面ごと		
柱の建入れ	打設区画毎に X・Y方向より	全数			
通り	打設区画毎に外回り 各スパン中央上中下				
階高及び スパン	打設区画毎に建物の 通り心				
位置ずれ	打設面区画毎に建物 の通り心・ スパン中央	外回り 全数			
柱・梁・壁の 断面寸法	打設面区画毎に 柱・壁 上中下 梁 両端・中央	全数			
スラブ断面	一区画5点		-0mm～±20mm		
スリーブ・ 床・壁の開口	打設区画毎に	全数			
梁スリーブの 位置	打設区画毎に上下の 位置・通り	全数			
屋根床版の 勾配	打設区画毎に水上, 水下の高さ	3m毎に 水上, 水下			

## 鉄骨工事

### 1. 工場作業 材料試験（摩擦接合すべり試験）必要時

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
試験体寸法		全数	$\leq \pm 2\text{mm}$		
孔径			$< \pm 0.5\text{mm}$		
心ずれ			$\leq \pm 1\text{mm}$		
接合面の状況				均一な発錆	
導入ボルト軸力		全数		基準値	
すべり係数値				$0.45 \leq$	標仕

### 1. 工場作業 施工試験（スタップボルト試験）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
機械的試験（曲げ）	午前と午後1回	100本ごと 又はその端数につき1本以上	全数	曲げ15度	標仕
スタップ溶接後の長さ				仕上り高さ $\pm 2\text{mm}$ 傾き 5度以内	

### 1. 工場作業 原寸検査

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
巻尺の照合	使用巻尺	全数		基準尺との差 1.2/10,000 以下	
原寸図寸法	測定箇所ごと		$\leq \pm 0.5\text{mm}$		
定期寸法・型板寸法	使用定規・型板		$\leq \pm 0.5\text{mm}$		

1. 工場作業 溶接（突合せ溶接部の非破壊検査）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
溶接欠陥の試験（われ・融合不良・溶込み不足・スラグ巻き込み・ブローホール）	1節又は300溶接線	全数		建築学会超音波探傷基準	
溶接欠陥の再試験		全数			

1. 工場作業 製品（柱寸法）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
柱全長（L）	2m以下 2m～10m 10m以上	全数	$L \leq 10m \pm 3.0mm$ $L \geq 10m \pm 4.0mm$		
階高			$\pm 3.0mm$		
柱のせい（H）			$H \leq 400mm$ $\leq \pm 2.0mm$ $400 < 800mm$ $\leq \pm H/200$ $H \leq 800mm$ $\leq \pm 4.0mm$		
柱の曲り			$L/1500$ かつ $\leq 5.0mm$		
柱のねじれ			$\leq 6H/1000$		
メタルタッチ			$\leq 1.5D/1000$		
ベースプレートの折れ			$\leq 2mm$		
ベースプレート孔間隔			$\leq \pm 2.0mm$		
仕口のせい					
仕口の長さ			$\pm 3.0mm$		
仕口部の角度			上下方向 $\leq L/300$ かつ $3.0mm$ 左右 $\leq 4.0mm$		

1. 工場作業 製品 (梁寸法)

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
梁全長 (L)	2m 以下 2m~10m 10m 以上	全 数	第 1 孔間 ±3.0mm		
梁 せ い (H)	2m 以下 2m~10m 10m 以上	全 数		一般部 柱せいと同じ 接合部 ±2.0mm	
梁 幅 (B)				±3.0mm	
梁 大 曲 り			梁せい方向 ≤L/1000 かつ ≤10mm 梁幅方向 ≤L/1500 かつ ≤5.0mm		
梁 ウ ェ ブ の 曲 が り			≤H/150mm ≤B/150mm		
梁 ウ ェ ブ の 平 面 図			<4.0mm		
フ ラ ン ジ ( 幅 B ) の 傾 斜			B≤150 ≤2.0mm 150≤300 ≤B/75 B>300 ≤4.0mm		
フ ラ ン ジ ( 幅 B ) の 折 れ			B/2≤75 ≤1.0mm 75<B/2 ≤150 ≤B/2/75 B/2>150 ≤2.0mm		

### 1. 工場作業 製品（接合部寸法）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
仕口, 梁フランジ (幅 B) の傾斜	接合部	全 数	$\leq B/100$ かつ $\leq 3.0\text{mm}$		学 会
仕口, 梁フランジ の 折 れ			$\leq B/2/100$ かつ $\leq 1.5\text{mm}$		学 会

### 2. 現場施工 アンカーボルト

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
通り心とアンカー ボルトの 位置ずれ (e)	1日の建方作業量	全 数	$\pm 3.0\text{mm}$		学 会
通 り 心 間 隔			$\pm 1.0\text{mm}$		学 会
柱すえ付け面 の高さ (H)			$\pm 3.0\text{mm}$		学 会

### 2. 現場施工 建方その1

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
継手階の階高 H	1日の建方作業量	全 数	$\pm 5\text{mm}$		学 会
梁の水平度 e			$e \leq L/1000 + 3\text{mm}$ かつ $\leq 10\text{mm}$		学 会
柱の倒れ e	1日の建方作業量	全 数	$e \leq H/1000$ かつ $\leq 10\text{mm}$		学 会
仮縮付け			全 数		学 会
建物の倒れ e	各スパンごと	全 数		$e \leq H/2500 + 10\text{mm}$ かつ $e \leq 50\text{mm}$	学 会
建物のわん曲 e	各スパンごと 各 階	全 数		$e \leq H/2500$ かつ $e \leq 25\text{mm}$	学 会

## 2. 現場施工 材料 (高力ボルト)

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
寸法 (径・長さ)	搬入毎	10%	指定寸法		
トルク係数値 及び軸力	同一ロット毎	各5本		JIS又は適用規格	

## 3. 現場施工 高力ボルト接合

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
締付け及び 検査用機器	1日の作業	午前・午後 1回	所要トルクの ±7%程度		標仕
予備締め	ボルト1群毎	10%	M16 1,000程度 M20 M22 1,500程度 M24 2,000程度		
JIS形の 本締付け		10%かつ1個 以上		0.9T <sub>0</sub> ≤ T ≤ 1.1T <sub>0</sub>	標仕

## 3. 現場施工 耐火被服吹付け

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
厚さ	耐火性能別	床版・壁面 1個/2㎡ 以上 柱 1個/1面 以上 梁 3個/6m 以上		0~+5mm	標仕
かさ比重					

## ブロック及びALCパネル工事

### 1. ブロック工事 (ライニングブロックには適用しない)

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
鉄筋の加工寸法	加工形状ごと				
主要墨	各交差点				
縦遣り方	出隅, 入隅, T字箇所				
1日の積み上げ高さ	1日の作業量	全数	1.6m以下		
壁体の仕上りの平坦さ	各壁体面毎				

### 2. ALCパネル工事 (外壁パネル)

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
パネルの建入れ	各壁面毎に	両端・中央 上下2段	±1/750 かつ 3mm以下		
目地部の目違い		パネル相互 3枚毎	±2mm		

## 2. ALCパネル工事（間仕切壁パネル）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
パネルの 建入れ	各壁面毎に	両端・中央 上下2段	1/750 かつ 3mm 以下		
目地部の 目違い		パネル相互 3枚毎	±2mm		

## 2. ALCパネル工事（屋根・床パネル）

項目	検査ロットの大きさ	抜取り個数	標準許容差値	基準許容差値	備考
パネルの かかり代寸法	1日の作業量	全数		主要支点間距離の 1/75 かつ 40mm 以上	学会

（注）備考の略字は次による。

- (1) 標 仕・・・・・・公共建築工事標準仕様書による。
- (2) 指 針・・・・・・建築工事監理指針による。
- (3) 学 会・・・・・・日本建築学会・建築工事標準仕様書による。
- (4) ( )・・・・・・内は公共住宅建設工事共通仕様書による。